文部科学省調査研究事業

「多様性に応じた
新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信
及び
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

令和5年度　最終年度報告書

神奈川県立横浜修悠館高等学校

目次

Ⅰ　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅱ　令和５年度事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

Ⅲ　通信制高等学校の学びの仕組みと横浜修悠館高等学校の重層的支援・・・９

Ⅳ　令和５年度調査研究事業の内容及び成果と課題・・・・・・・・・・・・・13

１．１班（通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信）

（１）概要　（２）学校全体での取組み　（３）国語

（４）地理歴史・公民　（５）数学　（６）理科

（７－１）保健体育（保健）　（７－２）保健体育（体育）

（８）芸術（全体）　（８－１）芸術（音楽）　（８－２）芸術（美術）

（８－３）芸術（工芸）　（８－４）芸術（書道）　（９）外国語

⑽家庭　⑾情報　⑿修悠館ピクトグラムプロジェクト

２．２班（横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及）

（１）概要　（２）トライ教室　（３）架け橋教室　（４）キャリア・ポート

（５）キャリアＩＣ

Ⅴ　「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」に関する成果発表会報告・90

Ⅰ はじめに

新教育課程での学習がスタートして２年目を迎えました。新学習指導要領では、子供が何をどのように学ぶか、何ができるようになるかという観点で「主体的・対話的で深い学び」を実現させるという目標があり、その効果的実践が重要視されています。また「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っており「指導と評価の一体化」をさらに進める必要性があります。

高等学校の生徒数推移では、近年、全日制、定時制課程の生徒数は全体として減少傾向にある中で通信制課程は増加傾向にあります。通信制高校における柔軟な学びのシステムと共に教育の質の確保が求められるとともに、通信制高校が担う役割も変化しています。

とりわけ公立通信制高校に通う生徒の特性や家庭環境等の多様化もさらに進んでおり、本校においても学び直し支援から社会とつながるキャリア支援に至るまで、教育活動全体を通じて個別最適な学びが求められています。

そのような中、本校５期目の文部科学省研究事業３年目（最終年）では、①通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信②横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及の２つのテーマを設定し、全ての生徒たちの可能性を引き出すために、研究プロジェクトチームを中心とした検討会議や、教科等横断的な視点を踏まえた研修会などを重ね「レポートが変わればスクーリングも変わる」を合言葉に様々な視点から研究を深め、通信制における新たな学習モデルを構築することができました。

本校は、通信教育に対する多様なニーズに対応し、「日曜講座」「ＩＴ講座」「平日講座」を科目ごとに選べる新しいタイプの公立通信制単独校（単位制による通信制の課程・普通科）として平成 20 年４月に開校し 16 年が経ち、開校以来、文部科学省の研究事業に取り組んできたところです。

平成 21-22 年：「高等学校における発達障がいのある生徒の支援」
平成 24-26 年：「高等学校における特別な教育的ニーズを有する生徒の自立及び円滑な社会参加を可能とする教育課程の編成及び指導方法、評価方法の検討」
平成 27-29 年：「定時制・通信制課程における支援相談体制の構築
—外部機関とのネットワークづくりや重層的支援の充実を通して— 」
平成 30-令和２年：「通信制課程における多様な学習ニーズを支える持続可能な体制の構築」
令和３－５年　：「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」
—通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信及び横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及—

本研究成果が全国の高等学校通信制教育に携わる多くの先生方と共有できますことを期待します。

令和６年３月

神奈川県立横浜修悠館高等学校
校長　米山　教子

Ⅱ　令和５年度事業計画

１　調査研究課題名

「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信　及び
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

２　調査研究の目的

多様化する生徒の教育的ニーズに応じるため、次の２点を目的とする。

（１）通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信について、レポート・スクーリングの改訂という視点での見直しを行う。令和４年度から新学習指導要領が実施されていることに伴い、レポート・スクーリングの大幅な改訂が必要となった。その際に、全教科において、深い学びにつながる探究的な問いを設定し、また、生徒が見通しをもってレポート学習やスクーリングに取り組めるようにするために観点別評価「思考・判断・表現」の評価基準《目標の達成度》（ルーブリック評価）を活用して設定した。また、探究的な問いについては、ＩＣＴ活用の機会を増やすことにより生徒の学習活動を活性化させ、生徒の学びの変容を見取っている。

さらに探究的な学びを支援するため、新たに電子図書館の開設・普及を進め、これまで学校全体で進めてきたＩＣＴ環境のさらなる充実と活用に努めている。特にスクーリングにおけるＩＣＴの有効活用を研究することで、生徒の特性や学習環境の多様化に応える。

【レポート・スクーリングの見直しについての課題】

【課題①】問いの設定について

・レポートの「問い」の難易度をどのように設定するか。

・数学における正解のない「問い」などのように、深い学びにつながる「問い」をどのように設定するか。

【課題②】わかりやすいルーブリック評価の設定について

・「思考・判断・表現」の「問い」に記載する、生徒にとって学習の見通しが立つわかりやすいルーブリック評価をどのように設定するか。

【課題③】日曜講座・ＩＴ講座受講生徒への指導体制の構築について

・平日講座での継続的な生徒へのＩＣＴ活用による情報の収集・活用・表現をどのように充実させていくか。

・日曜講座・ＩＴ講座は、スクーリングの回数が週１回以下と少ないため、受講者に対してどのように指導しフォローしていくか。

（２）横浜修悠館高校「学習コミュニティ」プログラムの検証、改善、普及

横浜修悠館高校がこれまで 16 年かけて構築してきた個別最適な学びを実現するための、外部の教育的人材を活用した協働的な学びの仕組み「学びのコミュニティ」の成果を検証し、改善充実させ全国に普及していく。

横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」

【トライ教室】小中学校の学びなおし、補習教室

【架け橋教室】外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

【キャリア・ポート（自校通級・他校通級）】高校通級指導

【キャリア活動Ｃ】進路体験活動

活用生徒の単位修得率やキャリア意識・進路実績を分析することで、より効果的な運営方法の提案、活動内容の精選、改善をめざす。また、その成果を広く発信する。

【「学びのコミュニティ」プログラムについての課題】

自由参加である「トライ教室」「架け橋教室」（外部人材を活用した学び直しコミュニティ）は、短期間での効果検証が難しいが、「キャリア・ポート（高校通級指導）」や「キャリア活動Ｃ」は社会参加に向けた明確な目標があり、学習プログラムが豊富で、生徒の変容や学習成果が見取りやすい。

また、これらの定性的指標による柔軟な生徒の成長の見取りは、社会参加を見通した通信制高校の対面による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な事例として大きな意味を持つ。

本校の「学びのコミュニティ」プログラムの改善にあたっては、生徒の変容や学習効果を、どのように見取ってプログラムに反映させるか、定量的指標とともに定性的指標の設定が課題である。

（３）２つの研究テーマによる学習効果の向上

通信制における「ＩＣＴを活用した『主体的・対話的で深い学び』の実践」スクーリングでは、多様な背景を持つ生徒が、「問い」に対する他者の意見を得た上で、自分の考えを深めることができる。また、レポートのルーブリック評価を自ら行うことで、学習に見通しと意欲が持てるようになる。

「キャリア・ポート(高校通級指導)」「キャリア活動Ｃ」では、生徒が自己理解を深めることによって、自信を持って社会参加できるようになる。

また、学びのコミュニティを通じた協働的な学びによって学習意欲が高まり、学習内容が「わかる」ことの楽しさを求めて「トライ教室」「架け橋教室」に通い続けるという好循環が生まれる。まさに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学習の効果である。

３　調査研究の内容・方法・実施体制

（１）調査研究の内容・方法

①通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

〇教育課程上の位置付け令和３年度～令和５年度

・新学習指導要領新規開講 40 科目のレポートとスクーリング内容改訂。

・レポートに提示するための、深い学びにつながる問いや探究的な問いを教科で開発する。

・探究的な問いに対する学習の見通しが立てやすくなるよう、評価基準《目標の達成度》（ルーブリック評価）を検討し、レポート観点別評価「思考・判断・表現」に組み込む。

・令和６年度開講科目レポートの新規作成（探究的な学びについての共通認識を持つ)、研究チームの検討、企画会議

○協力機関等との役割分担

・ＩＣＴを活用した様々な学習支援体制の整備のために教員３名とＩＣＴ支援員２名が協働する。

② 横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」改善普及

学習コミュニティ	教育課程上の位置づけ	実施場所	協力機関等
【トライ教室】 学びなおし 補習	月水木⑤⑥限 自由参加	本校 ＵＤ教室	教員８名 ＹＳＫサポーター （学習支援ボランティア）８名
【架け橋教室】 外国につながりのある生徒への 学習支援・生活支援	火水木 11～14 時 教科「国際」 科目「日本語」 ２単位	本校 社会学習室	教員３名 多文化教育コーディネーター１名 会計年度任用職員１名 学習支援員３名
【高校通級指導】 自校通級 他校通級	月①木④ 隔週日④⑤ 「自立活動ｷｬﾘｱ･ﾎﾟｰﾄ」 35 時間１単位	本校 ＵＤ教室	教員 10 名 高校教育課２名 総合教育センター１名
【キャリア活動】 進路体験活動	火⑤⑥限 「キャリアＩＣ」 ２単位	本校 ＵＤ教室	教員８名 湘南・横浜若者サポートステーション職員２名 キャリアアドバイザー４名

※ＵＤ教室：本校学習環境のユニバーサルデザイン集「修悠館スタンダード」にのっとり、天吊りプロジェクターと大きなスクリーンのほか、黒板の周りに掲示物のない、生徒が集中できる教室。

（２）調査研究の実施体制

本校に在籍している多様な生徒に対し、図１・図２（本書Ｐ．７～８）のような実施体制で２つの視点から調査・研究を進める。

①通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

日々のレポート学習、スクーリングの工夫・実践を積み重ねることにより、卒業後に変化の激しい社会に対応するための力をどのように育成していくのかについて研究する。その際、レポートにおいては新学習指導要領に向けた「深い学び」につながる「問い」の設定や、学びの方向性を示す「ルーブリック評価」の設定など、通信制における「主体的・対話的で深い学び」のあり方について学習モデルを構築していく。スクーリングにおいては、ＩＣＴの効果的な活用により生徒の学びを促進させる方策の検討や、通学型の「平日講座」での出席票の工夫により、レポートの補完だけにとどまらないスクーリングのあり方を検討する。また、通信制の特性を活かした「電子図書館」の体制構築・運用方法の検討を行うことにより、いつでも・どこでも図書資料に触れる環境を提供することにつながり、レポートやスクーリングとの連携も期待できる。

②横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」改善普及

本校の協働的な学びが生徒の学習活動や進路意識に与える影響について定量的・定性的に分析し、効果の検証を行う。その際、学校資源だけでなく、外部の教育資源も有効に活用することで社会につながり、それぞれのニーズに応じた個別最適な支援が実現できるものと考えられる。また、これらの

「学びのコミュニティ」プログラムを全国に発信することにより普及を図る。

4　効果測定等の方法

（１）通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

《定量的指標》

・レポート提出総数が前年比でどのように推移したか。
・スクーリング出席回数が前年比でどのように推移したか。
・試験受験者数が前年比でどれだけ推移したか。
・科目単位修得率が前年比でどれだけ推移したか。
・生徒の意識変容をみるためのアンケートを実施する。
・県実施生徒による授業評価（８項目４段階）年２回

《定性的指標》

・教科会での成績単位修得考察　年２回
・校内職員意識アンケート
・「問い」が生徒の深い学びにどのような影響を与えたか。生徒の学ぶ意欲にどのような効果をもたらしたか。
・生徒が、レポートのパフォーマンス課題（「思考・判断・表現」の部分に主に設定）に取り組むに当たっての見通しが立つルーブリック評価を設定することによって、生徒の学びの質の向上にどのような影響を与えたか。
・深い学びにつながる「問い」について検討を積み重ねた結果、職員の意識にどのような変容が見られたか。

（２）横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及

《定量的指標》

・全体を通して、アンケートや学習の進み具合を数値的に測ることにより、これらのコミュニティの運営方法について検討し、より効果的な学習プログラムを構築していく。

《定性的指標》

・トライ教室（学び直し・補習教室）の活用によって生徒のレポート完成にどのような効果をもたらしたか。
・架け橋教室（外国につながる生徒支援）の活用によって生徒の日本語能力、レポート完成にどのような影響を与えたか。
・キャリアポート（通級指導）において生徒の自立に向けたスキルや意識はどのように変容したか。
・キャリア活動Ｃ（進路講座）において生徒の職業観や就労意識はどのように変容したか。

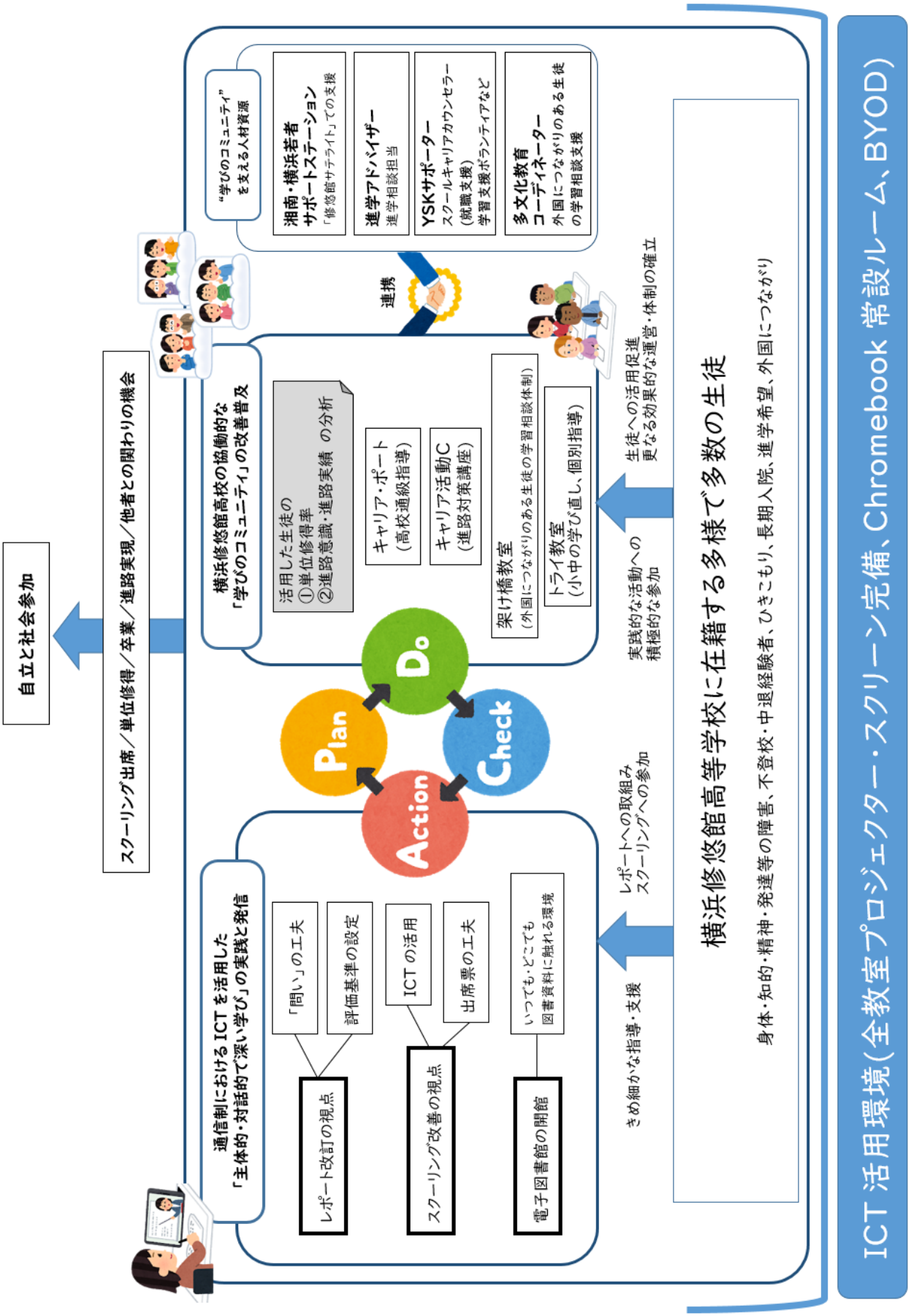

自立と社会参加
スクーリング出席／単位修得／卒業／進路実現／他者との関わりの機会
横浜修悠館高校の協働的な
「学びのコミュニティ」の改善普及
活用した生徒の
①単位修得率
②進路意識・進路実績 の分析
キャリア・ポート
(高校通級指導)
キャリア活動C
(進路対策講座)
架け橋教室
(外国につながりのある生徒の学習相談体制)
トライ教室
(小中の学び直し、個別指導)
"学びのコミュニティ"
を支える人材資源
湘南・横浜若者
サポートステーション
「修悠館サテライト」での支援
進学アドバイザー
進学相談担当
YSKサポーター
スクールキャリアカウンセラー
(就職支援)
学習支援ボランティアなど
多文化教育
コーディネーター
外国につながりのある生徒
の学習相談支援
連携
Plan
Do
Check
Action
通信制における ICT を活用した
「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信
「問い」の工夫
評価基準の設定
レポート改訂の視点
ICT の活用
出席票の工夫
スクーリング改善の視点
いつでも・どこでも
図書資料に触れる環境
電子図書館の開館
レポートへの取組み
スクーリングへの参加
きめ細かな指導・支援
実践的な活動への
積極的な参加
生徒への活用促進
更なる効果的な運営・体制の確立
横浜修悠館高等学校に在籍する多様で多数の生徒
身体・知的・精神・発達等の障害、不登校・中退経験者、ひきこもり、長期入院、進学希望、外国につながり
ICT 活用環境(全教室プロジェクター・スクリーン完備、Chromebook 常設ルーム、BYOD)

図１　研究概要図

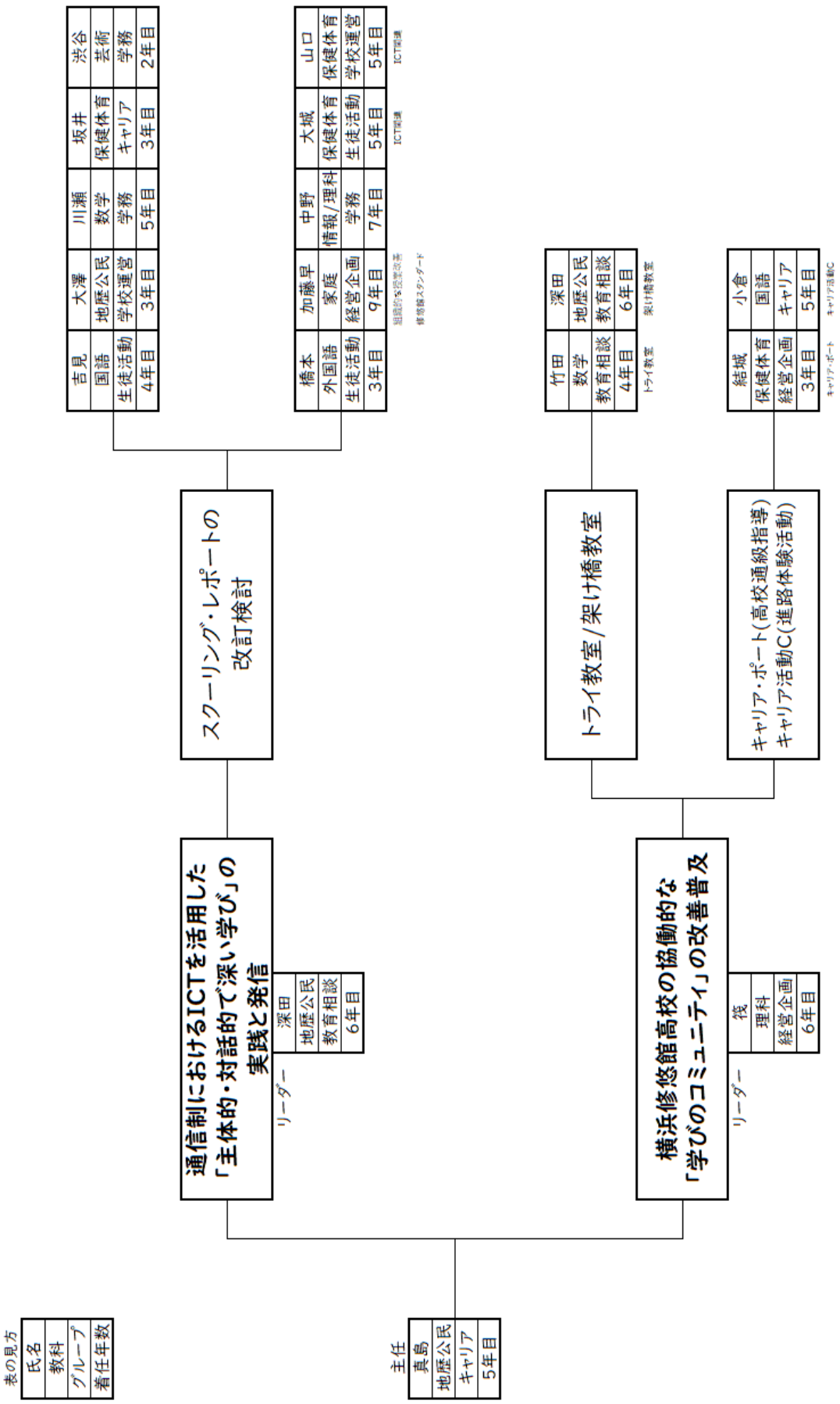

表の見方
氏名
教科
グループ
着任年数
主任
真島
地歴公民
キャリア
5年目
通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信
リーダー
深田
地歴公民
教育相談
6年目
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及
リーダー
筏
理科
経営企画
6年目
スクーリング・レポートの改訂検討
吉見
国語
生徒活動
4年目
大澤
地歴公民
学校運営
3年目
川瀬
数学
学務
5年目
坂井
保健体育
キャリア
3年目
渋谷
芸術
学務
2年目
橋本
外国語
生徒活動
3年目
加藤早
家庭
経営企画
9年目
中野
情報/理科
学務
7年目
大城
保健体育
生徒活動
5年目
山口
保健体育
学校運営
5年目
ICT関連
ICT関連
組織的な授業改善
修悠館スタンダード
トライ教室/架け橋教室
竹田
数学
教育相談
4年目
トライ教室
深田
地歴公民
教育相談
6年目
架け橋教室
キャリア・ポート(高校通級指導)
キャリア活動C(進路体験活動)
結城
保健体育
経営企画
3年目
キャリア・ポート
小倉
国語
キャリア
5年目
キャリア活動C

図2 校内体制図

Ⅲ　通信制高等学校の学びの仕組みと横浜修悠館高等学校の重層的支援

１　通信制高等学校の学びの仕組み

全日制高等学校・定時制高等学校の授業に相当するのは添削指導（レポート）、面接指導（スクーリング）で、教科ごとにそれぞれ標準数が定められている。

【例】

・地理総合（２単位）　：　添削指導回数　６、面接指導時数　２

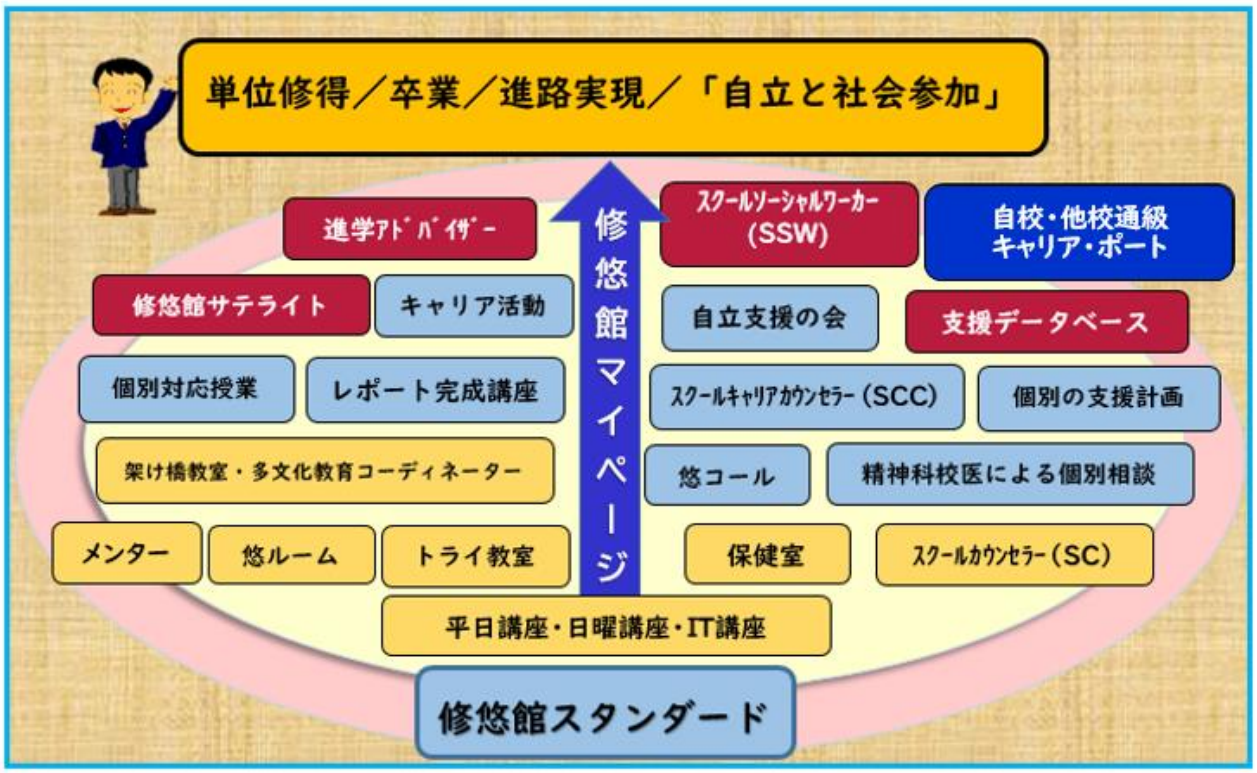
・数学Ⅰ（４単位）　　：　添削指導回数　12、面接指導時数　４

通信制高等学校では、添削指導、面接指導及び試験の実施により教育活動が行われているが。「自学自習」を基本とする従来の通信制高等学校の仕組みの中で 74 単位以上を修得して卒業を目指すには、あきらめずに粘り強く勉強を続ける、強い気持ちが必要となる。

２　横浜修悠館高等学校の重層的支援システム

本校は通信制教育の特性を生かしつつ、様々な課題を有する生徒に対してきめ細かな指導を行っている。社会的自立と社会参加を図るため、「日曜講座」に加え、「平日講座」と「ＩＴ講座」も展開し、生徒を支援する様々なシステム・資源を活用している。

横浜修悠館高校の重層的支援（イメージ）　令和５年５月現在



３　横浜修悠館高等学校の重層的支援（取組みの内容解説）

重層的支援とは、様々な支援プログラムが少しずつ横にずれながら階段状の階層構造をなし、各支援担当者が情報を共有する中で、プログラムにつながった生徒が自ら行動できるようになることを目指す本校の支援システムを示す。

本校開校時からの支援システム

平成 21～22 年度の文部科学省「特別支援教育総合推進事業」、及び、平成 24 年度～26 年度文部科学省指定研究開発学校への取組みを通して構築された支援システム

平成 27～29 年度の文部科学省「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」において構築、充実された支援システム

平成 30～令和２年度の文部科学省「通信制課程における多様な学習ニーズを支える持続可能な体制の構築」において構築、充実された支援システム

（１）本校開校時からの支援システム

①平日講座・日曜講座・ＩＴ講座

平日講座は、公立の通信制高等学校では類例のない、平日に登校する機会を増やし、丁寧でよりきめ細かな面接指導を行う講座。スクーリング設定回数が多い。日曜講座は、従来の通信制の面接指導にあたる講座。ＩＴ講座は、インターネットを活用して、自宅を中心に学習を進める講座。入院や引きこもり状態にある生徒にも学習の機会を提供する。

②メンター

担任以外で相談したい教職員を生徒が指名し、登録する制度。第１回目の相談は、メンターから生徒へ連絡をすることになっている。

③悠ルーム

集団が苦手な生徒の空き時間の居場所として常設。教職員またはＹＳＫサポーター（学習支援ボランティア）が交代で常駐している。平日の午後は自習室として活用(令和５年度～)。

④トライ教室

補習教室。月・水・木の５、６校時に実施。「レポート完成講座」に出席する（教室に入る）こと自体がハードルとして高い生徒等が、ＹＳＫサポーター（学習支援ボランティア）や教職員からマンツーマンで学習のアドバイスや支援を受けることができる。

⑤保健室

養護教諭１名と非常勤養護教諭（29 時間／週）とで運営されている。生徒にとって、よろず相談の場所、心を落ち着かせる場所、学校に来たらまず立ち寄る場所となっている。また、必要に応じて各支援へとつなげる役割を担っている。生徒の時間割が様々なため、すべての時間帯において利用生徒がいる。例として、令和５年５月の利用者数は 726 名（内訳：内科 29、外科 65、こころ 316、その他 316)。

⑥スクールカウンセラー（ＳＣ）

開校時より、拠点校としての配置を受け、週に１日来校している。

⑦架け橋教室・多文化教育コーディネーター

外国につながりのある生徒の総合的な相談支援に対応している。

（２）平成 21～26 年度に構築された支援システム

⑧悠コール

生徒・保護者の悩みに対する専用電話。教職員が電話相談に対応する。

⑨精神科校医による個別相談

本校精神科校医が、個別の相談に対応する。

⑩個別対応スクーリング

スクーリングに参加しているが、なかなかレポートが進まない生徒について、本人・保護者・学校・相談機関等が連携し、本人と保護者の承諾の基に、「個別の指導計画」を立てて指導を行う。

⑪レポート完成講座

平日の補習講座。月・木の５校時に実施。レポートでつまずいた時や平日講座に出席できなかったときに、教員からの指導を個々に受けることができる。

⑫スクールキャリアカウンセラー（ＳＣＣ）

令和元年度から、キャリアアドバイザーからスクールキャリアカウンセラーと名称を変更し、産業カウンセラー有資格者が、ＹＳＫサポーターとして、キャリアガイダンスルームＡに複数名常駐し、就職支援を行う。

⑬個別の支援計画

校内での支援体制づくりと関係機関と連携した支援実施のため、生徒・保護者の了解を得て支援シートを作成し、就業体験や卒業後の就労等へ結びつける。

⑭自立支援の会

参加希望の保護者の勉強会。学習会や見学会を通して、特別な支援を要する生徒の自立と社会参加を視野に、各種支援制度や相談機関、福祉サービス活用の仕方等について保護者に情報提供を行う。

⑮キャリア活動

学校設定教科「キャリア」における学校設定科目。希望者を募り実施している。

・キャリア活動Ｃ：一般就労支援のための講座

・キャリア活動Ｋ：特別な支援を要する生徒の自立と社会参加を目指した通級指導講座

（令和３年度よりキャリア・ポート開講に伴い廃止）

・キャリア活動Ｊ：外国につながりのある生徒の総合支援としての講座

⑯修悠館スタンダード

「発達障がいの生徒にとってないと困る支援は、すべての生徒にとって、あると便利な支援となる」をコンセプトに、スクーリング・レポートのユニバーサルデザイン化、環境調整を行い、学校生活におけるすべての生徒が困難に感じていることを取り除く試み。

（３）平成 27～29 年度において構築、充実された支援システム

⑰修悠館サテライト

「湘南・横浜若者サポートステーション」との連携で設置した相談室。若者支援専門の相談員が、働くことやコミュニケーション等に自信のない生徒の相談に対応し、各種セミナーを実施。

⑱進学アドバイザー

キャリアガイダンスルームＢで、進学に関する相談等を担当している。

⑲スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）

困難を抱える生徒に対して、「環境への働きかけ」や「関係機関とのネットワークの構築」などを行い、問題行動の未然防止や早期解決に向け、週１回来校し対応している。

⑳支援データベース（ＤＢ）

生徒の状況を的確に把握することによって、より適切な支援へとつなげるために、入学時に提出された情報や入学後の本校支援システム利用状況に基づく情報等を、一元化することを目的としたシステム。

（４）平成 30～令和２年度において構築、充実された支援システム

㉑修悠館マイページ

スマートフォンやパソコンで「時間割」「出席・レポート提出状況」「レポート解説教材」を見ることのできるシステム。教員に個別相談することもできる。また、Classi(株)の約３万本の学習動画を繰り返し利用できる。基礎固めから大学受験まで対応できる。

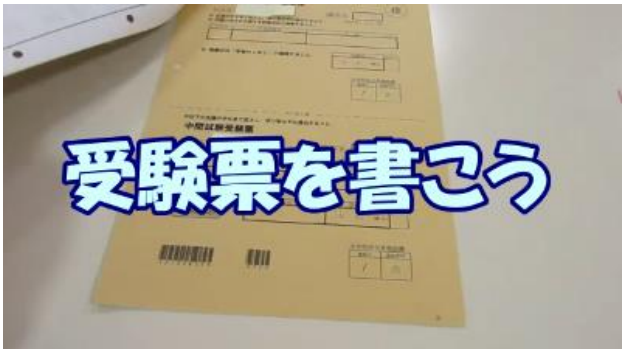
㉒キャリア・ポート

通級による指導。自校通級と他校通級に分けられる。学習上または生活上の困難を改善・克服するため「自立活動」に相当する特別の指導を行っている。本校では、生徒個々の実態に応じ、教室で行う学習活動と校内外におけるさまざまな体験活動を行っている。

《修悠館マイページに掲載されている動画の一例》

【レポート解説動画　地理総合】

【レポート解説動画　体育Ⅱ】



【受験票の書き方解説動画】

【ＩＴ講座の学習方法解説動画】

Ⅳ　令和５年度調査研究事業の内容及び成果と課題

１．１班　（通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信）

（１）概要

新学習指導要領に基づく科目の実施とそれに伴う３観点での統一した観点別評価が導入されることを受け、通信制のレポート学習やスクーリングにおいても、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた改善を進め、その成果を発信していくことを目的に研究を行っている。令和２年度までは、第４期文科省研究事業の中の「ＩＣＴを活用した多様な学習指導」を中心として本校のＩＣＴ環境の整備と利活用が進められてきた。それを土台として、今回の第５期文科省研究事業の１班では、生徒が主体的に取組むことができるレポート、スクーリングおよびＩＣＴ環境の充実をめざし、令和３年度を準備、令和４年度を実践、令和５年度を改善とまとめという計画のもと、研究を進めた。

① スクーリングの改善

教科の枠を超えたスクーリング見学と振り返り、令和４年度実施の職員アンケートおよび教科での生徒アンケートの結果等を踏まえ、スクーリングの中での深い学びにつながる学習活動の研究と改善を、教科の特性も踏まえながら学校全体で実施した。また、こうした３年間の組織的な取組みの成果を、今年度は様々な機会で発信した。

② レポートの改善

今年度は、令和４年度から開講した新課程科目のレポートを運用する中で出てきた成果・課題の分析を、教科横断のレポート検討会や科目担当者同士による会議を中心に行った。また、今年度から開講された新教育課程科目のレポートの運用も開始した。

探究的な問いに対して通信制の生徒が学習に見通しと意欲をもって取組めることを目的とした評価基準について、内容の検討と改善を行った。

③ 電子図書館の開設

本研究の一環として導入した電子図書館の充実化を目指し、環境整備を継続的に進めた。

≪今年度の１班全体スケジュール≫

月	主な内容	年間を通じた活動
５月	今年度の研究の企画・立案と全体周知 前期スクーリング見学週間および研究協議（～７月）	文科省調査研究事業 校内研究担当者打合せ 本校への視察に来られた学校および教育委員会に向けた発信
６月	全通研京都大会での研究発表	
７月	第１回検討会議、生徒によるスクーリングアンケート	
８月	レポート改善のための検討会（全体）	
９月	レポート改善のための検討会（各教科・科目）	
10 月	後期スクーリング見学週間および研究協議	
11 月	文科調査研究事業成果発表会	
12 月	レポート修正のための検討会（各教科・科目）	
１月	令和６年度レポート案の完成	
２月	第２回検討会議	
３月	事業終了、報告書発送	

（２）学校全体での取組み

① 修悠館スタンダードについて

「修悠館スタンダード」は、通信制高校のユニバーサルデザインを基にした学習支援の方法を教職員全体に呼びかけるものであり、単位修得率向上を目指してスタートしたユニバーサルデザイン化が様々な面での変化をもたらしている。「修悠館スタンダード」の重要なコンセプトは「（発達障がいの生徒に対する）ないと困る支援」が、「（すべての生徒にとって）あると便利な支援」になることである。また、教育技術の改善、レポートの体裁や添削の工夫、学習形態や支援体制の工夫、教職員の意識改革にもつながるものであるが、強制力はなく、提案されたものをどこまで実践するかは各担当に委ねられている。そして、「修悠館スタンダード」は、教職員が日々の実践と相互のスクーリング見学の積み重ねの中で気づいたことや改善したことを反映させてバージョンアップを図ってきた。

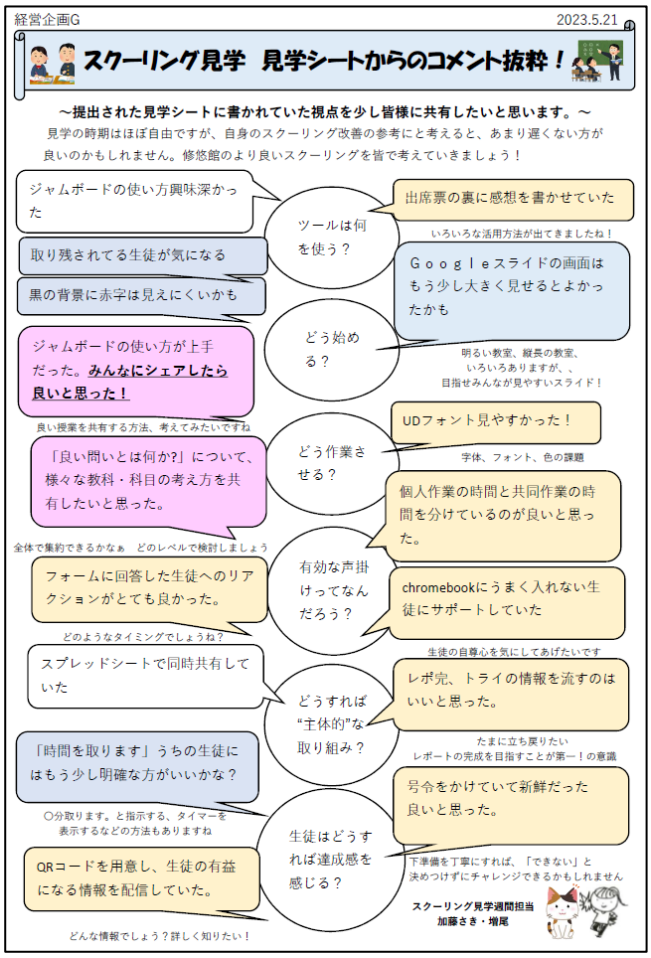
② スクーリング見学週間（教科等横断的な授業改善）

本校では年に２回、教員の授業改善の一環としてスクーリング見学週間を設けている。これは、自教科・他教科に関わらず学校全体として授業改善を目指すもので、「スクーリング見学シート」を用いて見学する視点の共通化を図り、前述した「修悠館スタンダード」の改訂にも反映している。前期は自教科のスクーリングを中心に、特に新着任教員への修悠館スタンダードの共有と、ＩＣＴの活用手段を学校全体で共有することを目的に実施している。後期は他教科のスクーリングを中心に、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、スクーリング中の「問い」に対し生徒の反応も確認してもらいながら見学を実施している。この「主体的・対話的で深い学び」の視点は特に重要である。学習指導要領の改訂に合わせて、レポートの中に探究的な問いを入れている。これに伴い、スクーリングでも深い学びや探究的な問いを意識した授業デザインが各教員に求められている。下の写真は、実際のスクーリング見学の様子である。

【スクーリング見学の様子】教員は担当教科に限らず積極的に見学をおこなっている。

今年度はスクーリング見学期間も延長した。右表のように、本研究を通じて、職員全体のスクーリング改善に向けた意識が向上したこと（または見学したいと感じる魅力的なスクーリングが増えたこと）は見学件数の変化にも顕著に表れている。研究終了後の課題は、改善に向けた意識づけをどのように維持していくかである。

	前期	後期
R4	59件	27件
R5	71件	56件



【スクーリング見学の情報共有と見学シートの分析】改善に向けた取組みにより質の向上を目指す。

今年度は、前期のスクーリング見学週間に集まった見学シートを基に各教職員のスクーリングの工夫や見学者のコメントをフィードバックした。次のスクーリング見学に行くきっかけを作ったことで、見学数は大きく伸びた。さらに、今年度はスクーリング見学の際にカメラを持参し、共有しやすいように写真を蓄積することも行った。なかなか見学に行く時間が取れない職員でも、写真で様子を知ることができ、自己のスクーリング改善に活かすこともできる。

右の見学シートに記入するコメントには、細かい振り返りや、改善への悩みなど、スクーリングのヒントが多数あり、レイアウトについても、この３年間で修正を重ね、どのような視点でスクーリングを分析するか、検討を重ねてきた。視点を明確にして見学することで、その後の振り返りにおいても議論を深めやすくなった。

令和５年度　第１回　スクーリング見学シート

見学者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

令和５年＿＿＿月＿＿＿日（　　）＿＿＿校時（教室：　　）

科目名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　スクーリング担当者：＿＿＿＿＿＿＿先生

Good Point!!		記述欄
各教科の目標（〇をつける）		ICT・探究的な問い・評価基準・その他(　　)
開始時	準備・開始段階で参考になった点	
指導方法	特に参考になった点	
修悠館スタンダード	※ 使用した場合に記入してください	
	修悠館スタンダードの中から実施されていたこと	
	修悠館スタンダードに取り入れると良さそうなこと	
	どのような効果をもたらしていたか	
ICTの活用	※ 使用した場合に記入してください	
	活用手段（〇をつける）	Power Point・映像資料・アンケートフォーム・その他（　　）
	工夫されていたところはどこか	
	どのような効果をもたらしていたか	
終了時	まとめ・終了時で参考になった点	

〇 全体・教科で共有するとよいと思う事項や自分にとって参考になった点、など

全体

教科

※スクーリング見学終了後、この用紙を経営企画広報 G の電話横の提出ボックスに提出してください。

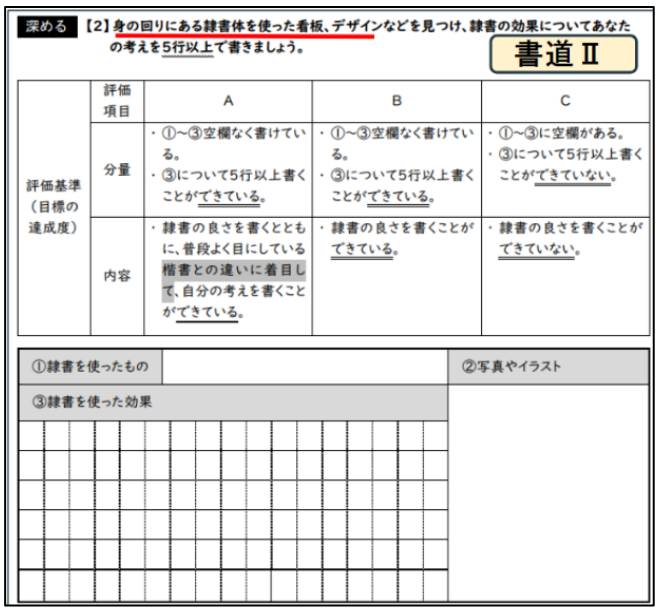
【スクーリング見学シート】

③　新学習指導要領に基づく新教育課程科目レポートの検討会

学習指導要領の改訂に伴い、本研究の取組みとして新教育課程のレポートには探究的な問い（本校では「深める問題」呼ぶ）と、学習の見通しを立てやすくするための「評価基準（目標の達成度）」を導入することになった。今年度は「まとめの年」として、これまで作成したレポート内容と全教科の共通事項の再検討を行った。

共通事項

・探究的な問いには共通の深めるマークを付ける。
・評価基準の文章は評価項目（ＡＢＣ）ごとに比較できるように体裁を整える。どのような点に気を付けて書くのか具体的に示す。
・評価基準は、生徒の見落としが無いように問題文と解答欄の間に設定することを原則とする。



深める　【2】身の回りにある隷書体を使った看板、デザインなどを見つけ、隷書の効果についてあなたの考えを5行以上で書きましょう。　書道Ⅱ

	評価項目	A	B	C
評価基準（目標の達成度）	分量	・①～③空欄なく書けている。 ・③について5行以上書くことができている。	・①～③空欄なく書けている。 ・③について5行以上書くことができている。	・①～③に空欄がある。 ・③について5行以上書くことができていない。
	内容	・隷書の良さを書くとともに、普段よく目にしている楷書との違いに着目して、自分の考えを書くことができている。	・隷書の良さを書くことができている。	・隷書の良さを書くことができていない。

①隷書を使ったもの		②写真やイラスト
③隷書を使った効果		

【 深める 問題の例】

レポート検討会の様子

本研究の一環として、３年間行ってきたレポート検討会は、年々参加者も増し、校内の研究委員だけではなく、管理職も含めた多くの職員が参加し、教科の垣根を越えた活発な議論が行われてきた。検討会での協議は、教科会とは異なり、他教科の教員の視点からもレポート内容を見直すことができる。他教科の職員が生徒の目線に立ってレポートの問題点や分かりにくい点を指摘することで改善が図られ、生徒にとって格段に取組みやすいものになっていく。

もちろん、日頃から行っている教科会や、研究委員の定例ミーティングの中でも年間を通じて継続的に検討を重ねてきたこともあって、学校全体でのレポートの質の向上につながってきたといえる。

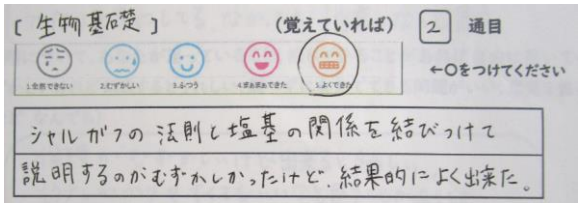
【令和５年度のレポート検討会の様子】

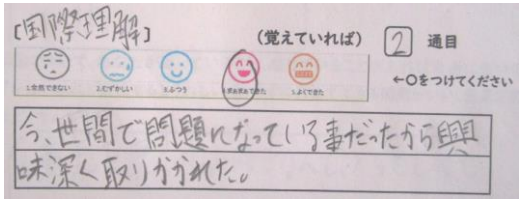
【科目担当者による検討会の様子】

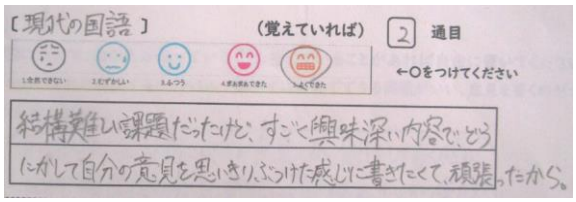
④ 深める問題に関する生徒アンケートについて

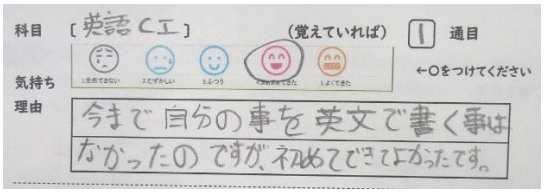
今年度、深める問題と評価基準について、生徒アンケートを行った。以下は、そのアンケートの結果である。なお紙幅の都合上、すべての回答を載せることができないので、一部掲載とする。

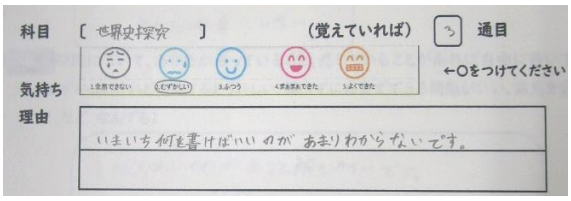
●どの科目の深める問題が印象に残っていますか？

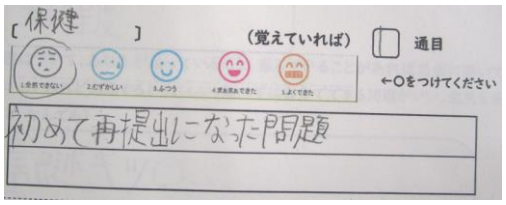

[生物基礎] (覚えていれば) 2 通目 ←○をつけてください
シャルガフの法則と塩基の関係を結びつけて説明するのがむずかしかったけど、結果的によく出来た。

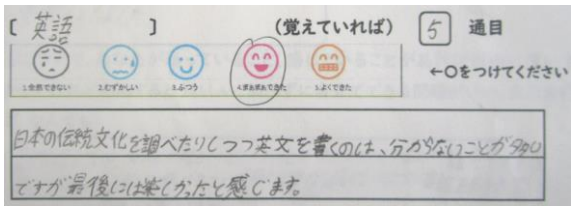

[国際理解] (覚えていれば) 2 通目 ←○をつけてください
今、世間で問題になっている事だったから興味深く取りかかれた。

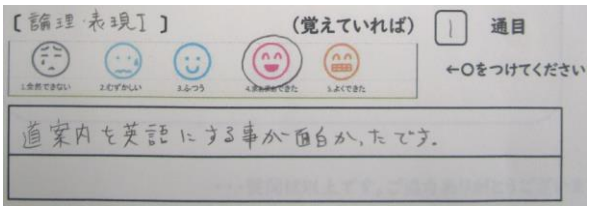

[現代の国語] (覚えていれば) 2 通目 ←○をつけてください
結構難しい課題だったけど、すごく興味深い内容で、どうにかして自分の意見を思いきりぶつけた感じに書きたくて、頑張ったから。

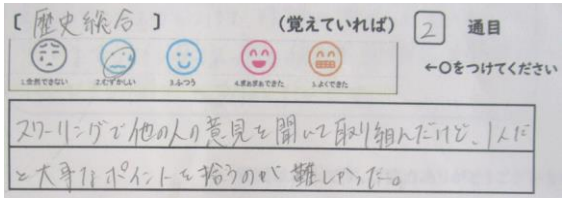

科目 [英語CⅠ] (覚えていれば) 1 通目 ←○をつけてください
気持ち
理由
今まで自分の事を英文で書く事はなかったのですが、初めてできてよかったです。

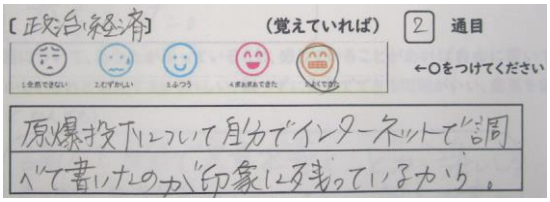

科目 [世界史探究] (覚えていれば) 3 通目 ←○をつけてください
気持ち
理由
いまいち何を書けばいいのかあまりわからないです。


[保健] (覚えていれば) 1 通目 ←○をつけてください
初めて再提出になった問題


[英語] (覚えていれば) 5 通目 ←○をつけてください
日本の伝統文化を調べたりしつつ英文を書くのは、分からないことが多いですが最後には楽しかったと感じます。

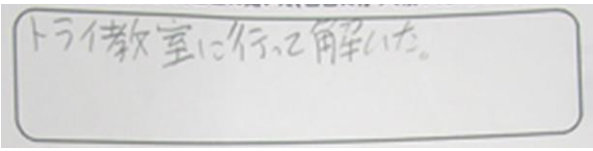

[論理・表現Ⅰ] (覚えていれば) 1 通目 ←○をつけてください
道案内を英語にする事が面白かったです。

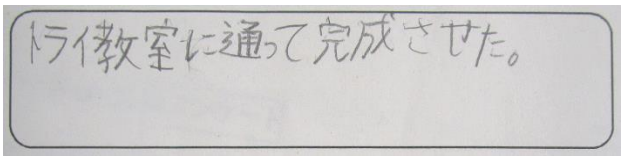

[歴史総合] (覚えていれば) 2 通目 ←○をつけてください
スクーリングで他の人の意見を聞いて取り組んだけど、1人だと大事なポイントを拾うのが難しかった。

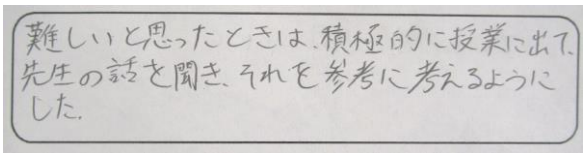

[政治・経済] (覚えていれば) 2 通目 ←○をつけてください
原爆投下について自分でインターネットで調べて書いたのが印象に残っているから。

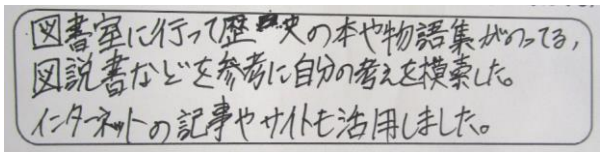
深める問題に関してどのような点が印象に残ったかに対する回答を見てみると、大きく分けて２つのことが読み取れる。１つは、課題に取り組んだり、自分の考えを述べることが難しいと感じつつも、課題への挑戦や学習の成果を振り返って達成感を得ているという点である。もう１つは、教科・科目によっては深める問題で聞かれていることや解答の仕方に苦慮している生徒がいる点である。後者に関しては、作問段階での修正が必要であり、そのためには教科内だけでなく、他教科からの視点による点検や今回のような生徒アンケートを参考にして改善を重ねていけるとよい。

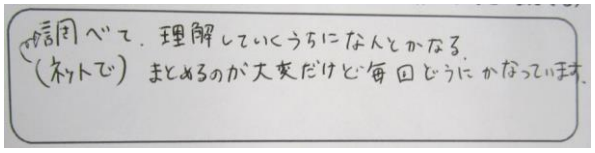
●難しい、全然できないと感じた深める問題があった人は、その問題にどのように取組みましたか？

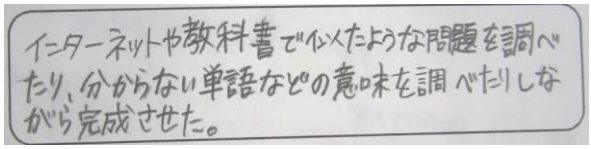

トライ教室に行って解いた。

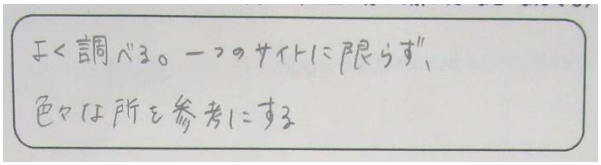

トライ教室に通って完成させた。

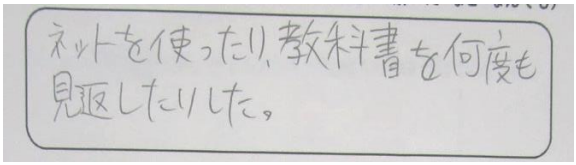

難しいと思ったときは、積極的に授業に出て、先生の話を聞き、それを参考に考えるようにした。


図書室に行って歴史の本や物語集がのってる、図説書などを参考に自分の考えを模索した。インターネットの記事やサイトも活用しました。


調べて、理解していくうちになんとかなる。(ネットで) まとめるのが大変だけど毎回どうにかなっています。

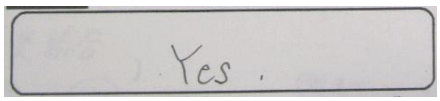

インターネットや教科書で似たような問題を調べたり、分からない単語などの意味を調べたりしながら完成させた。


よく調べる。一つのサイトに限らず、色々な所を参考にする

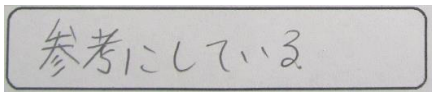

ネットを使ったり、教科書を何度も見返したりした。

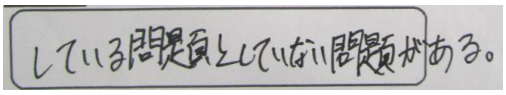
深める問題を難しいと感じた場合に、どのように解決を図ったかという質問について多く見られたのが、教科書やインターネットを用いて「自分で解決を目指す」というようなことが読み取れる回答であった。他方、トライ教室などの活用を挙げた生徒もいた。

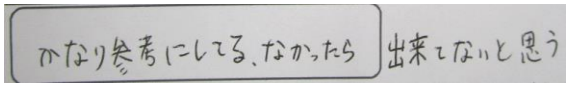
●あなたは深める問題に取組む際に、評価基準を参考にしましたか？


Yes.

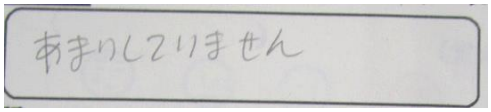
はい

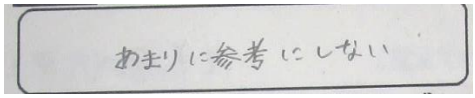

参考にしている


している問題としていない問題がある。


かなり参考にしてる、なかったら出来てないと思う

ある程度


あまりしてりません


あまりに参考にしない

評価基準の活用については、アンケートに回答した生徒の大半が活用したと回答している。中には「かなり参考にしている。なかったら出来てないと思う」と答えている生徒もいる。「あまり参考にしない」という回答もあるが、レポートにはしっかりと取組めているので、その点は問題ないと推測される。

●深める問題について、あなたが思っていること、感じていることがあれば自由に書いてください。

むずかしいですが、授業に出れば分かる（歴史そうごう、ふくしなど）はときやすいです。

今年から、新しく深める問題がでて、去年より少し難しくなったレポートがありました。けれど、この問題がある事で知識や考えが広がるんじゃないかな～と思いました。

○○字以上 ○○字以内 みたいに字数が決められているものは難しいなと思いました。
全体的に苦なく取り組めてはいますが、教科によっては時間がかかるものもありました。

自分の考えを書けるから楽しいけど、考えをつくるのが難しい人にとっては大変だと思う。本を読んで感想を書く形でも良いと思いました。

倫理がむずかしいけど出来るとうれしい。
もう少しわかりやすくてもいいなと思うことがあります。
意見を書くのがほんとにむずかしい。
合格した時のうれしさが一番ある科目だなと思っています。

普段の答えだけを求める問題や選択肢から選ぶ問題ではなく、文章をしっかりと読み、さらにそこから自分で考える事を必要とされる問題で、普通の問題ではあまりつけられない深い思考力をつけられるためとても良いと思う。

自分で調べて取り組む問題が多いから、A評価がとれているかいつも分からない。

明確な答えがない問題が多いので自分で考えたり、調べたりと少し難かしいけど、自分の考えを知れるいい問題だと思った。

自分の考えを書けるから楽しいけど、考えをつくるのが難しい人にとっては大変だと思う。本を読んで感想を書く形でも良いと思いました。

国語や社会は割と自分の意見とか、創作して書く感じだから、時間がかかるし難しいけど、終わった時の達成感がその分多きくて、やりがいがある。

記述キツい…

文章を書くことが難しいから、大変。

最後に、深める問題に対する自由意見を掲載する。全体的に、難しかったけれども達成感につながったという意見が寄せられた。また、スクーリングに出席してアドバイスをもらうことで解けるようになったという意見もあった。レポートの課題に対して試行錯誤しつつ、教員の協力を得ながら学習を進めて合格することで、達成感につながっていることが読み取れる。その点で、深める問題という探究的な問いを検討してきた意義はあったと言える。

（３）国語科

① ３年間の取組み

スクーリングにおいて、出席票の工夫、図書館の利用、ＩＣＴ機器の活用、アンケートの実施などを行ってきた。それらは全て「スクーリングに出席すれば何か新たな刺激が受けられる」ということを目指した結果である。通信制高校ゆえに最低出席回数を満たしさえすれば良い、という考え方もあるのかもしれない。それでもスクーリングが生活リズムの改善につながれば、という想いが我々教員の根底にある。

一方で、様々な事情があり継続したスクーリングへの出席が難しい生徒も、レポートに取り組むことで、自己との対話があり、教材を読み込むことで書き手との対話があり、添削担当者からのコメントを通じて新たな気付きを得てもらいたい。だからこそ、レポート改善に積極的に取組んできた。スクーリングや添削が終わった時点での気づきや改善点は、即時、教科内で共有している次年度に向けた修正専用のレポートに書き込み、レポート改善に活かしている。次年度のレポート作成をする上で、沢山の付箋が貼られた直し専用レポートを見直し、議論を重ねた上でレポ―ト改善を行ってきた。

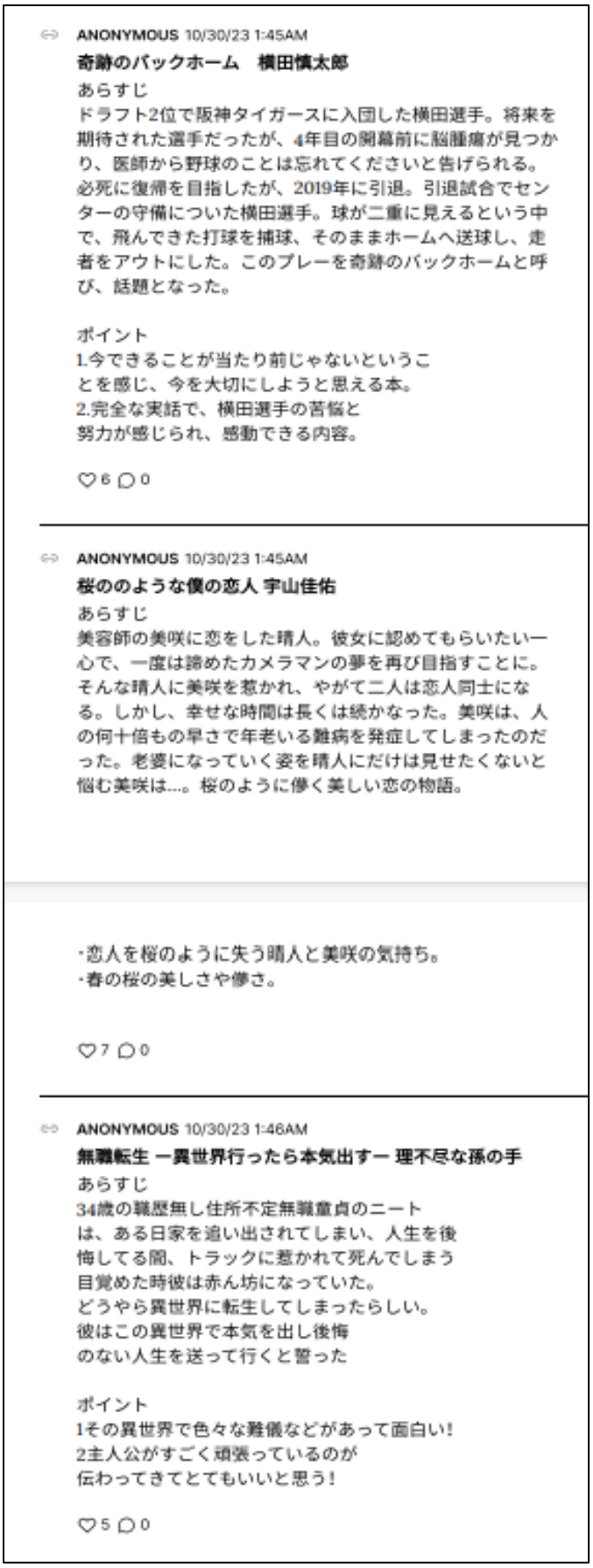
② ３年間の成果と課題

この３年間で一番大きく変化したのは、ＩＣＴ機器の活用である。今ではどの教員もスクーリング時にはスライド（PowerPoint または Google スライド）を用い、生徒に Chromebook や個人のスマートフォン等で意見や感想を入力させるという姿が多くみられるようになった。また、他教科との情報交換やスクーリング見学を通じて、スクーリング時に使いやすいアプリなども検討していった。自分の意見を口に出すのは抵抗が大きいという生徒が多いなか、ＩＣＴ機器と生徒との親和性は非常に高かった。

「国語表現」では小論文を書く導入として、教科書の小論文として書かれた文章とそうでない文章の比較をし、違いをそれぞれ打ち込むようにした。スプレッドシートに打ち込んだものを全体で共有し、「小論文とはどのような文章か。」ということを改めて考えていった。声に出すのは難しくても、打ち込むことで他の人の意見を知るきっかけになっていた。

出席番号	【課題】教科書54ページを読んで、ＡとＢの文章の違いを指摘しよう！
	Aは自分の意見、感想を述べて終わっているのに対してBは意見を述べた後、明確な理由がしっかりと明記され、最後にはしっかりと自分の意見を記入している。
	Aは主観的な意見、Bは客観的な意見
	Aは弁当が嫌な理由ばかりだが、Aは給食の利点についてわかりやすくまとめられている
	aは個人の感想だがBは効率や体のことを考え弁当と給食の良い悪いがわかりやすく述べられている
	Aは好き嫌いの話、Bは意見と根拠を述べている
	Aは美味しいとかいいなと思ったことを言っているBは栄養面や健康をしっかり考えている
	Aは自分の意見Bは根拠を含めて詳細に述べている。
	Aは自分が好きな理由Bは効率などを考えている
	Aは好き嫌いが多いが、Bはなぜ給食がいいかを強く述べている
	Aは個人的な意見だが、Bはしっかり給食の利点などを話している
	Aは自分の意見、好みだけを話しているのに対して、Bは自分がどちらの方が良いと思うのか、客観的な理由を交えて話している。
	Aは自分が考える意見で、Bは相手を納得させる様な意見
	Aは、お弁当が冷たくて嫌い。Bは、給食の栄養バランス
	Aは理由と意見Bは根拠と意見

【国語表現　〔小論文とは？〕小論文（B）とそうでない文章（A）の比較】



【国語表現　〔私のお薦めの本〕の紹介】

同じく「国語表現」で、お薦めの本を紹介する場面では「Padlet」というアプリケーションを用いた。他教科でも使用しているもので、国語科でも活用できるのではないかと実践した。教員や生徒が投稿した内容をそのクラス内で共有でき、「いいね！」のボタンを押したり、コメントをつけたりすることができる。

今回の取組みでは、紹介したい本のあらすじとポイントを簡潔にまとめて共有した。

生徒からは「楽しかった！！」（原文ママ）という声が聞かれた。面と向かってのやりとりが難しい生徒でも、打ち込まれたものに対しては「いいね！」ボタンを気軽に押すことができ、押された生徒も読んでくれたことが視覚的に見えるので嬉しそうにしていた。普段、関わりのない生徒同士でも「いいね！」を押す、押されることでささやかなコミュニケーションが生まれた。

お薦めの本を紹介するのであれば、ビブリオバトルという方法もあるだろう。しかし、人前に出て発表するということに抵抗感を覚える生徒が多い本校ではなかなか実現しなかった。そのような生徒たちが今回の Padlet を用いた活動には前向きに取組むことができ、かなり有効な手段であった。

今回は時間の制約もあり、コメントをつけるまではいかなかったが、自分が書いたものに対して肯定的なコメントがつくのは、自己肯定感の高まりにもつながっていく。コメントに対するレスポンスが繰り返されることで、生徒同士のコミュニケーションの好循環が生まれることも期待できる。

次年度以降、生徒間の相互コミュニケーションを促すツールの一つとして、更なる活用を目指したい。

また、毎回のスクーリング終了時にアンケートを取る教員もいた。感想や気づきだけでなく疑問点も共

有され、教員からの即時フィードバックがあるので、学びを深める上でも良い時間となっていた。

例えば「言語文化」のスクーリングでは、抜き出しの問題に苦手意識がある生徒が複数見られたため、次回のスクーリング時に抜き出し方法の丁寧な解説を行った。

【言語文化　Google Forms による本時の振り返り　一部抜粋】

一方で、対話などの活動を増やすとレポートの内容そのものが満足に扱えない場合がある。もちろん、スクーリング中の活動などはレポートの内容を軸としているが、スクーリング時間の大半が対話的な活動やその振り返りになってしまうと、不安を覚える生徒も出てきてしまう。レポートの解説をしっかりと確保しつつ、生徒の活動の時間も同時に担保するには、十分な振り返りができないなど課題が残った。

「現代の国語」で『水の東西』という評論を扱った際、まとめとして東西の比較をさせた。Jamboard には様々な例があがったが、それを分類・比較するまでには及ばなかった。やはり、生徒に活動をさせるからには、ある程度の時間を確保し、生徒の入力に対する振り返りにつなげることで、意味のある活動にな

るはずである。その場にいる生徒は次回も出席するとは限らず、１回のスクーリングで完結するような活動となるように工夫をしていきたい。

【現代の国語　Jamboard による〔東西の比較〕】

③　今後の展望

スクーリング内での生徒の活動とうまくバランスを取りながらレポート改善を重ねていきたい。生徒に身につけさせたい力を明確にし、自学自習で進める生徒にも、スクーリングに参加してレポートを仕上げる生徒にも、毎回新鮮な驚きを提供できるような内容を目指していきたい。

多様な背景を持つ生徒が多く在籍する本校において、「生徒同士での意見交流はハードルが高くできない。」という先入観を持つことなく、ＩＣＴ機器を効果的に活用し、生徒同士の横のつながりを増やしていきたい。まずは、自分の意見を打ち込む。それをスクリーン上で共有する。同じ教室にいる人の意見や考えを知った後であれば、直接の交流のハードルも少し低くなるのではないかと思う。今年度からレポートに「自分が書いたものを他者に見せ、コメントをもらう。」という課題を設定したが、家族からのコメントが圧倒的多数であった。丁寧に段階を踏み、スクーリング中にコメントをもらう時間を設けていけば、生徒同士の交流も深まり、「スクーリングに参加する」ということに付加価値を与えられるのではないだろうか。

また、意見を書いたり打ち込んだりしてからであれば、こちらが教室を回りながら発言できそうな生徒に「どう考える？」と直接問いかけていくことも可能になっていく。教員の声だけでなく、生徒の声が飛び交う環境を整えていきたい。

各レポートに設定した探究的な問いも、人の考えを知るだけではなく、直接話してみることで新たな気づきや発見ができるようになるはずだ。ＩＣＴの活用を入り口として、新たな扉を開いていきたい。

（４）地理歴史・公民科

①　３年間の取組み（主に新教育課程への移行と、それに伴うレポート改訂について）

１年目：「地理総合」と「公共」のレポート新規作成、ＩＣＴ活用実践の教科内共有。

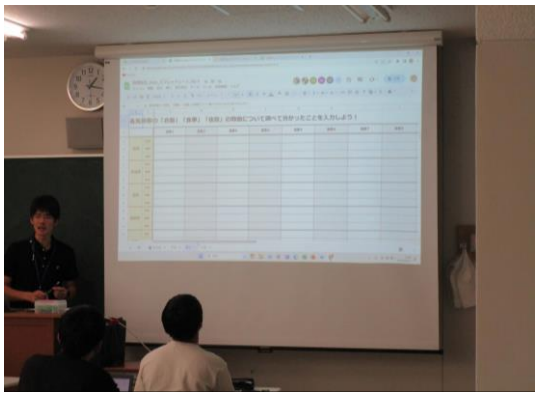
地理歴史・公民科においては知識を習得するスクーリングが一般的で、通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践の具体的な取組みは限定的だった。学校所有の Chromebook や生徒各自のスマートフォンを用いるなどして Google スプレッドシートに意見を打ち込むなど「生徒が協力しながら１つのワークを行う」様子は一部の科目に限られており、担当者により、スクーリングでのＩＣＴ活用の割合に差があった。しかし、先行してそのようなワークをスクーリングに取り入れた教員の実践例は教科内で共有され、主に Google 機能を用いた実践が見られ始めた年となった。

２年目：「地理総合」と「公共」開講、その他の地理歴史・公民科目のレポート新規作成、
およびＩＣＴ活用実践の教科の枠を超えた共有。

「地理Ａ」と「現代社会」に代わって新学習指導要領の年次進行に合わせて「地理総合」と「公共」を開講した。この２科目は、学校全体のレポート改訂の流れを汲み、「主体的で対話的で深い学び」を通信制高校として実現するための探究的な問い（本校においては深める問題と呼ぶ）を掲載した。

新たな２科目を中心に、教科を超えたＩＣＴ活用報告やスクーリング見学はより盛んになり、教員一人ひとりが他教科・他科目で取り入れられた「Kahoot!」や「Slido」、「Jamboard」、「Padlet」などのアプリやツールをスクーリングで積極的に導入した。科目ごとに Google Classroom を作成し、資料や課題、成果物を生徒に共有することが学校全体で組織的に始まったのも、この２年目であった。また、そのようなＩＣＴ活用や話し合いが時間上難しい場合にも、ＮＨＫ高校講座などで探究的な問いかけがある場面を視聴するなど、生徒自身が考えを深める時間を持つ事が留意された。（※本校の日曜スクーリングは、平日のスクーリングでは週に１度、計「３回」に分けて１通のレポートを完成させているところを月に約１度の「１回」分の時間におさめている。）

【図１　地理総合・生徒の机上】



【図２　地理総合・シートを共有している様子】

【図３　公共・番組を視聴する様子】

【図４　公共・雇用について考える場面】

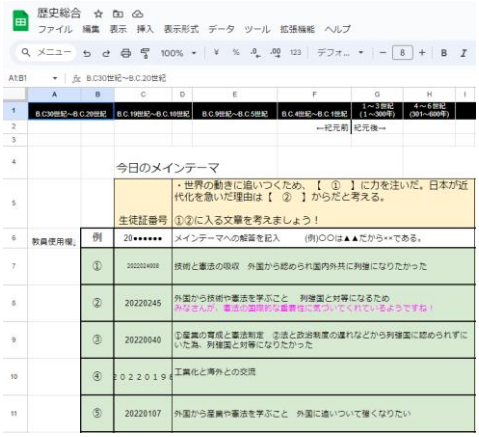
３年目：「歴史総合」などの地理歴史・公民科目開講、「地理総合」や「公共」で担当者間のレポート見直し作業、ＩＣＴ活用実践の習熟と校内外における発表。

今年度は、新たに必履修科目「歴史総合」、上位科目として「日本史探究」、「世界史探究」、「地理探究」、「政治・経済」、「倫理」、学校設定科目として「国際理解」が開講された。学校設定科目の１つを除き、どの新科目のレポートにも深める問題を掲載した。スクーリングは Chromebook 常置の教室で行われ、どのスクーリングでも様々なツールを活用して生徒間のコミュニケーション活動を展開する場面は当たり前のようになった。

令和４年度から令和５年度にかけて始まった新科目のうち、「歴史総合」、「公共」、「日本史探究」、「世界史探究」、「地理探究」の５科目における担当者の具体的な取組みや科目の特性などを以下に示す。

○歴史総合

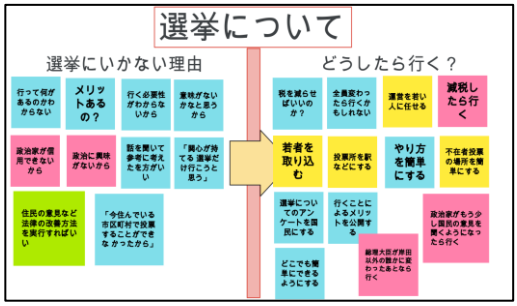
レポートには生徒が自分の意見を書いたり、自分の言葉で文章を完成させたりする問いを載せている。スクーリング中には類似の問いを発し、生徒が自分と他者の意見を比較し合う場を多く設けることができた（図５）。自分と他者の意見を比較するのを楽しいと感じる生徒が思いのほか多く、スクーリング中に意見を出し合うことで学びが深まった。また、自分の意見を出すことは難しいが他者の意見を聞けるのは嬉しいという生徒も多く、ほとんどの生徒が意見共有の場面に対して前向きに取り組むことができた。生徒は史料や風刺画の背景や真意を読み取るのに苦労する様子も見られたが、レポートの表現や解説動画、スクーリングの解説を工夫することで、少しずつ理解を深めることもできた。



【図５　歴史総合：生徒が入力フォームに打ち込んだ意見をスプレッドシート上で共有する様子】

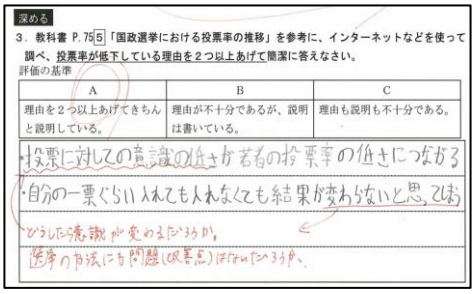
○公共

右の図６は Jamboard を用いて、生徒に「選挙について」スクーリング中に意見を出してもらったものである。３通目レポートの問いに「投票率が低下している理由」を答えるものがあり、スクーリング内では、「選挙にいかない理由」と「改善案」を考える機会を設けた。レポートの問いでは投票率が低下している理由のみを求めていたので、スクーリングの問いかけはレポートの問いに加え、応用課題となっている。



【図６　公共：生徒は選挙に行かない理由を考えたあと、どうしたら行くか意見を共有した。】

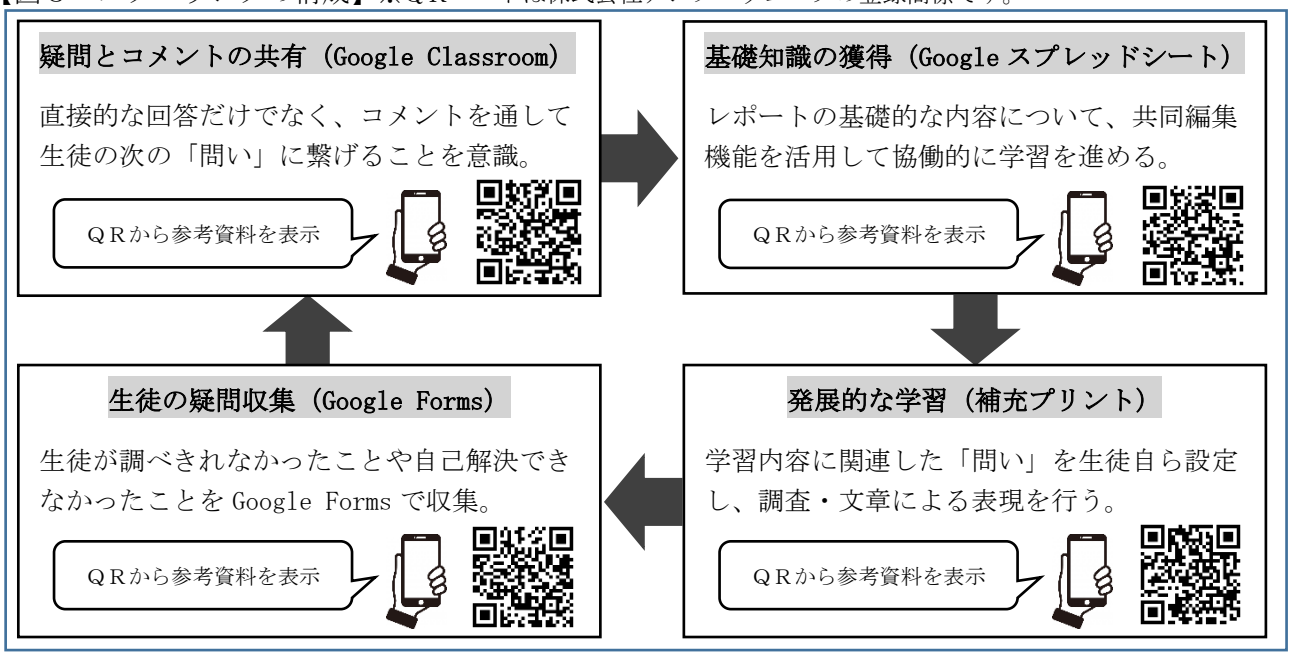
実際の問い「投票率が低下している理由を２つ以上あげなさい」に対する図７の生徒の解答例では、「意識が低いこと」、「自分の一票では結果が変わらない無力感」を理由として表現できてはいるので、そこから生徒の発想がさらに膨らむためにはどういうコメントが良いかを担当者は常に意識した。この場合は「どうしたら意識が変わるだろうか。」などと記入した。



【図７　公共：箇条書きで２つの理由を挙げており「A」評価としたが、より意見が膨らむと良いと思われる文章例】

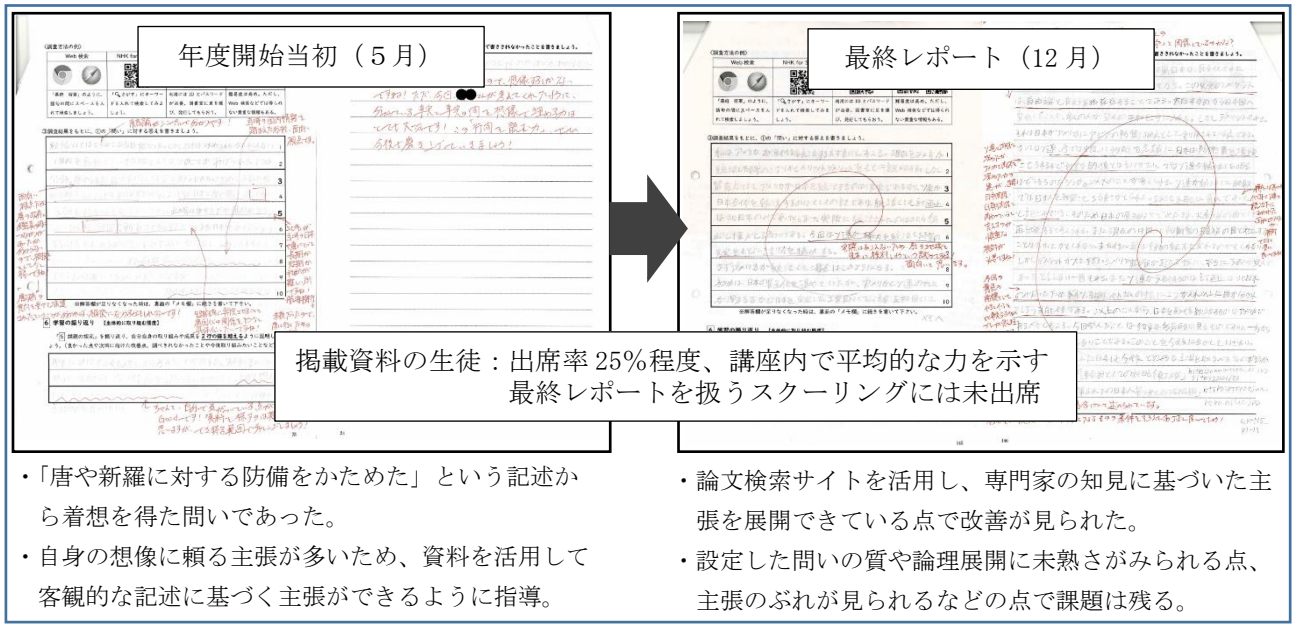
○日本史探究

【図８　スクーリングの構成】※ＱＲコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



ＱＲから下記添削例を拡大表示

【図９「深める問題」取組み例（同じ生徒のレポート内容比較）】

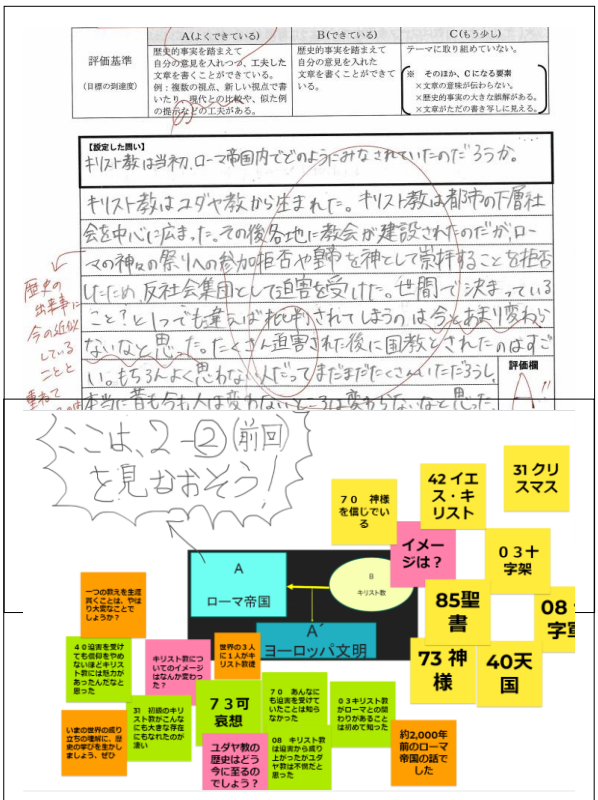


生徒が「自らの興味・関心に応じて自由に問いを設定して探究する場面」を設けた。しかし、生徒によって立てる問いが異なるので、協働的な学びを探究活動的に実現することが今年度は難しかった。また、問いづくりに条件を課しているものの（「一問一答的でなく」、「複数の答えが想定され」、「価値判断の余地がある問い」など）、生徒によって問いの質に差はある。スクーリングの年間の出席回数が少ない生徒は、担当教員からの指導が行き届かず、問いづくりの精度を上げることが難しい。今後は、対面（スクーリング）指導を伴わずとも探究活動をより円滑に進めることができるよう、いつでもどこでも見られる動画資料等の学校独自のＩＴコンテンツの充実に向けて取組みを進めていく。

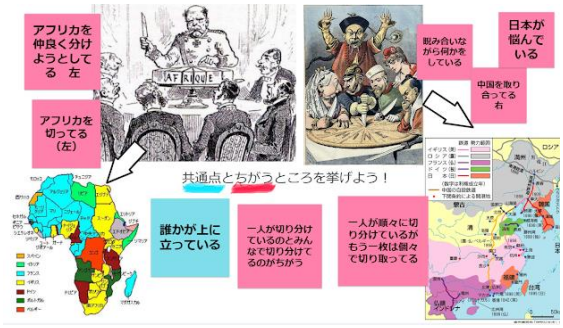
○世界史探究

生徒自身が問いを設定し、関心の深いテーマから探究的な学びを深める姿勢を育むレポートづくりを目指した。評価にあたっては文章の量より質を求め、「自分の意見を書けていること」、「自分の気づきや発見を伝えていくこと」をＡの評価基準とした【図 10】。こうした問いの立て方や取組み方は、レポートの添削指導を通じて継続的に指導した。

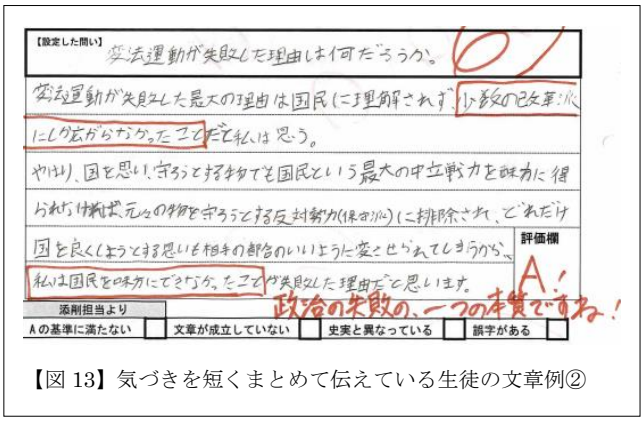
スクーリングにおいては、生徒の興味や関心を広げていくこと、「初めて知ったこと」や「驚いたこと」、「気づいたこと」をほかの生徒や教員と共有する場を設けることに留意した。例えば、【図 11】の例では、「迫害を受けてもやめないほどキリスト教には魅力があったんだと思った」、「キリスト教は成り上がったがユダヤ教は不憫だと思った」（生徒の原文ママ）など、スクーリング参加者のそれぞれの感想が印象的であった。関心を持った点を【図 10】などの課題で表現する余地を残すため、教員は投げかけをする立場に留まった（【図 11】ではピンク色の付箋）。こうした成果物は Google Classroom に残し、当日欠席した生徒とも取組みを共有した。



【図 11　スクーリングを通じてキリスト教をどう学んだ】



【図 12】アフリカ分割と中国分割の違いを考えるワーク



【図 13】気づきを短くまとめて伝えている生徒の文章例②

他教科・他科目にもいえることだが、ＩＣＴの活用によるスクーリングに行う課題の共有（主にスプレッドシートと Jamboard）などは、通信制の生徒のように「一期一会」のスクーリング参加者が同じ課題に取り組むのに有効的なツールである。アプリケーション上に表示されている他者の取組みや意見を見て、自力では手が止まっていた生徒が後半に自分の意見を出せるようになった姿も見られ、世界史を通じて思考を深めることができた。

○地理探究

☆レポートの工夫

構成の統一【図 14】

12 通すべてのレポートの構成を統一している。見開き３ページ(計６ページ)構成として、設問１と７を「主体的に学習に取り組む態度」を見取る設問とし、設問６は、探究的な問いにより「思考・判断・表現」を見取る設問とした。出席を前提としない通信制の学びにおいて、どのタイミングでスクーリングに出席しても同じように学習を進められる仕組みを構築することによって、学習意欲の向上につながり、単位修得率にも良い影響があると仮定している。

観点／設問	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	添削担当者からのコメント
1			A B C	□ 合格です。次のレポートも頑張りましょう！ □ 合格ですが、間違えている問題があるので必ず解き直しましょう。 □ 次の設問を解き直して再提出してください。 設問【　　】 □ 空欄があるので再提出です。 設問【　　】
2	A B C			
3	A B C			
4	A B C			
5	A B C			
6		A B C		
7			A B C	
スクーリング				
総合評価				合 格 再提出　㊞

【図 14　地理探究レポート表紙】

探究的な問い以外に価値判断を問う問題の設定

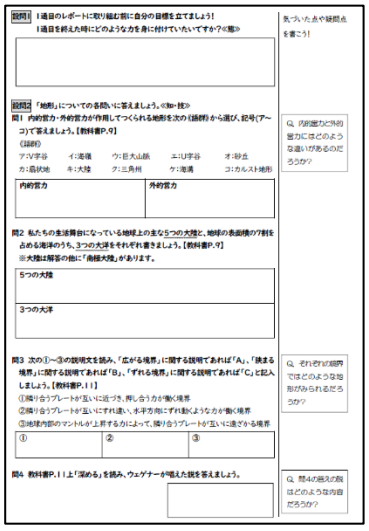
・森林には様々な機能がある。教科書に記載されている機能のうち、**皆さんが最も重要だと思う機能**を１つ選び、理由も併せて答えましょう。（４通目　設問４　問１）

・近年、ＢＲＩＣＳの工業化が注目されている。この５か国には主に、①広大な国土面積、②人口が多い、③資源埋蔵量が多い、④経済の自由化推進、⑤投資の流入、の５つの共通点があるが、**あなたが最も工業化を進めていく上で欠かせないと考える項目**はどれか、①～⑤の項目から１つ選び、理由も併せて考えてみましょう。（６通目　設問３　問１）

地理探究では、答えが一つでない、または答えのない設問を多く設定している。特に価値判断を問う問題では、根拠や理由を明確に示しながら、自らの意見を述べることを求めている。また、探究内容を Google forms で収集し、共有することによって、他者の意見に触れやすい環境をつくり、生徒の視野を広げ、学びを深める土台を築き上げることができる。

レポート右にメモ欄の設定【図 15】

レポート右にスクーリングでの説明や補足、自らの学びをまとめる欄を加えた。生徒アンケートではこのメモ欄に対する好意的な感想が見られた。探究的な問いを立てる上で、このメモ欄が大いに役立ったという記述も見られた。また、学習の視点や評価に入れない情報や問いを掲載することで、さらにレポートの内容を深める工夫としている。

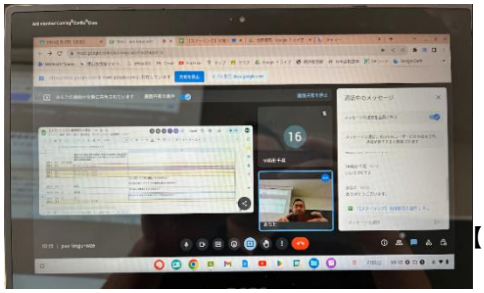


【図 15　地理探究レポート一例】

☆スクーリングの工夫

同時双方向スクーリングに向けての準備【図 16】

ＩＣＴの活用、個別最適な学びを促進するために同時双方向スクーリングの在り方について検討した。Google スプレッドシートや Google　forms を活用したスクーリングのため、自宅からでも無理なく参加できる。生徒アンケートでもオンラインとリアルを併用しながら学びたいとの声が多く、需要の高さが伺えた。今年度は、地理総合・地理探究のみの先行実施であったため、次年度以降は検証結果を学校全体で共有し、同時双方向スクーリングを組織的に進める予定である。



【図 16　同時双方向スクーリング練習の様子】

② ３年間の成果と課題

令和３年度は、文章で答える探究的な問い（深める問題）を掲載したり、他者の意見と共有することで学びが深まる内容にしたりするなど、新教育課程の目標に照らしたレポートの作成と教科のスクーリング改善に向けた構想を練った準備期間とした。

令和４年度の報告においては、下の（表１）のように、新規開講科目であった「地理総合」と「公共」の実質単位修得率が約６割を維持したことを成果とした。両科目は新入生が選ぶ科目群のなかにあり、入学１年目の多くの生徒が、学校の通い方に慣れると同時に、ＩＣＴツールを用いたスクーリングに順応する姿が見られ、新教育課程におけるレポート改訂とスクーリング改善の確かな一歩となった。

（表１）令和４年度の「単位の実質修得率」の表　※★マークは新教育課程対応レポート　※色付きは必履修科目

	通年		通年
地理総合★	６３．６％	公共★	５８．３％
日本史Ａ	６６．５％	倫理	６４．５％
世界史Ａ	５３．３％	政治・経済	７３．０％
日本史Ｂ	７５．７％		
世界史Ｂ	７４．５％		
地理Ｂ	８６．７％		

※　単位を修得した生徒／活動者数（スクーリングに一回以上出席またはレポートを一通以上提出した生徒）の割合（平日講座のみの数字）

※　旧課程では「日本史Ａまたは日本史Ｂ」および「世界史Ａまたは世界史Ｂ」のそれぞれいずれかの履修が「必履修」であった。

令和５年度から新学習指導要領の完全実施となったが、その際の教科の目標は、単位修得率の維持であった。生徒が文章で自分の考えたことを答える問いが増えたことは、生徒にとってレポートの難化といえる変更であり、そのために単位修得や高校卒業のハードルが単純に高くなることは学校の本意ではないため、教科として生徒の興味・関心を喚起し、単位修得に繋げるかが重要な課題であった。

実際の令和５年度の数字が、下の（表２）である。

（表２）令和５年度の「単位の実質修得率」の表　※★マークは新教育課程対応レポート　※色付きは必履修科目

	通年		通年
地理総合★	６５．１％	公共★	６３．０％
歴史総合★	６２．７％	倫理★	７８．４％
日本史探究★	７１．７％	政治・経済★	７２．７％
世界史探究★	７５．４％		
地理探究★	８６．２％		

※　単位を修得した生徒／活動者数（スクーリングに一回以上出席またはレポートを一通以上提出した生徒）の割合（平日講座のみの数字）

成果として、令和４年度から始まった２年目の「地理総合」、「公共」の実質単位修得率が向上したこと、「公共」の方は約５％も上がっていることが挙げられる。また、新しい上位科目のほとんどで令和４年度までの旧科目にあたる科目の修得率以上の数値を出していること、なかでも「倫理」が約 14%も上がったことは大きな成果である。一方で「歴史総合」と「日本史探究」の数値が少し低くなっているが、これは生徒の実態に応じた学習内容の精選に課題があったためと考えられる。全体的には、おおむね一定の成果を達成できたと言えると地理歴史・公民科としては考える。

ただし、「単位の修得率」はあくまで学校の成果の表面的なところといえる。実際に生徒が各科目につ

いてどう捉えているかを把握することも必要である。その一助として、（表３）は校内で集計したスクーリングやレポートに関するアンケートの実施結果である。

（表３）令和５年度　地理歴史・公民科目　生徒による授業評価アンケートの結果（５点満点）

	スクーリング	レポート		スクーリング	レポート
地理総合（67）	４．４	４．５	世界史探究（17）	４．４	４．３
歴史総合（44）	４．３	４．３	地理探究（７）	４．９	４．８
公共（６）	４．４	４．２	政治･経済（５）	３．８	３．８
日本史探究（10）	４．１	３．９	倫理（２）	４．８	４．４

※１　カッコ内の数字は、回答者の総数を表す（平日・日曜を問わず、同名科目は同一集計している）。

※２　「スクーリング」は、スクーリングに対するアンケート項目７つの総合値。最大５。

※３　「レポート」は、レポートに対するアンケート項目１つの値。最大５。

（表３）から読み取れる成果として、必履修科目（色付き）の３科目と、それ以外の上位科目で数値に大きな差がないことがあげられる。他教科（英語や理科、数学など。具体的な数値は割愛する）では、基礎科目のほうのスクーリング・レポートの「わかりやすさ」や「とりくみやすさ」についてほとんどの値が高く、上位科目はその基礎にあたる科目の数値を超えない傾向がみられた（一例：数学Ⅰと数学Ⅱだと、数学Ⅰの数値が高く、物理基礎と物理だと、物理基礎の数値が高い）。

一方、地理歴史・公民科目の上位科目の数値が比較的良いことについては、その科目選択者に科目の内容が好きで履修している生徒が一定数いること、学習に比較的積極的な姿勢の生徒がスクーリングに後期末まで通えていること、そもそもスクーリング前後の担当教員の指示がしっかり聞けている生徒がこのアンケート方法で答えてくれていることなど、科目にさほど関係のない要因も複数考えられる。生徒側の回答者数が増えても同様の結果を得られるのかは不確定であるが、より精度の高いアンケートになるよう努めたい。

（表３）から読み取れる課題の一つとして、「公共」の数値についてあげておく。同じ年度にスタートした必履修科目「地理総合」と同程度の履修生徒数がいるにもかかわらず回答数が著しく少ないこと、かつレポートについての数値が「地理総合」に比べて 0.3 ポイント低くなっている点である。回答数をあげるための呼びかけの工夫等は教科内のみならず学校全体の組織的な取組みに関連しているとしても、「公共」の新レポートが生徒にとって難解な（取組みにくい）内容を含むことは、令和４年度にも話題にあがったので、令和４年度末に修正を加えて、実際に令和５年度の単位修得率も改善した。令和５年度は（表３）の数値が出る以前より「公共」の添削担当者間でレポートの修正の話し合いを重ねており、次年度の「公共」がより生徒にとって取組みやすくなるように進めている。

なお、このアンケートは、スクーリングの開始前・開始直後などで担当者から呼びかけて、出席票の用紙の裏に付けられたＱＲコードをスマートフォン等で読み取り、そのスクーリングに出ていた科目に対して生徒が答えたものである。今後の教科の組織的なスクーリング改善に資するために、年度内で前期１回後期１回のあわせて２回程度のこのようなアンケート機会はとても貴重で、集約した内容をよく検討し重要視したいところであるが、回答率をあげること自体も課題である。本校の他教科のうち、理科は学校システム上でのアンケート周知もしていたので、地理歴史・公民科も次年度に同様の工夫をしたい。

地理歴史・公民科の３年間の成果と本校教員に求められる課題をまとめると、以下のようになる。

【成果】

① スクーリングにおけるＩＣＴの活用が積極的に行われたこと。

②「地理総合」「公共」を中心に、単位の実質修得率を昨年度比で維持したこと。

③「地理探究」「倫理」「世界史探究」など上位科目で高い値の実質単位修得率を達成したこと。

④ 上位科目の新レポートでは、生徒が探究活動をする機会の定期的な設定を意識したこと。

⑤ 一部の科目で同時双方向スクーリングが先行実践されたこと。（地理総合、地理探究）

↕

【本校教員に求められる課題】

① スクーリングにおけるＩＣＴの活用の更なる工夫が必要なこと。

②「公共」のレポート改善を継続していくこと。

③「地理探究」「倫理」「世界史探究」などの上位科目で高い実質単位修得率を維持すること。

④ 探究活動の補助教材（主に動画を想定）を新規に制作すること。

⑤ 同時双方向スクーリングなど新たな試みを全科目に拡大すること。

①については各教科・各科目を通じて「どのようにＩＣＴを活かしているか」を主に取り上げているが、出席生徒の全員が活発に意見を出せているかというと実際には難しい場面もある。なぜなら、教室全体に向けた一斉指示が伝わらない生徒、キーボード入力に慣れていない生徒、自信がなく意見の入力を戸惑っている生徒など、色々なタイプの生徒が在籍しているからである。したがって、生徒の特性に応じてスクーリング担当者が適切な働きかけをすることと、そのノウハウの蓄積が重要である。また、生徒の中にはキーボードを打つのは厳しいが、紙またはスマートフォンのフリック入力なら意見が出せるという生徒も一定数おり、生徒の状況に合わせ、どこまで柔軟に対応するのかといった点も学校として検討すべき課題である。また、ＩＣＴ機器の導入がますます拡大していく中で、こうした事例についての学校全体での議論が進んでいるわけではなく、現状は教員の個別の判断と対応にゆだねられていることも課題である。②と③については、今後も「主体的・対話的で深い学び」につながる魅力あるスクーリングづくりと単位修得率の維持・向上を両立して改善していくことが目標である。④は、日本史探究の項目でも言及しているが、生徒の探究的な学びを主にレポートの取組みで達成しようとする試みは、始まったばかりである。地理歴史・公民科は、環境問題や国際政治、資源、社会のあり方など、生徒の探究的な学びにつながる単元が数多くあるので今後も力を入れたい。

最後に、本研究の前提として、「ＩＣＴの活用」はあくまで「深い学び」を支える補助的な手段であって、先進的なツールを活用していることを目的としたり、それ自体に満足したりしないことを教員間の共通認識として持ち続けたい。

③　今後の展望

学校全体として、教室と外部をつないだ「オンラインスクーリング」の実施に向けた研究も目前となっている。この動きにともない、紙レポートのあり方自体も変わる可能性がある。そこで、地理歴史・公民科の一部の科目で行った先行実践が校内研究のモデルとなり、今後に活かされるようにしていきたい。

地理歴史・公民科としては、新規レポート科目の多くが概ね生徒に受け入れられているという好意的な結果を今年度得られたので、オンラインスクーリングの件も含めて、校内外で積極性のある取組みをしていく科目でありたいと考える。

（５）数学科

① ３年間の取組み

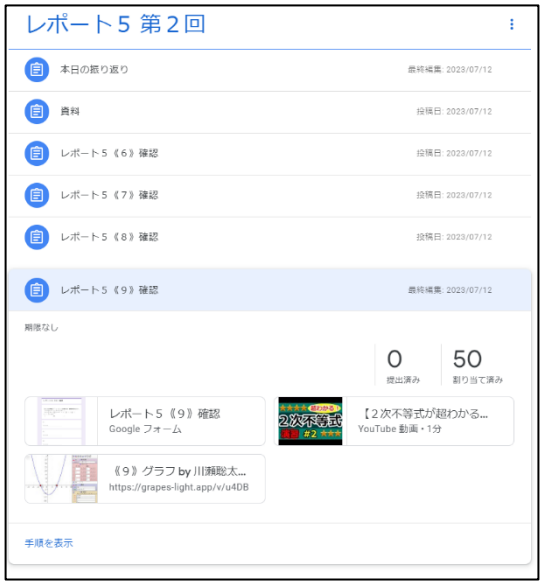
令和３年度、数学科では通信制における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、毎回配る出席表を工夫した。出席票に、生徒自身が立式、法則を考える、文章からの間違いを読み取る、既習事項を活用した応用問題、振り返り等多岐にわたる問題を設定して、その解答は次のスクーリングで共有するという試みを、年間を通して行った。

生徒からは肯定的な感想が多く、継続して行ったことに効果があったと思われるが、考えの共有がリアルタイムにできないことが課題であった。

そこで、次年度以降ではＩＣＴの活用を試みることにした。

【出席表による応用問題】

令和４年度、令和５年度では、生徒が安心して学習に取組めるよう、Google Classroom を利用してレポート学習設計を作成した。内容は「本日の振り返り」「学習資料」「レポートの確認問題と解説動画のリンク付け」等である。学習資料は、本時で扱うレポート問題の補助プリント、スクーリングで解く授業プリント、多くの類題と応用問題をいれた演習プリントの構成とした。確認問題では、Google Forms を用いてレポートと同じ問題を設置して、生徒自身で解答が正しいか判断できるようした。誤答の場合は、正解は表示させず、再度数値を入力できるように設定しており、何度でも学び直しができるようにしてある。



【Google Classroom レポート学習設計】

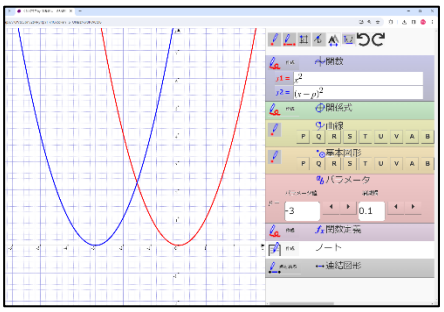
【レポート確認問題の設置】

２次関数の平行移動の単元では、導入で「なぜグラフを学ぶのか」「身のまわりの放物線や曲線はなにか」などグラフを学ぶ上での動機づけを考えさせ、その内容を Google スプレッドシートに入力することで生徒同士の「考えの共有」を図った。また、Google Classroom から関数グラフソフト Grapes にアクセ

スし、生徒自身が操作して関数の係数がどう関係しているかを考察させ、その考えも Google スプレッドシートに入力することで対話的で学びの深まる実践を行った。

【動機づけを入力】

【平行移動の考察】

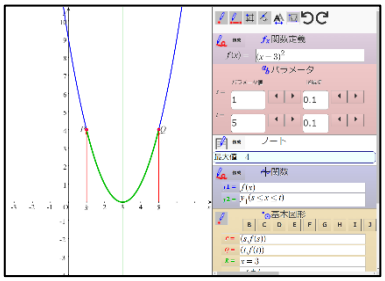


【Grapes の操作画面】

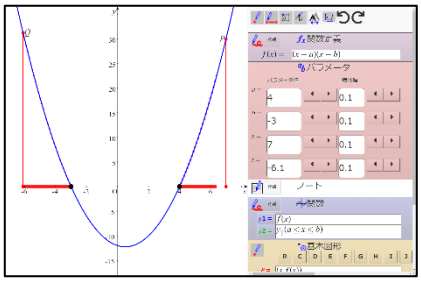
	A	B	C	D	E	F	G
1	授業の最後に自己評価（classroom内振り返りシートの欄）しましょう。						
2	出席番の番号	生徒証番号	《1》グラフはなぜ必要？あなたの考え	《2》「y=ax^2」aの値を変えると？	《4》身のまわりの放物線は？	《5》「y=ax^2+q」qを変えると？	《6》「y=a(x-p)^2」pを変えると？
3	1		数字の関係が分かりやすくなるから。	0に近づくにつれグラフが開いていく	かまぼこ	正の数だと上に動き、負の数だと下に動いた	左右に移動している。
4	2		数を比較したり、数量を理解するためだから。	原点からは動かない	コップの口		+の値だと左、マイナスだと右
5	3		グラフで表すと見やすい。	幅が変わる	iPhoneの四隅	上下に移動	x軸上を移動した
6	4		ぱっと見で数値の変化をわかるようにするため	負の数になると向き？が変わる	パラボナアンテナ		
7	5		数値の変化を見やすくするため。	だんだんY軸に近づく	虹	形は変えず、上下に移動	形はそのままで、左右に移動
8	6		様々な数値を比較するのに便利だから。	真ん中が折れ曲がるように変化する。	バスケのシュートの軌道。	形を変えずに上下している。	形を変えずに左右に移動している。
9	7		日常生活の様々な場所で用いるから	数を大きくするとグラフの幅が狭くなっていき小さくすると広がっていく	校庭のライン		左右に移動する
10	8		数量や式を分かりやすく伝えるために必要。	大きくなればなるほど長くなっている	校舎遮ミサイル	上下に移動する	
11	9		見てる相手を説得しやすくなる	0になると直線になる	お金		
12	10		数を比較するのに分かりやすくするため	マイナスだと凹凸が変わる	花火のタレルやつ	aの時みたいに、グラフの形は変わらないけど、上下に動く	今回もaの時みたいに、グラフの形は変わらないけど、左右に動く
13	11		数を比較するため	グラフの幅が変わる	噴水		左右に移動する
14	12		今後の受験で問題として出てくるかもしれないから	aが０に近づくと曲線が緩やかになる	横から見た山	頂点が必ず０にならなくなった	形を変えずに左右に移動した
15	13		数の比較等を一目で理解するため。	aが0に近づくなると幅が広くなる。	分度器、アナログ時計	形を変えずに上下した。	形を変えずに左右に移動。
16	14		利益をグラフにし、どこが黒字でどこが赤字かを理解するため。	大きな数値にしても軸とは重ならない	扇風機	+だと上、−だと下	
17	15		数値を見やすくわかりやすく理解するため	0に近い数字はX軸に近く逆に0から離れた大きな数値はY軸に近くなる	投げたボールの軌道	qの数ほどx軸から離れｙ軸上で頂点が変化する	なぜか左右に移動した
18	16		データを比較するときに、見やすくなるし、分かりやすくなるから。	幅が広くなったり、狭くなったりしている」	ボールの飛び方	形が変わらず、原点のいちが変わった	
19	17		数の比較、数式だけではなく一目でわかるから。	aの値が小さくなると曲線が狭まる	ブランコの振り幅	頂点の位置が変化した	
20	18		良い資料をつくるため	数を大きくすると狭まり、小さくすると広がる	ボール	形は変わらず上下に移動する	形は変わらず左右に移動する

【スクーリングで使用した Google スプレッドシートの一例】

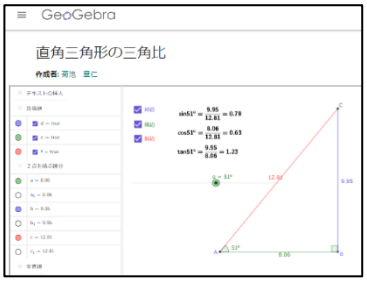
２次関数の最大値と最小値および２次不等式の単元でも関数グラフソフト Grapes を利用し、視覚的に最大値と最小値の判断や不等式の解の範囲を捉えることができるよう指導した。また、三角比の単元では、Google Classroom から関数グラフソフト GeoGebra にアクセスさせ、三角比の値が角の大きさによって決まること、任意の三角形で正弦定理が成り立つこと、余弦定理の証明を生徒自身が画面上で図形を動かし考察させた。※GeoGebra の内容は、インターネット上に公開されている作品を使用している。



【最大値・最小値の考察】



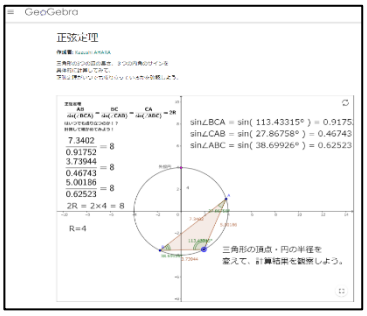
【２次不等式の考察】



【三角比の値】

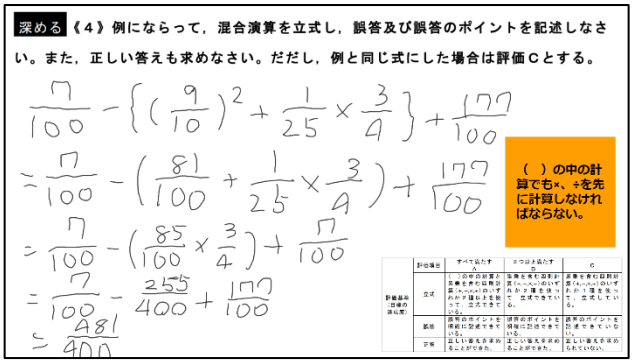
【最大値・最小値の考察】

【２次不等式の考察】

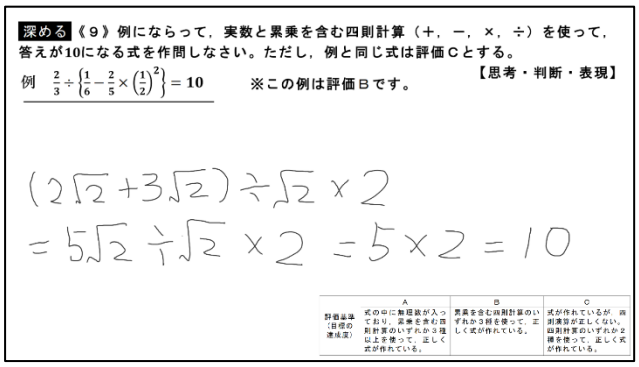


【正弦定理の証明】

レポートの問題の中で、生徒が立式をして誤答を考えさせる問い等を入れており、それを生徒間で共有するため、Jamboard を用いて画面上で記載してもらった。これらを参考にさせることで、手が止まっていた生徒も立式をする様子が見られた。

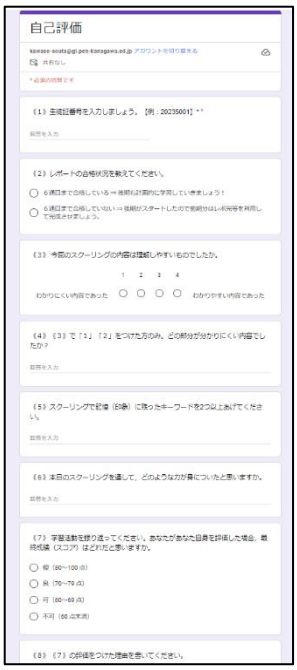


【Jamboard を用いた四則演算の誤答の共有】



【Jamboard を用いた有理数を含む四則演算の共有】

三角比の利用では、校舎の高さを予想させ Google スプレッドシートで予想値の共有をした。その後、簡易的な測定器を用いて、校舎を見上げた時の仰角を測り、その数値をもとにして校舎の高さを計算し、その結果も共有をした。結果の数値がバラバラになったため、なぜ誤差が出たのかを考察し、その内容も共有をした。数学的な活動として、「帰納的に調べることで成り立つ事柄を予想」⇒「演繹的に推論」⇒「事柄が成り立つ理由を数学的に説明」をすることで、生徒の考えを深めさせた。そしてスクーリングの最後には、Google フォームを用いて自己評価活動を取り入れた。内容は生徒自身の取組み状況と何ができるようになったか、何が身についたかを振り返るものとした。なお、自己評価については、毎回スクーリングの最後に実施している。

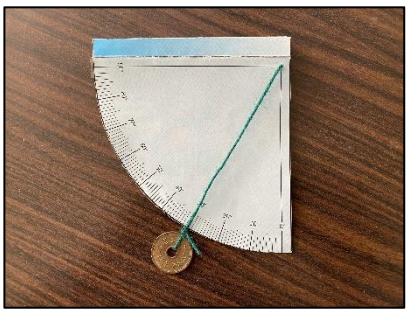


【自己評価内容】

【自己評価結果】

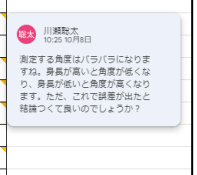
【半径 10mの弧をかく】

【仰角の測定】



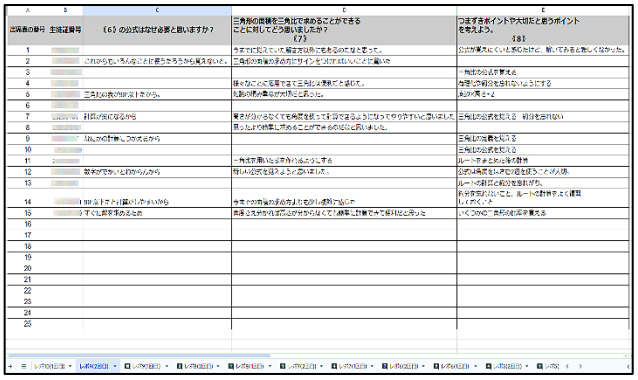
【簡易的な測定器】

2	出席表の番号	生徒証番号	B棟の高さは？（予想）	測った角度は？	計算上のＢ棟の高さは？	皆の数値から考察できることは？
3	1		7m	43	10.8	目の高さの違いで角度がバラバラになっている？
4	2		10m	42	10.4	
5	3		10m	31	7.47	身長がバラバラだから
6	4		10m	30	7.23	
7	5		20m	50	11.9	角度を測った際の身長で目線が異なることによる多少のズレ
8	6		9m	49	12,9m	目で角度を測ったため少しズレが生じた
9	7		12m	45	11.5m	地面が0mの高さから測っていないから
10	8		7m	47	12.1m	
11	9		11m	50	12.4m	身長の違いと四捨五入したときの差
12	10		10m	31	7,5m	
13	11		11m	41	10,1m	みんな同じ位置に立ったが、角度を図る場所は一箇所だけではなかったため、角度がバラバラになった。あと手ブレ
14	12		9m	40	9.9m	目の高さの違い
15	13		13m	53	14.9m	測ったときの目線の違い
16	14		１２m	50	13.1m	



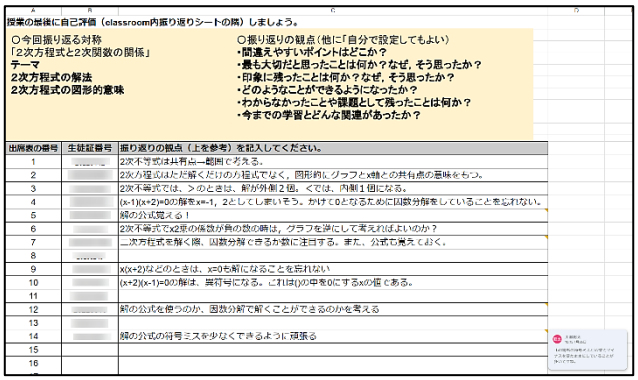
【スクーリングで使用した Google スプレッドシートの一例】

その他に、Google スプレッドシートの利用として、各問題でのつまずきポイントや気づいたことは何か、スクーリングで新たに得た学びは何かを入力する場面を設けた。あわせて、振り返りの観点を提示して、それに対して振り返りを入力させて、意見の共有を図った。入力された文言には、毎回教員からコメントを入力した。生徒が記入したものを返すとき、教員のコメントの有無で、その後の学習意欲に大きな影響を与える。教員のコメントの確認は、次回のスクーリング開始前に振り返りシートを開かせ、内容を紹介するなどをして、スクーリングのフィードバックを行った。なお、このときに前回の自己評価の内容も振り返るようにしている。振り返りシートに関しては、同じスプレッドシートを用いて、タブをクリックすればいつでも共有内容を確認できるようにしてある。



出席番号	生徒証番号	（6）の公式はなぜ必要と思いますか？	三角形の底辺を三角比で求めることができることに対してどう思いましたか？（7）	つまずき箇所や大切だと思うポイントを考えよう。（8）
1			うまくに気づいて解答が出ることをのべなと思った。	公式が覚えにくいと思ったけど、解いてみると楽しくなかった。
2		これからもいろんなことに使うこともあるから覚えないと。	三角形の面積は形の方がインをつかわないことが多いから	
3				一角形の公式が覚えれる
4			様々なことに応用できて三角比の勉強ができると思った。	角度が複雑なものはないようにする
5		三角形の面積は基本だから。	九角の形の面積が大切だと思った。	必ず覚えよう
6				
7		計算が楽になるから	覚えれば楽になるので有効であるように思ってやり方やすいと思いました。	三角形の公式を覚える　約分を忘れない
8			覚えるより特殊に求めることができるのはとても良いと思いました。	
9		角、2つの計算しこの公式から		三角形の面積を知る
10				三角比の公式を覚える
11			一角形面積は公式作りがムズかしい	ルートを求めれる様な数値
12		数学が苦手いと約分ムズかしいから。	公式の角度はレポ2の問題を使うことが大切。	公式の角度はレポ2の問題を使うことが大切。
13				ルートの計算と約分を意識する。
14		1 ルートとかは間違いやすいから	今までの面積の形のなかなかむずかしいと思いました	約分をするとルートの計算がよく間違いやすいと思った
15		簡単にすぐに解答出るから	角度と長さが分かれば公式がなかなかむずかしい。簡単に計算できて便利だと思った	いくつかの「長さ」の関係を覚える
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

【本日の振り返り（三角比を利用した三角形の面積）】



授業の最後に自己評価（classroom内振り返りシートの隣）しましょう。

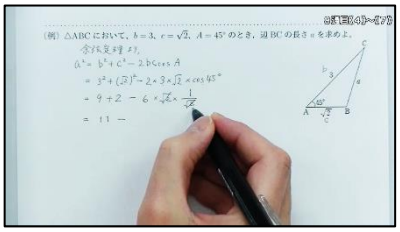
○今回振り返る対称
「2次方程式と2次関数の関係」
テーマ
2次方程式の解法
2次方程式の図形的意味

○振り返りの観点（他に「自分で設定してもよい）
・間違えやすいポイントはどこか？
・最も大切だと思ったことは何か？なぜ、そう思ったか？
・印象に残ったことは何か？なぜ、そう思ったか？
・どのようなことができるようになったか？
・わからなかったことや課題として残ったことは何か？
・今までの学習とどんな関連があったか？

出席番号	生徒証番号	振り返りの観点（上を参考）を記入してください。
1		2次不等式は丸背点→線図で考える。
2		2次方程式はただ解くだけの方程式でなく、図形的にグラフとx軸との共有点の意味をもつ。
3		2次不等式では、>のときは、解が外側２個、<では、内側１個になる。
4		(x-1)(x+2)=0の解をx=-1、2としてしまいそう。かけて0となるためには因数分解をしていることを忘れない。
5		解の公式覚える！
6		2次不等式でx2乗の係数が負の数の時は、グラフを逆にして考えればよいのか？
7		＿次方程式を解く際、因数分解できるか数に注目する。また、公式も覚えておく。
8		
9		x(x+2)などのときは、x=0も解になることを忘れない
10		(x+2)(x-1)=0の解は、異符号になる。これは()の中を0にするxの値である。
11		
12		解の公式を使うのか、因数分解で解くことができるのかを考える
13		
14		解の公式の符号ミスを少なくできるように頑張る
15		
16		

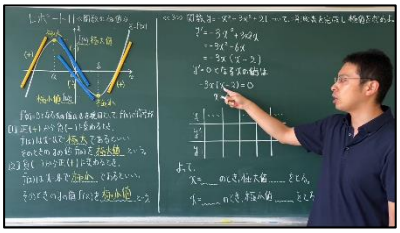
【本日の振り返り（２次方程式・２次不等式）】

修悠館マイページ上にレポート補助資料と動画コンテンツを掲載し、主体的な学習を促した。なお、動画については、数学Ⅰ34 本、数学Ⅱ152 本、数学Ⅲ66 本、数学Ａ32 本、数学Ｂ７本、数学入門 42 本、の計 333 本ある。科目によっては応用問題の動画もあり、より深い学びを実現できる環境を整えた。

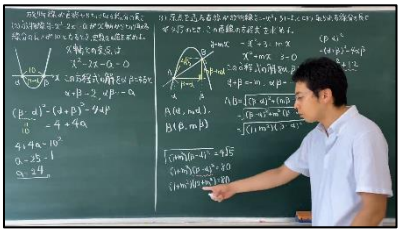


【数学Ⅰ　余弦定理】

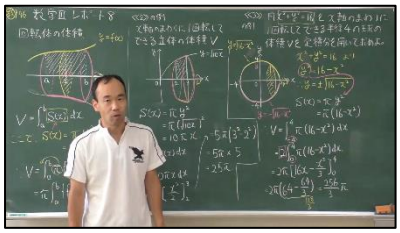
【数学Ａ　独立な試行】



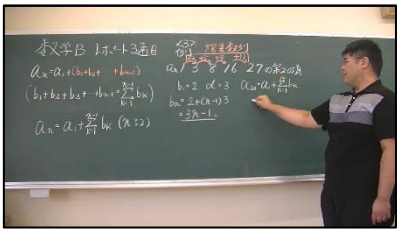
【数学Ⅱ　極大値・極小値】



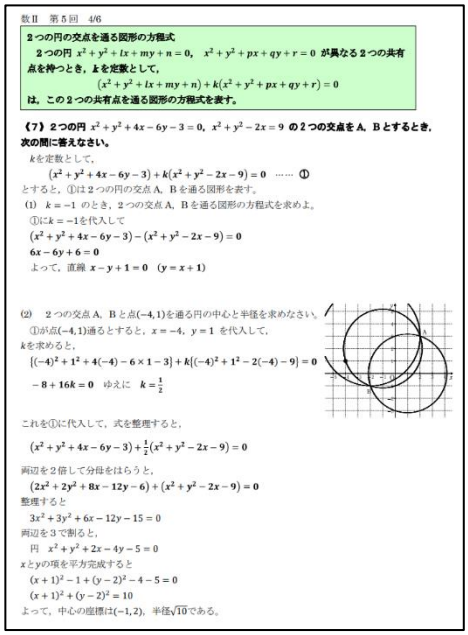
【数学Ⅱ　応用問題】



【数学Ⅲ　回転体の体積】



【数学Ｂ　階差数列】



数Ⅱ　第５回　4/6

２つの円の交点を通る図形の方程式

２つの円 $x^2+y^2+lx+my+n=0$,　$x^2+y^2+px+qy+r=0$ が異なる２つの共有点を持つとき，k を定数として，

$$(x^2+y^2+lx+my+n)+k(x^2+y^2+px+qy+r)=0$$

は，この２つの共有点を通る図形の方程式を表す。

（7）２つの円 $x^2+y^2+4x-6y-3=0$，$x^2+y^2-2x=9$ の２つの交点を A，B とするとき，次の問に答えなさい。

k を定数として，

$(x^2+y^2+4x-6y-3)+k(x^2+y^2-2x-9)=0$ …… ①

とすると，①は２つの円の交点 A，B を通る図形を表す。

(1)　$k=-1$ のとき，２つの交点 A，B を通る図形の方程式を求めよ。

①に $k=-1$ を代入して

$(x^2+y^2+4x-6y-3)-(x^2+y^2-2x-9)=0$

$6x-6y+6=0$

よって，直線 $x-y+1=0$　$(y=x+1)$

(2)　２つの交点 A，B と点 $(-4,1)$ を通る円の中心と半径を求めなさい。

①が点 $(-4,1)$ 通ると，$x=-4$，$y=1$ を代入して，

k を求めると，

$[(-4)^2+1^2+4(-4)-6\times1-3]+k[(-4)^2+1^2-2(-4)-9]=0$

$-8+16k=0$　ゆえに　$k=\frac{1}{2}$

これを①に代入して，式を整理すると，

$(x^2+y^2+4x-6y-3)+\frac{1}{2}(x^2+y^2-2x-9)=0$

両辺を２倍して分母をはらうと，

$(2x^2+2y^2+8x-12y-6)+(x^2+y^2-2x-9)=0$

整理すると

$3x^2+3y^2+6x-12y-15=0$

両辺を３で割ると，

円　$x^2+y^2+2x-4y-5=0$

x と y の項を平方完成すると

$(x+1)^2-1+(y-2)^2-4-5=0$

$(x+1)^2+(y-2)^2=10$

よって，中心の座標は $(-1,2)$，半径 $\sqrt{10}$ である。

【数学Ⅱ　レポート補助資料】

② ３年間の成果と課題

○年間を通したＩＣＴの活用について

Google Classroom を利用したレポート学習設計についてのアンケートからは、

家でも答え合わせができるのでレポートが（再提出で）返ってくる確率が減りとても良かった。
あっているかの確認や、間違えたときにどうして間違えたのかを考えるきっかけになる。
誤答、正答の確認がこれでできるのは便利な機能だなと思った。

など、ほとんどが肯定的な意見であった。通信制高校では数学に苦手意識をもつ生徒が非常に多く在籍しているため、安心して問題に取組める環境設定は非常に大切になる。生徒への意識の向上を高める方法としては有効性が認められたと考える。

２次関数の単元では Grapes を利用した。元のグラフ（初期設定の状態）は勿論のこと、変数の値を変えていくたびにそのグラフの残像を残しておける機能があるため、生徒たちは関数の様子を視覚的に捉えることができたと感じる。実際に、生徒の考えを入力させた Google スプレッドシートの内容からも、平行移動ということを自分なりに自分の言葉で表現していたことからみると、生徒が興味関心を強く持って授業に参加したといえる。通信制のスクーリングにおいては、「共有」などが難しいと考えられており実践例が乏しかった現状がある。Google スプレッドシートを利用することで、コミュニケーションが苦手な生徒であっても意見の共有を図ることができることがわかった。

また、GeoGebra では三角比で相似な図形と角との関係性や正弦定理・余弦定理の関係性なども感覚的に捉えることができたと感じた。さらに、Jamboard を利用することで、リアルタイムに数式の共有から生徒の学習への取組み向上に繋げることができたのも大きな成果だと感じる。

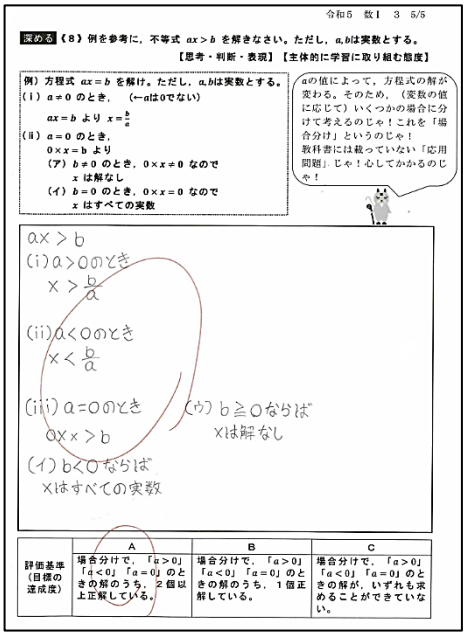
振り返りシートと自己評価では、

最初に、振り返りの観点や自己評価を意識することで、問題を単純に解くだけでなく、何で解くのかなどを考えるようになった。
課題を見つけられた。
振り返りをすると今日自分がなにを学んだのかをしっかり理解することができたので良かった。

などの意見があり、スクーリング参加率が高い生徒は徐々に意見を記入できるよう変化していった。学ぶ視点を考えることで深い学びに繋げることができたのではないかと考えられる。しかし、スクーリング参加率の低い生徒は継続した取組みとならないため、参加率の高い生徒と比較すると内容は希薄であった。

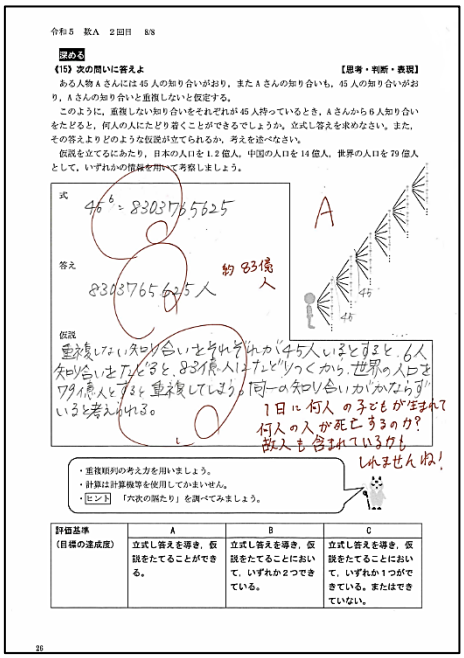
○新教育課程に対応したレポートの報告について

評価基準を用いた探究的な問いについて、教科書の内容をさらに深める問題や生活、社会と関わりがある問題、自身の取組みを振り返り、学習内容を定着・発展させていく問題など多種多様な問題を設定した。生徒に実施したアンケートでは、「評価基準があることで、A評価を取れるよう努力した」「今まで自分で数式を作って解くということはやったことがなかったので面白かった」「複利計算に log を利用できて、数学を身近に感じた」「問題文を深く読み、じっくり考えるようになった」「自分で課題を設定して、マイペースに取組めるので良い課題だと感じた」など肯定的な意見も見られたが、「スクーリングに毎回出席をする人は、説明が聞けるからいいけど、なかなか来られない人には難しい



【数学Ⅰ　１次不等式の探究的な問い】

課題だと感じた」などの意見もあった。実際、生徒が質問に来る問いは評価基準がある問いが多く、苦戦している様子が見て取れた。今後も「思考力・判断力・表現力」を身につけさせていくために、ＩＴコンテンツなども活用しながらサポートする必要がある。


令和５　数Ａ　２回目　8/8

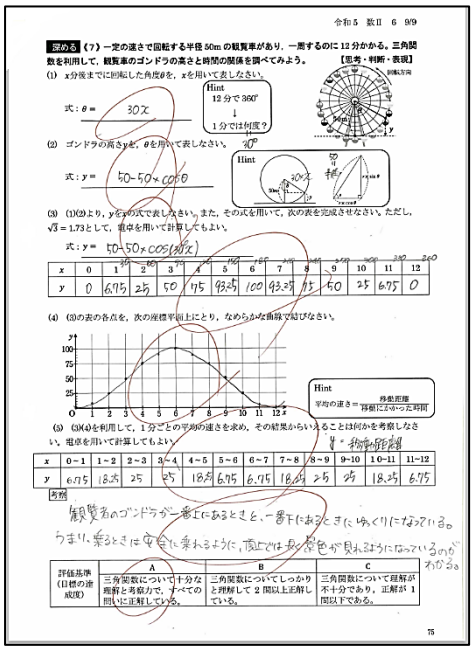
深める
《15》次の問いに答えよ　【思考・判断・表現】
ある人物Ａさんには 45 人の知り合いがおり，またＡさんの知り合いも，45 人の知り合いがおり，Ａさんの知り合いと重複しないと仮定する。
このように，重複しない知り合いをそれぞれが 45 人持っているとき，Ａさんから６人知り合いをたどると，何人の人にたどり着くことができるでしょうか。立式し答えを求めなさい。また，その答えよりどのような仮説が立てられるか，考えを述べなさい。
仮説を立てるにあたり，日本の人口を 1.2 億人，中国の人口を 14 億人，世界の人口を 79 億人として，いずれかの情報を用いて考察しましょう。

式　$46^6 = 8303765625$
答え　8303765625人　約83億人
仮説　重複しない知り合いとそれぞれが45人いるとすると，6人知り合いをたどると，83億人はたどりつくから，世界の人口を79億人とすると重複してしまう。同一の知り合いがかぶっていると考えられる。
1日に何人の子どもが生まれて何人の人が死亡するのか？ 故人も含まれているかもしれませんね！

・重複順列の考え方を用いましょう。
・計算は計算機等を使用してかまいません。
・ヒント　「六次の隔たり」を調べてみましょう。

評価基準（目標の達成度）	A	B	C
	立式し答えを導き，仮説をたてることができる。	立式し答えを導き，仮説をたてることにおいて，いずれか２つできている。	立式し答えを導き，仮説をたてることにおいて，いずれか１つができている。またはできていない。

【数学Ａ　重複順列の探究的な問い】


令和５　数Ⅱ　6　9/9

深める《7》一定の速さで回転する半径 50m の観覧車があり，一周するのに 12 分かかる。三角関数を利用して，観覧車のゴンドラの高さと時間の関係を調べてみよう。　【思考・判断・表現】
(1) x分後までに回転した角度を，xを用いて表しなさい。
式：$\theta = 30x$　Hint 12分で360° ↓ 1分では何度？
(2) ゴンドラの高さyを，θを用いて表しなさい。
式：$y = 50 - 50\times\cos\theta$　Hint
(3) (1)(2)より，yをxの式で表しなさい。また，その式を用いて，次の表を完成させなさい。ただし，$\sqrt{3} = 1.73$として，電卓を用いて計算してもよい。
式：$y = 50 - 50\times\cos(30x)$

x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
y	0	6.75	25	50	75	93.25	100	93.25	75	50	25	6.75	0

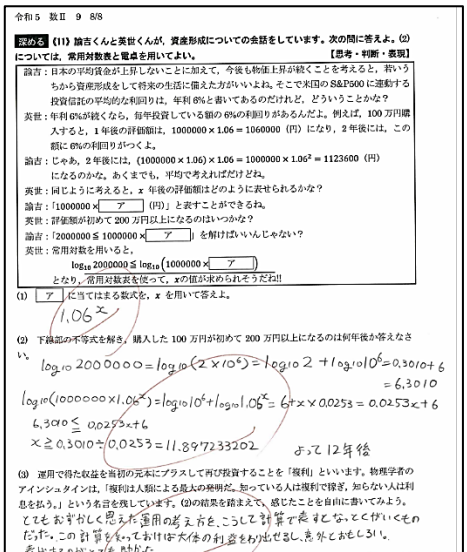
(4) (3)の表の各点を，次の座標平面上にとり，なめらかな曲線で結びなさい。
Hint 平均の速さ = 移動距離 / 移動にかかった時間
(5) (3)(4)を利用して，1分ごとの平均の速さを求め，その結果からいえることは何かを考察しなさい。電卓を用いて計算してもよい。

x	0～1	1～2	2～3	3～4	4～5	5～6	6～7	7～8	8～9	9～10	10～11	11～12
y	6.75	18.25	25	25	18.25	6.75	6.75	18.25	25	25	18.25	6.75

考察　観覧者のゴンドラが一番上にあるとき と，一番下にあるときにゆっくりになっている。つまり，乗るときは安全に乗れるように，頂上では景色が見れるようになっているのがわかる。

評価基準（目標の達成度）	A	B	C
	三角関数について十分な理解と考察力で，すべての問いに正解している。	三角関数についてしっかりと理解して２問以上正解している。	三角関数について理解が不十分であり，正解が１問以下である。

【数学Ⅱ　三角関数の探究的な問い】

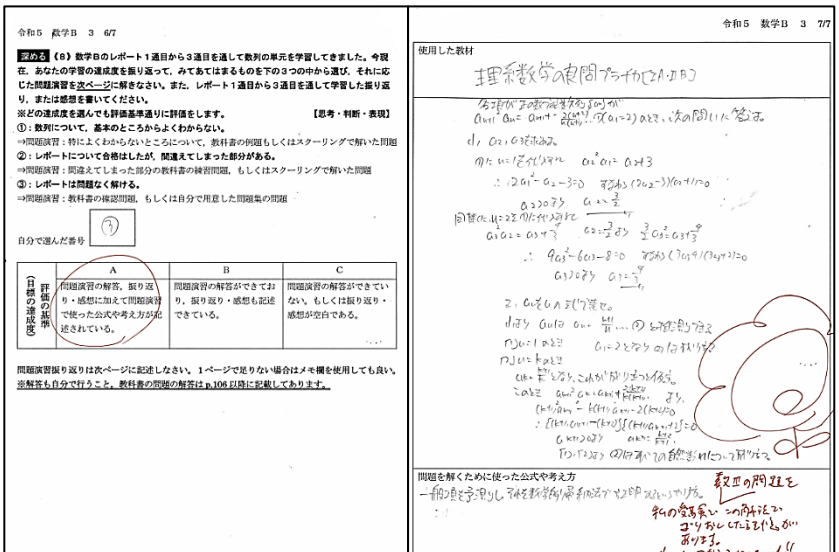

令和５　数Ⅱ　9　8/8

深める《11》論吉くんと英世くんが，資産形成についての会話をしています。次の問に答えよ。(2)については，常用対数表と電卓を用いてよい。　【思考・判断・表現】
論吉：日本の平均賃金が上昇しないことに加えて，今後も物価上昇が続くことを考えると，若いうちから資産形成をして将来の生活に備えた方がいいよね。そこで米国の S&P500 に連動する投資信託の平均的な利回りは，年利 6%と書いてあるのだけれど，どういうことかな？
英世：年利 6%が続くなら，毎年投資している額の 6%の利回りがあるんだと。例えば，100 万円購入すると，１年後の評価額は，1000000 × 1.06 = 1060000（円）になり，２年後には，この額に 6%の利回りがつくよ。
論吉：じゃあ，２年後には，(1000000 × 1.06) × 1.06 = 1000000 × 1.06^2 = 1123600（円）になるのかな。あくまでも，平均で考えればだけどね。
英世：同じように考えると，x 年後の評価額はどのように表せられるかな？
論吉：「1000000 × [ア]（円）」と表すことができるね。
英世：評価額が初めて 200 万円以上になるのはいつかかな？
論吉：「2000000 ≦ 1000000 × [ア]」を解けばいいんじゃない？
英世：常用対数を用いると，
$\log_{10} 2000000 \leqq \log_{10}(1000000 \times$ [ア] $)$
となり，常用対数表を使って，xの値が求められそうだね!!

(1) [ア] に当てはまる数式を，x を用いて答えよ。
1.06^x
(2) 下線部の不等式を解き，購入した 100 万円が初めて 200 万円以上になるのは何年後か答えなさい。
$\log_{10} 2000000 = \log_{10}(2\times10^6) = \log_{10}2 + \log_{10}10^6 = 0.3010 + 6 = 6.3010$
$\log_{10}(1000000\times1.06^x) = \log_{10}10^6 + \log_{10}1.06^x = 6 + x\times0.0253 = 0.0253x + 6$
$6.3010 \leqq 0.0253x + 6$
$x \geqq 0.3010 \div 0.0253 = 11.897233202$　よって12年後
(3) 運用で得た収益を当初の元本にプラスして再び投資することを「複利」といいます。物理学者のアインシュタインは，「複利は人類による最大の発明だ。知っている人は複利で稼ぎ，知らない人は利息を払う。」という名言を残しています。(2)の結果を踏まえて，感じたことを自由に書いてみよう。
とてもおぞましく思えた運用の考え方を，こうして計算で表すとなんてかいくものだった。この計算を使っておけば大体の利益をわり出せるし，意外とおもしろい。
老後あるのがとても楽しみだ。
長い目で見ることの大事さも理解した。資産形成は若いうちから"という言葉以は複利い意味
アの指数はやはり"期間"の何乗かの数値が入る。"5%"アレンジの仕方を工夫すれば面白くなりそうですよ。

評価基準（目標の達成度）	A	B	C
	(1)を数式の形で数式を表し，対数の性質を用いて(2)を正しく計算し，(3)に自分の考えを書くことができている。	(1)を数式の形で数式を表すことができている。または(1)(2)は正しく記入できているが，(3)に自分の考えを書くことができていない。	(1)(2)に正しく記入できておらず，かつ(3)に自分の考えを書くことができていない。

【数学Ⅱ　常用対数の探究的な問い】


令和５　数学Ｂ　3　6/7

深める《8》数学Ｂのレポート１通目から３通目を通して数列の単元を学習してきました。今現在，あなたの学習の達成度を振り返って，みてみてはまるものを下の３つの中から選び，それに応じた問題演習を次ページに解きなさい。また，レポート１通目から３通目を通して学習した振り返り，または感想を書いていてください。
※どの達成度を選んでも評価基準通りに評価をします。　【思考・判断・表現】
①：数列について，基本のところからよくわからない。
⇒問題演習：特によくわからないところについて，教科書の例題もしくはスクーリングで解いた問題
②：レポートについて合格はしたが，間違えてしまった部分がある。
⇒問題演習：間違えてしまった部分の教科書の練習問題，もしくはスクーリングで解いた問題
③：レポートは問題なく解ける。
⇒問題演習：教科書の確認問題，もしくは自分で用意した問題集の問題
自分で選んだ番号　③

評価基準（目標の達成度）	A	B	C
	問題演習の解答，振り返り・感想に加えて問題演習で使った公式や考え方が記述されている。	問題演習の解答ができており，振り返り・感想も記述できている。	問題演習の解答ができていない。もしくは振り返り・感想が空白である。

問題演習振り返りは次ページに記述しなさい。１ページで足りない場合はメモ欄を使用しても良い。
※解答も自分で行うこと。教科書の問題の解答は p.106 以降に記載してあります。

令和５　数学Ｂ　3　7/7
使用した教材　主要系数列の表問プラチカ(C.D.E)
問題を解くために使った公式や考え方
一般項を予測して求めるを数学的帰納法でなぜ明示しないのか？
数Ⅲの問題を 知の領域 この解法をコーリガしてしまうものがあります。メッチャつかえるのに good!!
レポート１通目から３通目の振り返り，または感想
楽しかったです。プラチカ(ナメ…)は色い問題集なのに足非何周も使ってマスターしてください！

【数学Ｂ　数列単元全体の振り返りの探究的な問い】

③　今後の展望

数学科では、１年目には深い学びを実践する問いの工夫と考え方の共有方法の研究を行ったことで、２年目以降ＩＣＴを活用した通信制高校における「主体的・対話的で深い学び」のモデルケースの一つを構築できたと考える。また数学では、生徒は問題が解けた、解けないという結果だけで満足している面がある。それでは、自分自身の学習状況を的確に振り返る能力やその振り返りを認知する能力が育たない。日常の中でも目標を立て、意識して振り返ることは必要なため、さらなる学習の振り返りや自己評価の方法を研究し、それを生徒にどのようにフィードバックしていくかを考え実践していくことが望まれる。

（６）理科

①　３年間の取組み

	必履修科目（基礎＋科学と人間生活）	上位科目（基礎なし科目）
令和３年度	新教育課程レポート作成	
令和４年度	新教育課程に移行	新教育課程レポート作成
令和５年度	探究的な問い（深める問題）の見直し 生徒へのアンケート実施	新教育課程に移行 生徒へのアンケート実施

理科における新教育課程導入は年次進行で行われ、令和４年度に必履修科目、令和５年度に上位科目が切り替わった。そこで、前年度にレポートの改訂を行い、内容を新教育課程に合わせるとともに、探究的な問いを導入した。また、すべての科目で新教育課程に切り替わった令和５年には、探究的な問いに関して、説明や評価基準が適切に伝わっているかに関してアンケートを実施した。

○探究的な問い

新教育課程レポートに探究的な問い（本校では深める問題」と表記）を配置した。頻度としては１通につき１問程度である。形式としては、小問集合、記述、調べ学習、意見・論評、課題研究がある。

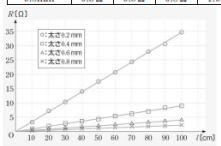
Ⅰ.

深める【６】電気抵抗と物質の形状（教科書：pp.137，138）　[思考・判断・表現]

電流を流す物質の長さや太さにより，電気抵抗がどのように変化するのか調べるため，電気抵抗の実験をした。あなたがこの実験結果から気づいたことを2.5行以上書きなさい。

実験結果　４種類の太さのニクロム線で行った実験の結果は，以下の表およびグラフのようになった。

	2点間の間隔									
太さ(直径)	10cm	20cm	30cm	40cm	50cm	60cm	70cm	80cm	90cm	100cm
0.2mm	3.6Ω	7.2Ω	10.5Ω	14.0Ω	17.5Ω	20.8Ω	24.3Ω	27.7Ω	31.1Ω	34.8Ω
0.4mm	1.0Ω	1.9Ω	2.7Ω	3.6Ω	4.4Ω	5.3Ω	6.2Ω	7.0Ω	7.9Ω	8.7Ω
0.6mm	0.5Ω	0.9Ω	1.3Ω	1.7Ω	2.1Ω	2.5Ω	2.8Ω	3.2Ω	3.6Ω	4.0Ω
0.8mm	0.3Ω	0.5Ω	0.8Ω	1.0Ω	1.2Ω	1.4Ω	1.7Ω	1.8Ω	2.0Ω	2.3Ω



Ⅱ.

深める（２）ｐＨ指示薬のように、ｐＨによって色が変わるものを身の回りから１つ選び、どのような性質や原理で色が変化するか答えなさい。

Ⅲ.

深める【６】地球環境の変化と生物多様性の変遷は関係していると言えるか。どちらかに○をつけ、その理由を書きなさい。教科書pp. 122～124参照[主体的に学習に取り組む態度]

【６】の解答欄

地球環境の変化と生物多様性の変遷は
関係している　・　関係していない
なぜなら

ⅳ.

【８】　課題研究　　教：pp. 208～222

[思考・判断・表現] [知識・技能] [主体的に学習に取り組む態度]

このページの見本や教科書のp. 208～213をよく読んで、課題研究に取り組み、次ページに書くこと。

① 課題を設定する。※理科に関するテーマを設定すること。

② 文献またはｲﾝﾀｰﾈｯﾄを利用して情報を収集する。

※文献は教科書以外のものを用いること。

※ｲﾝﾀｰﾈｯﾄは公共機関や大学，研究所等のものを用いること。

Wikipedia等のﾌﾘｰ百科事典，ﾈｯﾄﾆｭｰｽ及び個人のWebページは使用禁止とする。

③ 研究の成果をまとめて報告書を作成する。

【上記の探究的な問いの形式例について】

Ⅰ　－実験データからの気づきに関する記述（物理基礎）

Ⅱ　－身の回りにおける化学現象についての調べ学習（化学基礎）

Ⅲ　－それぞれの立場に立っての意見・論評の記述（地学基礎）

ⅳ　－課題研究（科学と人間生活）

○生徒へのアンケートの実施

令和５年度には、前期に理科の科目を受講しているすべての生徒を対象に、各科目における１～３通目のそれぞれの提出目標日の後で、アンケートを実施した。また、後期は、「科学と人間生活」受講者に対象を絞り、レポート締め切り後にアンケートを実施した。

②　３年間の成果と課題

○探究的な問い

各科目の探究的な問いに関しては、解き方の説明や評価基準を掲載した。ただし、レポートのページ数に余裕が無かったため、すべてを掲載することはできず、生徒に対して説明が不完全になってしまった部分もあった。レポート紙面に掲載できなかった資料は、本校マイページに載せるなどの対応をしているが、生徒の望むものが提供できているか、また、生徒側にマイページを定期的に見る習慣がついていくことが今後の課題になる。

図　評価基準の例

深める　【8】反応の種類　　［思考・判断・表現］

（2）可逆反応の化学反応の具体例について、以下の評価基準を踏まえたうえで、１つ挙げなさい。

〈評価基準〉

A	B	C
教科書・レポートに無い具体例を書くことができている。	教科書・レポートから具体例を探して書くことができている。	具体例を挙げることができない。

【Ａ評価を得るためには、教科書・レポート以外の資料にあたることが必要になる（化学)】

深める（２）イオン結合でできた物質を２つ選び，その物質の用途や性質などを答えなさい。

評価基準

	A	B	C
実践力	丁寧な字で正しく書くことができた	誤字脱字がなく書くことができた	書くことができなかった
課題設定力	身近な物質から，選ぶことができた	選ぶことができた	選べなかった
表現力	具体的な用途や性質を自分の考えを交えて表現できた	用途や性質を表現できた	用途や性質を表現できなかった

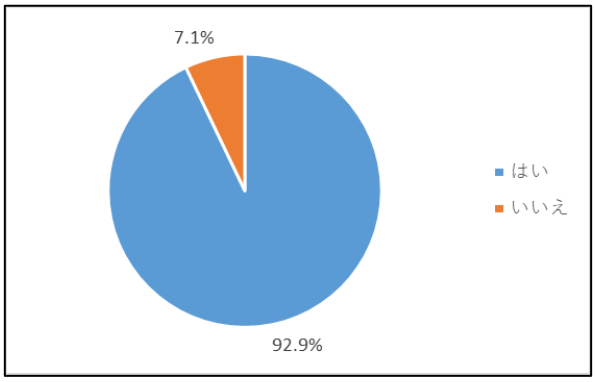
Ａ：十分満足できる　　Ｂ：おおむね満足できる　　Ｃ：努力を要する

【それぞれの項目ごとに評価基準が設定されている（化学基礎)】

②生徒へのアンケート実施

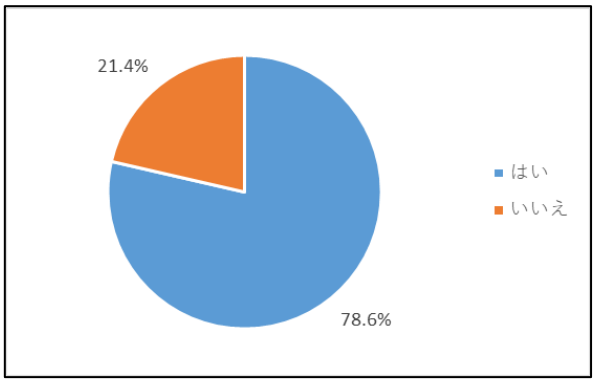
Ⅰ　理科の科目を受講しているすべての生徒を対象にしたアンケートについて、１通目の深める問題に関するもの（６月実施）は、以下のような結果が得られた。

Ａ　深める問題の評価基準を解く前に確認していますか？



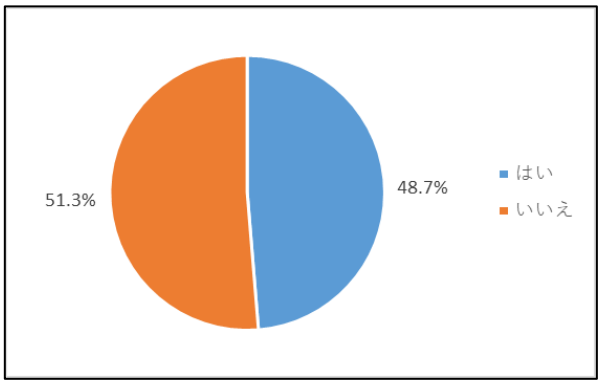
良い評価を得るために、もしくは再提出になることが無いように、解く前に評価基準を確認していることがわかる。

B　深める問題の範囲を扱う回のスクーリングに出席しましたか？



慣れていない問題形式のため、なるべくスクーリングに参加して情報を得ようとしている様子がうかがえる。

C　レポート作成でマイページを利用していますか？



教科書やレポート内の説明だけで問題に取り組むことのできる生徒は、マイページを利用するまでもなかったようである。また、学習に関して、マイページを利用する習慣ができていない生徒も一定数いると思われる。

D　深める問題における提出前の自己評価と添削結果は？

結果	A	9 （S：7／2） （M：6／3）	29 （S：23/6） （M★：10/17）
	B以下	4 （S★：3／0） （M：3／1）	0
		B以下	A
		自己評価	

S（スクーリング出席：はい/いいえ）
M（マイページの利用：はい/いいえ）
★は一部解答なし

おおむね、教員側の評価と生徒側の自己評価が合っている。自己評価が低めの生徒は、スクーリングもマイページも活用している生徒が多く、自己評価が高い生徒は、スクーリングで要点をつかみ、マイページを使う必要が無いと判断しているようである。

Ⅱ　本校に入学した生徒（転編入生は除く）の大部分が初年度に履修する「科学と人間生活」受講生を対象に、深める問題の全体についてレポートの最終締め切り後の 12 月末から 1 月初旬にアンケートを行ったところ、以下のような回答が得られた。

A　深める問題についての感想を教えてください。

・調べることや、科学の面白さに触れることができた。
・こういう課題を取り組むことによって、新たな発見、自分の興味のある分野の研究や、大学に進んでからのテストの練習にもなって今のうちからスキルを身につけられるのはとても良いので次年度の生徒さんたちにも是非導入してあげてほしい。
・課題研究をどのように書けばよいか、わかりにくかった。
・自力で解くのは難しかった。

B　レポートを解くために、マイページに追加してほしい機能や、載せてほしい資料があれば書いてください。

・特になし。今のままで良い。
・詳しい解説が欲しい。
・課題研究の書き方について解説が欲しい。

理科において、探究的な問いの導入は比較的好評であるが、評価基準や解き方等の説明方法にはまだまだ改善が必要であると思われる。特に、テーマ設定から各自で行う必要のある課題研究等の問題については、生徒の状況に合わせて、進め方や書き方などの補助資料や過去の作品例などを載せるなど、生徒が課題に取組みやすい環境を整える必要がある。

③　今後の展望

深める問題の内容はおおむね好評であったが、答え方や取り組み方については慣れていない生徒も多く、補助的な資料の必要性を認識する結果でもあった。また、マイページ上でアンケートの告知を行っていたものの、回を追うごとに回答数が減っていったこと、レポート解答時におけるマイページの活用状況もそれほど良くないことがわかった。今後については、マイページ上のコンテンツを充実させるのは当然のこととして、その上で、マイページを活用するような課題を取り入れたり、マイページ上のコンテンツをスクーリングで活用したりといったことを進めていきたい。

（７－１）保健体育（保健）

①　３年間の取組み

保健では、生徒に「より健康に生きるためにはどうすべきか考え、行動する力」を身に付けさせることを目標としてきた。そのために、レポートには自分自身の生活を振り返り、課題や解決策を考える問いを設定した。またスクーリングにおいては、自己の考えだけでなく、他者の意見に触れる機会を設けるために、様々なＩＣＴツールを活用して展開を工夫した。

○レポート作成の工夫：自己対話・他者対話を促す問いの設定

従来のレポートは、教科書の本文の穴埋めを中心とした知識事項を問う問題に終始していた。本研究における取組みで、そのような問題だけでなく自己や他者の考えを踏まえて記述する問いも設定した。

10　次の文の[　　]の中にあてはまる語句を答えなさい。(P.66～67)【関心・意欲・態度】

（1）異性に対して「男性(女性)はこうあるべきだ」という固定的な観念でとらえるのではなく、相手の生き方や将来の[　希　望　]など、相手の人格と立場を尊重してとらえることが大切です。その配慮が欠けると、[　性差別　]的な不用意な発言や行動で相手を傷つけてしまうこと（セクシュアル・ハラスメント）が起こったり、ときには犯罪につながったりし

深める

5　セクシュアル・ハラスメントについての以下の事例の中からから２つ選び、このようなセクシュアル・ハラスメントになってしまう理由は何か、立場や場所・状況などを考え答えなさい。

(P.80・P133)【思・判・表】

【事例A】教室内で休み時間のたびに一部の生徒グループが、大声で下ネタや卑猥な話をしていて、不快で教室でゆっくりできない生徒がいる。

【事例B】男なら根性見せろ！男ならめそめそするな！と言われて気持ちが余計に沈んでしまった。

【事例C】バイト先の店長にしつこくデートに誘われて、断ったらもう来なくていいといわれた。

【事例D】挨拶するときに必ずボディタッチしてきて不快に感じている。

評価基準

A	B	C
・理由を具体的に答えられている。 ・事例２つともセクシュアル・ハラスメントが発生する理由を30文字以上で答えられている。	・事例2つともセクシュアル・ハラスメントが発生する理由を15文字以上で答えられている。	・1つしか答えられていない。 または、答えられていない。

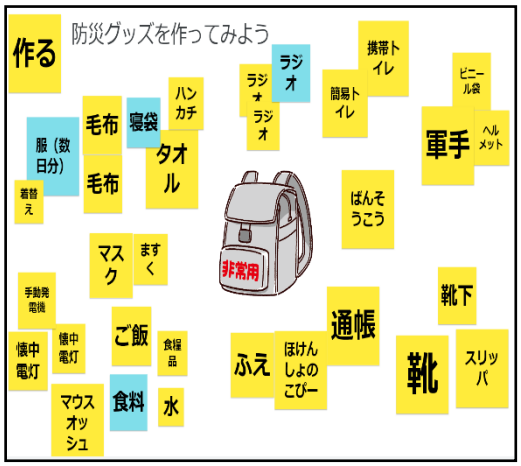
【上：従来のレポート】

【右：学校全体で取り入れた深める問題】

レポートに取組むことで、生徒が新たな知識を得ることだけを目的とせず、その知識を活用したり、他者の考えを踏まえて自己の考えを構築する問いになるように設定した。

○スクーリング展開の工夫：ＩＣＴを活用した意見共有の場を設定

スクーリングは、教員から知識を伝えるだけではなく、ＩＣＴを活用して他者と意見共有をする場となるように展開を工夫した。目的に応じて、Google Jamboard や Google スプレッドシート等を活用した。



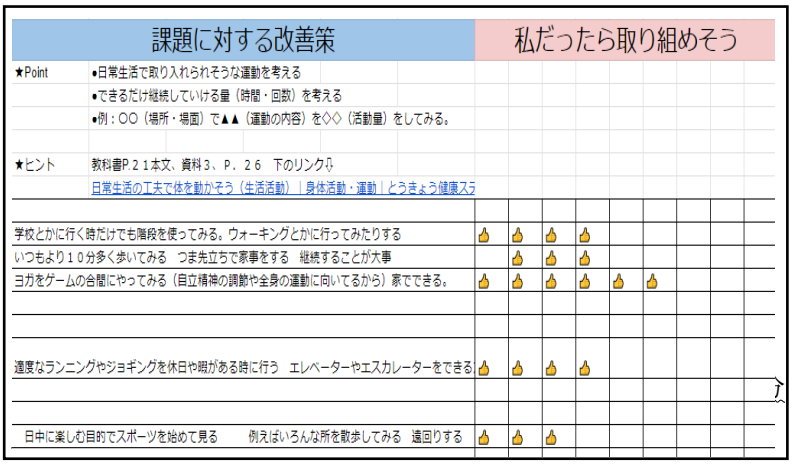
【Google Jamboard】

単元：安全な社会の形成

「防災グッズを作ってみよう」

➡自分の意見を付箋にして共有。

即時的な意見共有と協働学習の場



課題に対する改善策		私だったら取り組めそう							
★Point	●日常生活で取り入れられそうな運動を考える ●できるだけ継続していける量（時間・回数）を考える ●例：OO（場所・場面）で▲▲（運動の内容）を◇◇（活動量）をしてみる。								
★ヒント	教科書P２１本文、資料３、P．２６　下のリンク⇩ 日常生活の工夫で体を動かそう（生活活動）｜身体活動・運動｜とうきょう健康スラ								
学校とかに行く時だけでも階段を使ってみる。ウォーキングとかに行ってみたりする		👍	👍	👍	👍				
いつもより１０分多く歩いてみる　つま先立ちで家事をする　継続することが大事			👍	👍	👍				
ヨガをゲームの合間にやってみる（自立精神の調節や全身の運動に向いてるから）家でできる。		👍	👍	👍	👍	👍	👍		
適度なランニングやジョギングを休日や暇がある時に行う　エレベーターやエスカレーターをできる		👍	👍	👍	👍				
日中に楽しむ目的でスポーツを始めて見る　　例えばいろんな所を散歩してみる　遠回りする		👍	👍	👍					

【Google スプレッドシート】

単元：生活習慣病の予防と回復

「太郎君の将来の健康を守れ！」（健康課題と解決策を考える）

➡学習内容を生かし、自分の考えを入力する。

他者の意見に「いいね」をする（他者との関わりの場）

		どんどん書き足していこう！　「Alt + Enter」で改行できるよ！
設問	解答（協力して完成させよう！）	疑問に思ったこと・知っていること・調べたことなど
加齢とともに（ ）の	心身	一般的に、年齢を重ねると頑固になり保守的傾向が強くなる 健康状態への関心が以上に高まる..etc(心の変化)
それにともない、（ ）	骨粗しょう症	骨の量が減って骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気　予防方法はカルシウムの摂取とビタミンDを体内で合成するために必要な日光浴に加えて、筋力トレーニングなど、骨に刺激が加わる運動をする
（ ）にかかる期間も	回復	
（ ）していきます。	向上	長い時間生きているのだから、若い人より経験はより多い。
（ ）をはじめとした	認知症	認知症は日常生活などに支障をきたす
（ ）や支援	介護	老老介護や認認介護のようにお年寄りの人が介護をするようなことが問題視されている。ヤングケアラーもある。
（ ）や健康教室	健康診断	定期的に健康診断を受けることで、早期発見や早期治療につながる。

【Google スプレッドシート】
レポートの協働学習
協力してレポートを完成させる。
進度に合わせて学習を深める。
➡個別最適な学びへの工夫

② ３年間の成果と課題

成果　レポートに探究的な問いを設定するという組織的な改善の結果として、保健のスクーリングも知識を伝達する場から、知識の活用や他者との意見共有の場へと変容しつつある。年間を通してＩＣＴを活用しながらスクーリングを展開することで、生徒も端末の操作に慣れスムーズに参加できるようになった。また、最初はＩＣＴを利用した意見共有に戸惑っていた生徒も徐々に積極的に参加する様子が見られた。

【保健　スクーリングの様子】

自分の生活にどのように生かしていきたいか

レポート２通目で健康的に働くためにどのような方法で余暇を有効活用するかを考えたときに空いた時間に家事などをやり、動くことで運動不足の体に体力をつけ病気にならないと考えました。それは今からでもできることなので、これから継続的にやることで体力をつけ病気になりにくい体づくりをしていきたいと思いました。

B

A

【左：保健２レポート３深める問題生徒の記述】
「保健で学習したことを今後の自分自身の生活にどのように生かしていきたいか」
→学習した内容を踏まえて自分自身の生活を振り返り、より健康に生きるための具体的な方法を考えるような記述が見られた。

課題　保健は、単位修得のために必要なスクーリングの出席回数が１回であることから、年間を通して出席する生徒と、１回しか出席しない生徒がいる。そのため現状では、スクーリングに１回しか出席しない生徒は、他者との意見共有の経験が少なくなっている。この出席数のばらつきによる学びの質の違いは大きな課題である。今後も通信制の学びの中心であるレポートを改善し、すべての生徒が「主体的・対話的で深い学び」が実現できるような方策を検討していきたい。

③ 今後の展望

保健における生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、今後もレポートの改善を継続して行っていきたい。３年間の取組みで保健のレポートも大きく変わったが、従来の知識を問う問題も多く設定されている。観点別の評価との整合性も含め、どのような問いが生徒の深い学びを引き出すことができるか引き続き検討していく。また、学びを深めるための web 上のコンテンツや、目的に応じたＩＣＴの活用をより一層充実させ、これらとレポートを連動させていく工夫も必要である。

（７－２）保健体育（体育）

①　３年間の取組み

体育では、運動が苦手な生徒であっても体育・スポーツに親しみ、生涯を通じて運動にかかわる土台をつくることを目標としてきた。そのために、レポートでは運動への「自分なりの関わり方」を考える問いを設定した。また、スクーリングでは主体的な参加を促すために、見通しを立てやすい目標を設定したり、自然に会話が生まれるような教材を用いたりするなどの工夫をした。

○レポート作成の工夫：運動への「自分なりの関わり方」を考える問いの設定

学校全体で取り入れている深める問題として、以下のような問いを設定した。

- **自分に合うスポーツへのかかわり方**をあげ、理由を答えなさい。
- **オリンピックとパラリンピックの価値として共感するもの**をあげ、理由を答えなさい。
- 運動やスポーツでの**けがや事故を防止するためにどんな工夫が必要か**、自分の経験を例に答えなさい。
- これまでの経験の中で、**スポーツの価値や良さを感じた具体的な場面**を書きなさい。
- 自分や周りの人の**運動を観察し、「良いところ」と「改善点」**をあげなさい。

深める　３　運動のフィードバックに関する問いに対し、あなたの考えを書きなさい。
※「評価基準」を参考に記述すること。（P. 164、165）【思・判・表】

問い：自分や周りの人の運動を観察し、「良いところ」や「改善点」を発見（フィードバック）しよう！

「評価基準」

A	B	C
運動場面を観察し、その運動の良いところと改善点の両方を合計 90 字以上で具体的に書けている。	運動場面を観察し、その運動の良いところか改善点のどちらかを合計 45 字以上で書けている。	運動を観察した結果が書けていない。

（1）誰の運動を観察しましたか。（例：自分／友人／家族／先生／スポーツ選手など）

（　　）

（2）どんな運動を観察しましたか。（例：サッカーのシュートするところ／縄跳びを跳ぶところ）

（　　）

（3）どのように観察しましたか。（一つに☑しましょう。その他の場合、観察方法を書きましょう。）

レ	実際に自分が運動し、感覚などを観察した。（内在的フィードバック）
レ	自分や周りの人が運動しているところや、映像をみて、観察した。（外在的フィードバック）
レ	その他（　　）

（4）発見した「良いところ」や「改善点」を具体的に書きなさい。

15

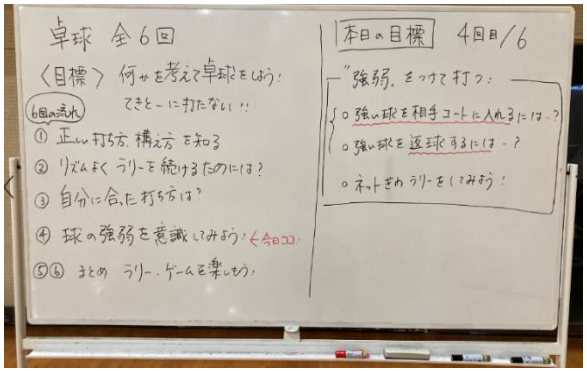
30

【体育Ⅱ　レポート２　深める問題】
単元：運動・スポーツの学び方「技能の上達過程と練習」

運動に苦手意識がある生徒が多いことの背景の一つとして、これまで十分に運動に関わる機会がなかったことがあると考えられる。そこで、「スポーツへのかかわり方」や「スポーツの価値」、さらには「運動の観察」などを深める問題として設定し、レポートでの学習を通して、運動とのかかわりを考える機会を設定した。

また、これらの深める問題に取組むことによって、様々な視点から自分自身と運動のかかわりを振り返ることになるように留意して作問した。

○スクーリング展開の工夫：見通しの立てやすい目標の設定・会話の生まれやすい教材の工夫



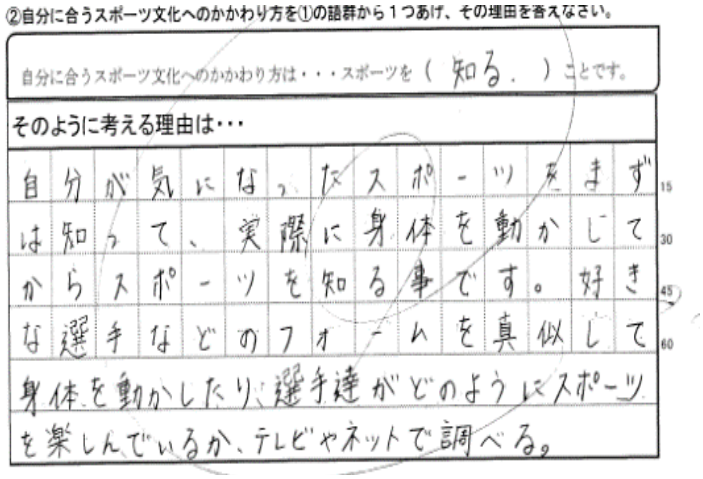
【単元を見通した目標の提示と本時の目標の提示】

運動やスポーツに苦手意識を持っている生徒であっても主体的に活動に取組めるよう、単元を見通した目標と、本時の目標を提示してスクーリングを展開した。

また、新たに「モルック」という種目を教材として取り入れ、他者と関わりながら、学ぶことが苦手な生徒でも自然に対話的な学びが実践できるように工夫した。

② ３年間の成果と課題

成果　運動やスポーツに苦手意識がある生徒が多い中で、レポートの深める問題には、運動への「自分なりの関わり方」を考えようとする記述が見られた。自分に合うスポーツへの関わり方を問う問題には、「する」以外の「見る「支える」などの関わり方に着目した記述も見られた。運動やスポーツに苦手意識があっても、「する」以外の方法で、今後どのようにスポーツと向き合っていきたいかを考える記述が見られたのは大きな成果である。また、自分や他者の運動を観察して意見を述べる問いに対しては、これまで運動の観察など経験の少ない生徒でも、自分なりに運動と向き合い、考えを述べる記述が見られた。


②自分に合うスポーツ文化へのかかわり方を①の語群から１つあげ、その理由を答えなさい。

自分に合うスポーツ文化へのかかわり方は・・・スポーツを（ 知る. ）ことです。

そのように考える理由は・・・

自分が気になったスポーツをまずは知って、実際に身体を動かしてからスポーツを知る事です。好きな選手などのフォームを真似して身体を動かしたり、選手達がどのようにスポーツを楽しんでいるか、テレビやネットで調べる。

【自分に合うスポーツへのかかわり方　生徒の記述】

スクーリングにおいては、少しずつ生徒同士の会話が生まれる様子が見られた。新たに取り入れた「モルック」では、作戦を立案しながら競技を進めていく特徴がある。そのため、他者と関わることが苦手な生徒であってもチームで少しずつ会話をしながら作戦や戦術を立てられるようなスクーリングへと変容し、主体的に参加する習慣が身についていった。体育のスクーリングを通して新たなコミュニティが生まれることもあり、教材を工夫したことによる一定の成果があった。

【生徒の活動の様子（モルック）】

課題　深める問題の設定や教材の工夫、スクーリングの展開を見直すことで一定の成果があった一方で、自己との対話や他者との対話の経験が少なく、苦手意識を持った生徒も依然として多くいることも事実である。様々な背景を持つ通信制の生徒であっても「主体的・対話的で深い学び」を体育で実現するために、レポートに自己や他者との対話を促す問いを設定したり、スクーリングの振り返りを実施したりする工夫が今後も必要である。また、より深い学びを実現するにあたっては、レポートとスクーリングでの学習を相互に結びつけて学びを深めていくという点が課題である。

③ 今後の展望

３年間の取組みを通して、生徒は少しずつ自分なりに運動への関わり方を考えられるようになってきた。また、スクーリングにおいては生徒同士のコミュニケーションが生まれはじめ、協働的な学びへとつながる場面もあった。今後は、レポートとスクーリングでの学習を連動させ学びを深めていきたい。レポートで学んだことをスクーリングで活かし、スクーリングで学んだことをレポート学習に生かすような仕組みをつくりたい。そのためにどのような問いや声かけが生徒の学びを引き出すのか、今後も検討を続けていく必要がある。

（８）芸術科（全体）

３年間の取組み

新学習指導要領では、芸術の幅広い活動を通じて、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指している。『奏でる、描く、作る、書く』といった活動を通じて、通信制での「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ＩＣＴの有効活用や五感を使ったスクーリング展開など、生徒がしっかり取組んでいけるよう工夫を凝らした。

併せて適切な評価基準を演奏や作品制作に取り入れる方法などの研究・検討を重ねてきた。その結果、各科目が鑑賞課題等に対して評価基準を用いたことにより、生徒は、それまでの輪郭のはっきりしない感覚や好みではなく、自身の考えや他者からの影響などを文章化することができた。

（８－１）芸術科（音楽）

①　３年間の取組み

新学習指導要領の実施に伴い、令和５年度から、「音楽Ⅱ」について、当該科目の新たなレポートを作成した。旧教育課程の音楽Ⅱのレポートを検討し、適当と思われるものは残すとともに、次の２点に重点を置いて令和６年度に向けた新たなレポートを作成した。

①歌唱や演奏および作品鑑賞における評価基準の明示

②ＩＣＴの活用を促すレポート構成

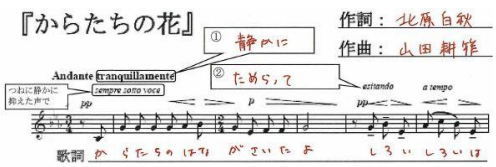
これらの成果および課題については（２）の節で述べる。

②　３年間の成果と課題

〇歌唱や演奏および作品鑑賞における評価基準の明示

すべてのレポートに設けてある深める問題の設定にあたっては、生徒が自ら考え（思考）、楽譜を読み、歌ったり楽器を演奏したりすること（判断）で、どのような音を出す（表現）か、という工夫をする演奏体験を通じて、その作品への親しみや興味を持つとともに、さらにその作品を深く知ることで、自己の感性を客観的にも表現（鑑賞）できるようにした。なお音楽科では、毎回のスクーリングで必ずレポート内容に則して『音』を出すこととしている。

具体例： レポート１通目では、日本歌曲「からたちの花」を題材に、旋律と歌詞のまとまりに注目できるような構成にした。また、イタリア語で書かれている音楽用語に対して日本語訳を書き込むことで楽曲を解釈しやすくなるように工夫した。その上で、実際に歌唱し、どのようなところにこの曲の魅力を感じるかを自分の言葉で表現させ、基準に沿って評価した。



上記の解答を記入する際は、この評価基準を参考にして書いてください。

	評価項目	A	B	C
評価基準（目標の達成度）	分量	５行以上書けている	５行以上書けている	５行未満
	内容	実際に歌ってみて、この曲の魅力について感じたことを、自分の言葉で書くことができている。	実際に歌ってみて感じたこと書くことができている。	自分の感じたことだけを書くことができている。

○ＩＣＴの活用を促すレポート構成

音楽室ではオーディオ機器やＰＣからの音源を大きなスピーカーから流すことができ、高音質な音を聴けるようにしてある。また、映像はプロジェクターから大画面で投影できる。それにより、オペラや歌舞伎などの舞台芸術作品の鮮明な鑑賞や、世界中の一流オーケストラや音楽家の演奏の視聴、各国独自の伝統文化や音楽を知ることなどを可能としている。レポートは、こうした環境を活用したスクーリングでの学習が、最大限活用できるよう内容を工夫している。

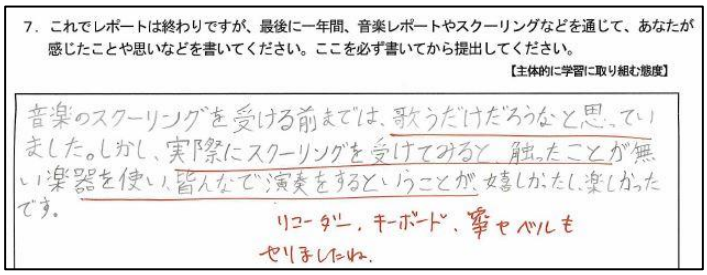
具体例：毎回のスクーリング開始 10 分ほど前から、その日に扱う題材に関連した映像を流して、課題に興味を持たせ、スクーリングに取組みやすい環境を整えている。例えば映画「ハリーポッターと賢者の石」を題材とした５通目では、繰り返される旋律が、異なる３つの楽器（チェレスタ、オーボエ、ホルン）で演奏されることによって映画の中での場面やイメージが全く変わることを、ＤＶＤを見ながら鑑賞させた。そしてその３つの楽器がオーケストラの中では、どのように演奏されどのような音色をしているかを映像と共に確認させた上で、様々な音色の出る鍵盤キーボードでそれぞれの楽器を選択させ、同じ旋律を演奏させることにより楽器ごとの音色や雰囲気等を感じ取らせた。

チェレスタで演奏すると、実際のハリーポッターのテーマの様になった。他の楽器よりも音の響く感じやポコっとした不思議な音の感じがハリーポッターの魔法の世界と合っているなと感じた。他の楽器で演奏すると、慣れた音ではないがこれはこれでいい（必ずな感じ等）と感じた。

左：テーマの楽譜。音名（ドレミ）が書かれている
右：このキーボードで出る音色（例）チェレスタは149
鍵盤には音名がシールで貼ってある

③　今後の展望

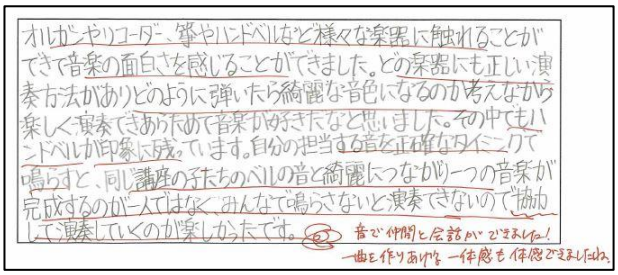
ほとんどの音楽履修生が「楽器が演奏できてよかった」「普段さわる機会のない箏やミュージックベルが良かった」との感想を寄せてくることからも、回数の少ないスクーリングの中にあっても引き続き演奏体験のできる環境を整え、深める問題を利用してより主体的に取組み深く学べるようにしたい。また、こちらが想像するよりはるかに演奏による一体感を強く感じている生徒が多いことが感想から読み取れた。このことは演奏を通じて『音』による対話的な学びもできたと解釈し、演奏体験を継続させたい。


7．これでレポートは終わりですが、最後に一年間、音楽レポートやスクーリングなどを通じて、あなたが感じたことや思いなどを書いてください。ここを必ず書いてから提出してください。

【主体的に学習に取り組む態度】

音楽のスクーリングを受ける前までは、歌うだけだろうなと思っていました。しかし、実際にスクーリングを受けてみると、触ったことが無い楽器を使い、皆んなで演奏をするということが、嬉しかったし、楽しかったです。

リコーダー、キーボード、箏やベルもやりましたね。


オルガンやリコーダー、箏やハンドベルなど様々な楽器に触れることができて音楽の面白さを感じることができました。どの楽器にも正しい演奏方法がありどのように弾いたら綺麗な音色になるのかを考えながら楽しく演奏できあらためて音楽が好きだなと思いました。その中でもハンドベルが印象に残っています。自分の担当する音を正確なタイミングで鳴らすと、同じ講座の子たちのベルの音と綺麗につながり一つの音楽が完成するのが一人ではなくみんなで鳴らさないと演奏できないので協力して演奏していくのが楽しかったです。

音で仲間と会話ができましたね！
一曲を作りあげる一体感も体感できましたね。

（８－２）芸術科（美術）

①　３年間の取組み

美術科においては、今年度より美術Ⅱ、絵画が新教育課程のレポートとなった。新規にレポートを作成するにあたり、以下に取り上げる２点の取組みを行なった。

- **作品鑑賞における評価基準の明示**：以前より鑑賞課題に用いていた評価基準を「造形的な見方・考え方」を育てるという点に着目し、明示する。
- **鑑賞におけるパブリックドメイン作品の活用**：高解像度の作品を鑑賞に取り入れることで、生徒がより主体的に作品の良さや美しさを味わうことができるようにする。

②　３年間の成果と課題

〇鑑賞課題における評価基準の明示

鑑賞課題において、美術作品の鑑賞ポイントとなる要素を記述することを A 評価の条件にした。記述してほしいポイントとしては造形的な視点（色、形、光、構成など）をあげた。これらを作品から読み取り、文章化することで以下の２点の学びを促した。

- 作品の良さや美しさ、作者の意図を造形的な視点で読み取り、造形的な見方・考え方を養う。
- 鑑賞で得た造形的な見方・考え方を活かす作品課題を設定することで、深い学びにつなげる。

具体例：絵画「印象派の模写」

右は絵画レポート４「印象派の模写」で行なった鑑賞課題である。印象派の画家を一人選び、評価基準に従って画風の特徴を記述する。記述の際は「色合い」「よく描かれているもの・場所」「筆の動かし方・タッチ」という３点に着目させた。そうすることで、漠然と作品を眺めるのではなく、後の実技課題「模写制作」に繋がる造形的な視点での鑑賞を行わせた。

B 以下の印象派の画家について、インターネットや本で調べてどんな作品を描いたか調べなさい。
そして、1 番気に入った画家の名前に〇を付けなさい。

クロード・モネ　エドガー・ドガ　ポール・セザンヌ　カミーユ・ピサロ
ピエール＝オーギュスト・ルノワール　アルフレッド・シスレー　ベルト・モリゾ

C 深める Bで選んだ画家がどんな作風か、いくつかの作品を見比べて説明してください。
（横書きで、隙間を空けずに５行以上書いてください。書ききれない場合は【メモ】に書いてください。）

↓次のページのマス目に解答を記入する際は、この評価基準を参考にして書いてください。

鑑賞課題の評価基準（目標の達成度）	A	B	C
分量	5行以上書くことが出来た。	5行以上書くことが出来た。	5行以上書けていない。
（目標の達成度）	選んだ画家の作風について、①「色合い」②「よく描かれているもの・場所」③「筆の動かし方・タッチ」の3つ全てについて書き、説明できた。	選んだ画家の作風について①②③のうち1つ以上説明が出来た。	選んだ画家の作風について正しく説明出来なかった。

下記はベルト・モリゾについて鑑賞・模写を行なった生徒の例である。色彩や絵の具の塗り方に注目したことが文章にも絵にも表れている。鑑賞で得られた知見を制作に活かすことで、絵の具による表現について理解を深め技量を高めた生徒が多く見られた。なお、作品の鑑賞にはパブリックドメイン作品を活用した。

【生徒によるベルト・モリゾについての画風の分析と、「ワイト島のウジェーヌ・マネ」の模写】

具体例：美術Ⅱ「花を描く・草花のデッサン」

右は美術レポート１「花を描く・草花のデッサン」にて行なった鑑賞課題である。教科書に掲載された作品を一点選び、作品の特徴を最初の解答欄に記述する。評価基準に沿ってその作品に何がどのように描かれているか客観的に記述させることで、生徒にしっかり作品を鑑賞させることと、次の解答欄に「その作品が気に入った理由と、作品の感想を書いて下さい。」をできるだけ造形的な視点を用いて記述できるようにする目的があった。生徒の解答を読むと、最初の解答で客観的に作品を説明することで、上記の目的を達成していたなど、生徒からは感想が書きやすくなったという声もあった。

A 深める 作品の特徴(何がどのように描かれているか、色や形の特徴など)を文章で説明してください。
(横書きで、隙間を開けずに５行以上書いてください。描ききれない場合は裏の【メモ】に書いて下さい)

気に入った作品の題名		作者名	

↓下記のマス目に解答を記入する際は、この評価基準を参考にして書いてください。

鑑賞課題の評価基準（目標の達成度）	A	B	C
分量	5行以上書くことが出来た。	5行以上書くことが出来た。	5行以上書けていない。
（目標の達成度）	選んだ作品を①「描かれた花の種類」②「使われている色」③「描かれている大きさ」の3つについての言葉をすべて使い、説明できた。	選んだ作品について説明できた。	選んだ作品について説明できなかった。

ひまわりなどの様々な花が咲き乱れる様子を緑色の背景に黄色に近い赤や黄などのカラフルな色で描かれている。すべての花がかなめに描かれていて、花の色の明るさと比べ全体で見たときに暗くみえる。花の大きさを変えることで遠近感がでていると思った。

←5行目

○鑑賞におけるパブリックドメイン作品の活用

美術では作家の作品をプロジェクターで投影して鑑賞する機会が多い。しかし、室内の明るさやプロジェクターの性能、生徒の身体的な問題などによって、精細な画像を見ることが難しい場合がある。その対策として、生徒の手元のスマートフォンや Chromebook などを用いた作品鑑賞を以前から行っていた。しかし、生徒がネット検索で高解像度な画像を自力で見つけることはかなり難しいということが分かった。

【wikipedia のレオナルド・ダ・ヴィンチのページ】

そこで、Wikipedia のパブリックドメインになっている作品を利用してみた。（先のページで紹介した絵画レポート４「印象派の鑑賞」や、同レポート１「レオナルド・ダ・ヴィンチの鑑賞」など）。Wikipedia には高解像度の作品が多く掲載されており、細部の拡大もできる。このことにより作品の美しさを味わいやすくなり、主体的に鑑賞を行うきっかけとなるのではないかと考えた。結果として画像を拡大して作品の細部まで観察するなど、積極的に鑑賞をしている生徒が多く見られた。

④　まとめ

今年度、芸術科ではＩＣＴを活用することによるスクーリングの改善や、評価基準を作品制作に取り入れる方法などを研究・検討してきた。美術では視覚を用いた鑑賞課題を改善し、より生徒が主体的に学習に取組みやすく、作品制作に活かせるような工夫をした結果、生徒の造形的な視点を養うことができたと思われる。今後は作業時間の確保上実施が難しかった生徒同士の作品鑑賞や意見交換などの対話的な活動を、ＩＣＴを活用しさらに進めていきたい。

（８－３）芸術科（工芸）

①　３年間の取組み

工芸科においては、今年度より工芸Ⅱが新教育課程のレポートとなった。新規にレポートを作成するにあたり、以下の２点の新たな取組みを行った。

- **作品制作、鑑賞課題における評価基準の明示：**評価基準を明確にすることで、生徒が課題に迷いなく取組めるようにする。
- **「裂織」の制作：**リサイクルの知恵である裂織を作品例や技法を通して学び、工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めるとともに、目的に応じて制作方法を工夫することを学ぶ。

②　３年間の成果と課題

〇作品制作、鑑賞課題における評価基準の明示

作品制作や鑑賞課題においてポイントとなる項目について具体的に記述してあるものをＡ評価とした。課題においては各項目について具体的に記述することを大切にさせた。これらのことを通して以下の点についての学びを促した。

- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫について考え、それらを作品制作や鑑賞活動に活かすことで深い学びにつなげる。

具体例：「日本の伝統工芸品」レポート

右の課題は工芸Ⅱレポート５　裂織ランチョンマット制作と併せて行った鑑賞課題である。教科書にある「日本の伝統的工芸品」から１点を選んでその工芸品について調べ、それについての感想を記述させた。

記述のポイントとして、「産地」やその工芸品の「特徴」をあげることで工芸品を鑑賞する上での手がかりを示した。工芸品は伝統の中で培われた生活に根差した芸術作品である。産地や特徴を詳しく調べることで生活や社会との関わりを考えさせ、伝統と文化に対する見方や感じ方を深めさせたいと考えた。

右の生徒は江戸切子について調べ感想を書いている。日常の中から鑑賞する作品を選べており、工芸品は日常生活と深く関係していることが述べられている。また模様の特徴、切子を使用した様々な製品があることを非常に丁寧に調べている。江戸切子の繊細な特徴から日本人の心情にも言及されており、評価基準の文言をきっかけに深く掘り下げた作品鑑賞ができている。

令和５年　工Ⅱ５　3/4

鑑賞課題　日本の伝統工芸品　【思考・判断・表現】

教科書 36、37ページの『日本の伝統的工芸品』を見て、興味のある工芸品を1点選んで、その工芸品を調べてまた、工芸品の感想を書いてください。

深める

目標　日本の伝統的工芸品から１点選び感想が書ける。

評価基準（目標の達成度）	A	B	C
分量	太線以上書くことができる。	太線以上書くことができる。	太線まで書くことができない。
内容	産地の特徴など詳しく調べ工芸品の感想が書ける。	工芸品の感想が書ける。	工芸品の感想が書けない。

都道府県名　東京都　　工芸品名　江戸切子

※文字は詰めて太線以上書くこと。

祖父母の家に江戸切子のコップがあり、時々使っていたのですが、江戸切子についてほとんど知らなかったのでこの機会に調べてみました。調べてみると、コップやお皿、壺やアクセサリーなど色々なタイプのものがあり、文様、技法、色も様々で、その多様性に改めて驚きました。たとえ同じ文様を使っていたとしても、カットの大きさや直線・曲線との組み合わせ方でデザインは無限に生まれます。着色だけでなく、菊繋ぎや菊籠目といった文様の細かさで微妙な色合いを表現することができるそうで、とても日本人らしい繊細さがあると感じました。器の外側が美しいのはもちろん、中を覗いた時にも美しい模様が見えるように設計されていて、360度どの角度から見ても美しく、1つのモノの中に色々な楽しみ方があるところがとても素敵だと思います。日常生活の中に芸術が溶け込んでいて、日々触れることができるのはとても良いと思いました。

足りない場合は、メモに書いてください。

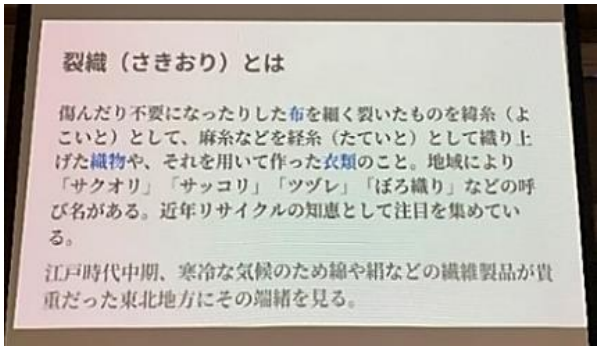
つづく

○「裂織」の制作

綿花栽培に適さない東北の寒冷な気候の中で、裂織はいかに今ある布を長く大切に使うかを考える過程で生み出された。このような工芸品を実際に制作し、鑑賞することで工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めるとともに、目的に応じて制作方法を工夫することを学習した。

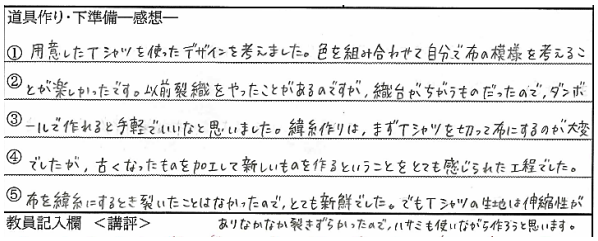
○ＩＣＴ機器の活用

裂織に対する理解を深め、生徒の主体的な学びを促すため Power Point を使用し、説明と作品例の鑑賞を行った。東北地方で裂織が作られてきた理由や具体的な作品例を提示することで、裂織に対する正しい知識を学習した。また制作の過程でわかりづらい作業の部分を動画を通して理解を深めさせた。

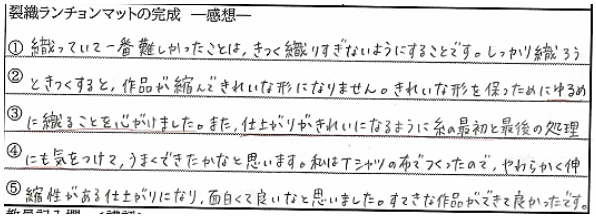


具体例：裂織ランチョンマット制作

右は工芸Ⅱレポート４通目、５通目、裂織の完成品の画像である。４通目はデザインのアイデアスケッチ、織台と糸の作成を行った。織台は段ボールを使い、糸は布を裂くことで作成させた。特別な道具がなくても織物を作ることが出来ることや、古いものが加工されることで新しいものに生まれ変わることに驚きを感じている生徒が多く見られた。また学校でも布は用意したが、右の生徒は着なくなったＴシャツを持参しており、スクーリングに対する高い意欲を感じることができた。


道具作り・下準備―感想―

① 用意したTシャツを使ったデザインを考えました。色を組み合わせて自分で布の模様を考えるこ
② とが楽しかったです。以前裂織をやったことがあるのですが，織台がちがうものだったので，ダンボ
③ ールで作れると手軽でいいなと思いました。縫糸作りは，まずTシャツを切って布にするのが大変
④ でしたが，古くなったものを加工して新しいものを作るということをとても感じられた工程でした。
⑤ 布を縫糸にするとき裂いたことはなかったので，とても新鮮でした。でもTシャツの生地は伸縮性が
教員記入欄　＜講評＞　ありなかなか裂きずらかったので，いすにも使いながら作ろうと思います。


裂織ランチョンマットの完成　―感想―

① 織っていて一番難しかったことは，きつく織りすぎないようにすることです。しっかり織ろう
② ときつくすると，作品が縮んできれいな形になりません。きれいな形を保ったためにゆるめ
③ に織ることを心がけました。また，仕上がりがきれいになるように糸の最初と最後の処理
④ にも気をつけて，うまくできたかなと思います。私はTシャツの布でつくったので，やわらかく伸
⑤ 縮性がある仕上がりになり，面白くて良いなと思いました。すてきな作品ができ良かったです。

右は工芸Ⅱレポート４通目、５通目、裂織の完成品の画像である。４通目はデザインのアイデアスケッチ、織台と糸の作成を行った。織台は段ボールを使い、糸は布を裂くことで作成させた。特別な道具がなくても織物を作ることが出来ることや、古いものが加工されることで新しいものに生まれ変わることに驚きを感じている生徒が多く見られた。また学校でも布は用意したが、右の生徒は着なくなったＴシャツを持参しており、スクーリングに対する高い意欲を感じることができた。

５通目では実際に織の作業を行った。地道な作業のため黙々と取組んでいる生徒が多く見られた。右の生徒はアイデアスケッチに従い小まめに糸の色を変え、またしっかり編もうとして段々と形が先細りしてしまう生徒が多くいる中、きれいな形を保ちながら仕上げようと試みている。これらのことから目的に応じて工夫した作業をすることができたと考えている。

③今後の展望

工芸科では以上のような試みを行った結果、迷いなく作品鑑賞や制作に取組み、学びを深める生徒が多かったように思われる。またものづくりは一人で行うというイメージが強いが、スクーリングでは共同作業をたびたび行っている。生徒のリアクションはとても良く、楽しんでいるようである。今後もこうした取組みを行いつつ、ＩＣＴを用いた作品の相互鑑賞を行うなどの対話的な学習をさらに進めていきたい。

（８－４）芸術科（書道）

（１） ３年間の取組み

書道科においては、今年度より書道Ⅱが新教育課程のレポートとなった。新規にレポートを作成するにあたり、以下に取り上げる２点の取組みを行った。

- **作品鑑賞における評価基準の改善**：以前より鑑賞課題に用いていた評価基準を「表現効果と風趣との関わり方・考え方」を育てるという点に着目し、改善を行う。
- **漢字仮名交じりの書における創作作品の制作**：二八の 1/3（60cm×65 cm）サイズの大きな紙へ、書道Ⅰ・Ⅱの一字書の創作で学んだ技法を発展させ、作品の創作と鑑賞に取り入れた。生徒がより主体的に作品の良さや美しさを味わうとともに、自己のイメージを形にする表現方法を学ぶ。

（２） ３年間の成果と課題

①作品制作、鑑賞課題における評価基準の明示

作品の鑑賞課題において、作品の鑑賞のポイントとなる要素を記述することをＡ評価の条件にした。記述においてのポイントとしては、自己の制作意図に応じた表現（参考古典書体・書風、全体の印象、墨色、構成）をあげた。これらについて、文章化することで以下の４つの学びを促した。

Ⅰ．漢字仮名交じりの書の特質を踏まえ、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりや、書を構成する要素の相互の関連、線質、字形等の書の表現性、表現効果と風趣との関わりについて理解する。

Ⅱ．漢字仮名交じりの書の特質を生かし、創作における意図に基づいた効果的な表現をするための基礎的な技能を古典作品の臨書を通して身につける。

Ⅲ．書のよさや美しさを甘受し、名筆を活かした表現、現代に生きる表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現と、その要素や形式について考え、意図に基づいて構想し表現を工夫するとともに、創造された作品の意味や価値について、生活や社会との関わり等から考え、書のよさや美しさを味わい捉える。

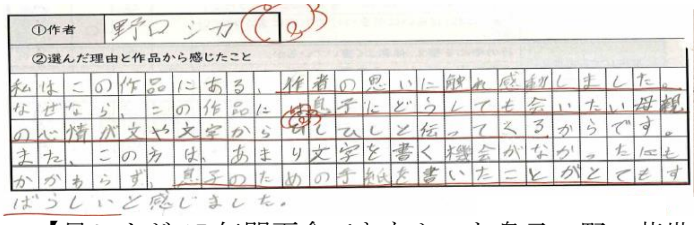
ⅳ．自身の表現の意図に基づき、漢字仮名交じりの書の特質に基づいて表現することや書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

深める [2]（1）教科書 P.100、101の手紙を鑑賞してどの作品が最も心に残りましたか。①作者②選んだ理由とその作品から感じたことを100文字以上で書きましょう。 【思考・判断・表現】

	評価項目	A	B	C
評価基準（目標の達成度）	分量	・①～②空欄なく書くことができている。 ・②について100文字以上書くことができている。	・①～②空欄なく書くことができている。 ・②について100文字以上書くことができている。	・①～②に空欄がある。 ・②について100文字以上書くことができていない。
	内容	・選んだ理由を書くことができている。 ・作品から感じたことを作者の思いに触れ、書くことができている。	・選んだ理由を書くことができている。 ・作品から感じたことを書くことができている。	・選んだ理由を書くことができていない。 ・作品から感じたことを書くことができていない。

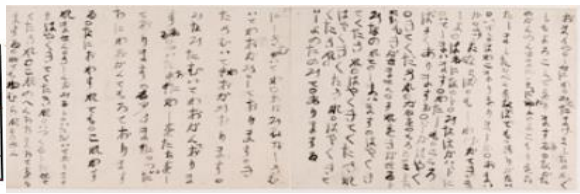
具体例：「手紙の鑑賞による手書き文字の効果」

右は書道Ⅱレポート６「漢字仮名交じりの書」にて行なった鑑賞課題である。前段で任意の手紙とそれを書いた人物を選び、評価基準に従って手書き文字の効果について記述させることで、生徒にしっかり作品を鑑賞させること、また次の解答欄である「手紙の作者の思いと、選んだ理由」をできるだけ線質、字形、構成等の要素と書の美の多様性な視点を用いて記述できるようにする目的があった。下記の生徒は作者の思いに触れ、作品の背景を踏まえて読み取れている生徒の例である。直感的な鑑賞を大切にしながら、今回得た多方面からの視点を意識して制作を進めることで、知識を深めた生徒の姿が多く見られた。


①作者　野口シカ

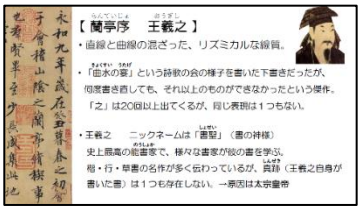
②選んだ理由と作品から感じたこと

私はこの作品にある、作者の思いに触れ感動しました。なぜなら、この作品に息子にどうしても会いたい母親の心情が文や文字からひしひしと伝ってくるからです。また、この方は、あまり文字を書く機会がなかったにもかかわらず、息子のための手紙を書いたことがとてもすばらしいと感じました。



【母シカが 15 年間再会できなかった息子・野口英世に宛てた手紙と、生徒による鑑賞の記述】

②ＩＣＴ機器の活用



臨書する古典作品に対する理解を深め、生徒の主体的な学びを促すため Power Point を使用し、説明と手順の確認、作品例の提示を行った。実際に飾られている博物館や町の様子や具体的な作品例を提示することで、作者や作品の背景について正しい知識を学習した。また制作の過程でわかりづらい部分については筆遣いの動画や書画カメラで流すとともに一緒に筆を持って書くことで、知識だけでなく繊細な筆脈や緩急等の理解も深めさせた。作者の背景を知った上で鑑賞することで作品の美しさを味わいやすくなり、主体的に鑑賞をするきっかけとなるのではないかと考えた。結果として作品の細部まで鑑賞するなど生徒が積極的に取組む姿が多く見られた。また生徒が安心して学習に取組めるよう、Google Classroom を利用し、事前学習の撰文に対する助言や篆刻等の特殊な課題に必要な持ち物の連絡、創作時の参考になる展覧会のお知らせを配信した。

具体例：「漢字の書の学習　一字書の創作から漢字仮名交じりの書の創作への発展」

書道の学習では、「表現」の活動の方法・手段が限られていることもあり、基礎を繰り返し積み重ねていくことで資質・技能の向上を図ることになる。その過程の中で見方・考え方を働かせることで学びを深め、生徒それぞれが成長を実感していくことが重要である。

右は書道レポート３「漢字の書　一字書の創作」で行なった課題の生徒作品である。好きな漢字を選択し、これまでの古典臨書を活かして、文字から連想される自分の中のイメージを理解し、文字で形にする表現方法を学ぶ。制作にあたり、臨書で使用していた墨汁ではなく、淡青墨を使用した。タイマーを使用し、書くスピードを視覚的に調整することで滲みやかすれ、墨の色合いの違いを意識させた。また紙面構成や筆を使わずに書くなどの用具用材の工夫も加えつつ、自己表現の幅を広げた。

右下は書道レポート６「漢字仮名交じりの書の創作」では「一字書の創作」での学びを活かし、草稿を基に、言葉の印象に表現を近づけるように様々な書体と構成に何度も工夫を重ねる生徒の様子が見られた。自分の表現したい作風に近い作品の画像を事前に用意する様子や、墨を磨って自分の墨色を１から作る生徒など課題に対する高い意欲を感じるとともに、自分からの視点と他者からの視点での印象の違いを楽しみながら制作する様子が見られた。

（３）今後の展望

令和５年度、書道科ではＩＣＴを活用した通信制高校における「主体的・対話的で深い学び」等によるスクーリングの改善や、評価基準を作品制作に取り入れる方法を研究・検討してきた。書道では視覚を用いた鑑賞課題を改善し、生徒が主体的に学習に取組みやすく、作品制作に活かせるような工夫ができた。またＩＣＴを活用しながらも手書き文字文化特有の大切さについても理解を深めさせていきたい。ＰＣ、スマートフォンが当たり前となり、生徒にとって手書き文化が薄れつつある現代において、手書き文字の芸術性や、手書きだからこそ相手に伝えることができる心情といった、芸術書道の特徴を知る機会を増やし、深い学びへとつなげたい。

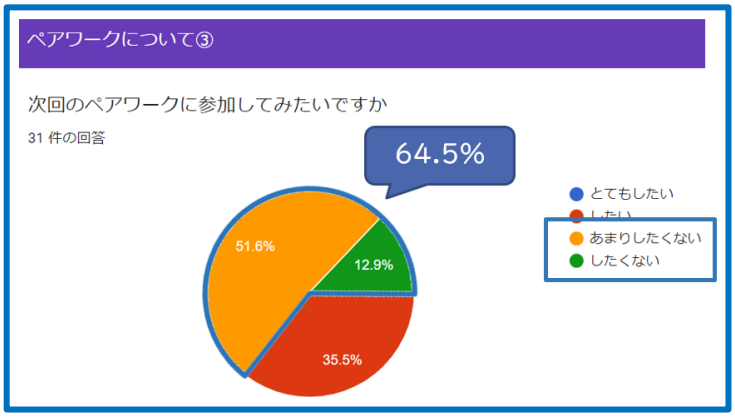
（９）外国語科

①　３年間の取組み

令和３年度、ＩＣＴ機器の活用と通信制における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ＢＹＯＤ端末を使いアプリケーションを通しての生徒参加型のスクーリングを多く取り入れた。令和４年度、ＩＣＴ機器を活用し自宅での「主体的・対話的で深い学び」をより充実させるため、新たな課題に取組ませることを試みたが不十分なまま終わってしまった。しかしながら、スクーリングの中で「主体的・対話的で深い学び」を目指して行った英作文指導は、評価基準の確認や、どのように英作文をするかの手立てを生徒の特性に合わせて短文かつ明確に示す、机間指導をして個別に声をかけながら進み具合・解答を確認することで、より良いものへ近づいたと考える。

上記の取組みを教員が継続して行ったことで、令和４年度に比べ生徒は英作文に積極的に取組むようになった。例として、自分で単語を調べ最後まで自分の言葉で文を完成させる生徒が増えた。そのため、今年度は今までの取組みを踏まえ、ＩＣＴ機器を活用した英作文指導を改善することを目指した。書き上げた英作文を用いてペアワークを行うことも考えたが、今年度初めに行ったアンケートでは、スクーリングでペアワークに挑戦したことのない生徒 31 人のうち 64.5%の 20 人がペアワークに対して否定的な意見で、人と話すことが苦手だからという回答が多かった。（参考①②）

参考①



参考②

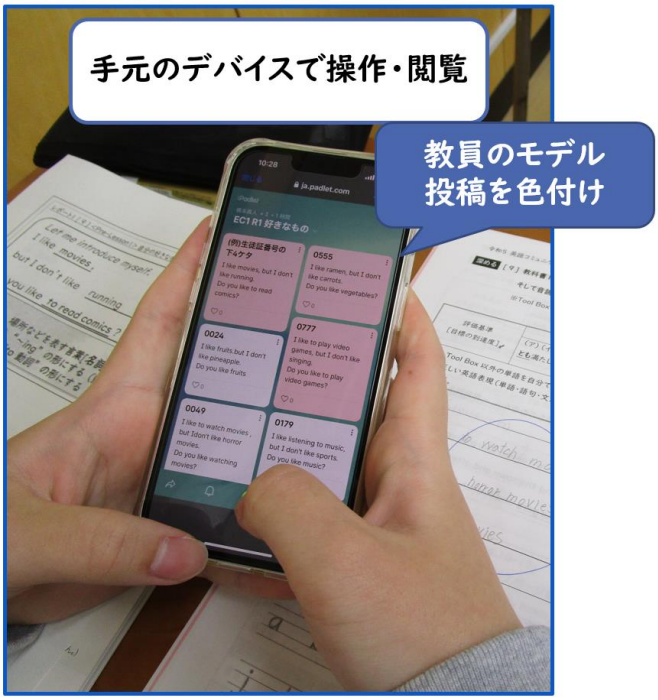
【2023 年６月　アンケート対象：英語コミュニケーション I 全講座　スクーリングでペアワークに挑戦したことのない生徒】

しかし外国語科の共通認識として、深める問題を通して、英作文だけに留まらず他者の意見を知ることでより他者に興味を持ってもらうこと、そして、共通の話題でコミュニケーションを取ることで主体的・対話的に学びを深めて欲しいと考えた。

そこで、ＩＣＴ機器を活用し Padlet というアプリを用いて、書き上げた英作文の共有や意見の交換を行った。Padlet は、Web ブラウザ上で使用できるオンライン掲示板アプリで、文字を入力して意見の発表ができるほか、画像や音声などいろいろなものを投稿することができる。また、投稿されたものは生徒同士、自分のデバイスで閲覧したりコメントしたりすることもできる。このアプリを活用し、生徒に各自のデバイスを使って書き上げた英作文を打ち込ませることで意見の発表、さらに教室前方のスクリーンに Padlet を映し出すことで全体の共有を図った。

まずはレポートの英作文を書くために、令和４年度の取組みを活かし、生徒は手元のデバイスで単語を調べながら英作文に取組んだ。また、教員が手立てを細かく示しながら机間指導したことで、生徒は自分の意見を書くことができた。生徒たちは教員のモデル投稿を参考に、でき上がった自分の英作文を Padlet に投稿する。教員のモデル投稿に色付けをしてどこに何を書き込んで投稿するかをわかりやすくすることで、ＩＣＴ機器の操作が苦手な生徒でも問題なく参加することができていた。

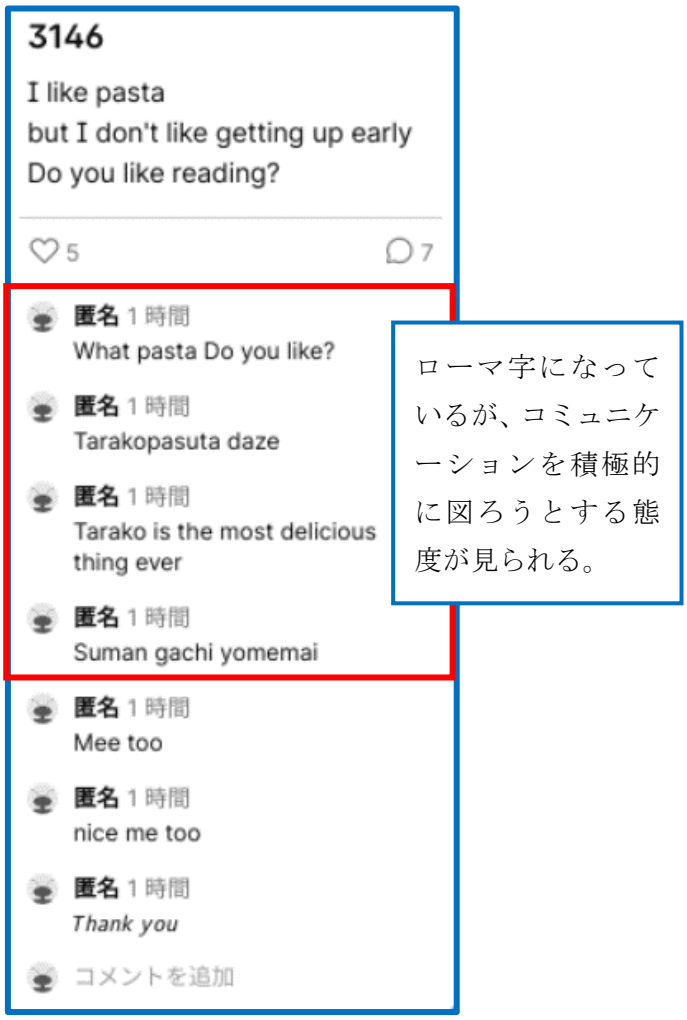
また、名前を書かせず生徒証番号のみにしたことで、職員側には入力した生徒が誰か分かるようにしつつ、苦手意識のある生徒でも書き込みやすくするように配慮した。

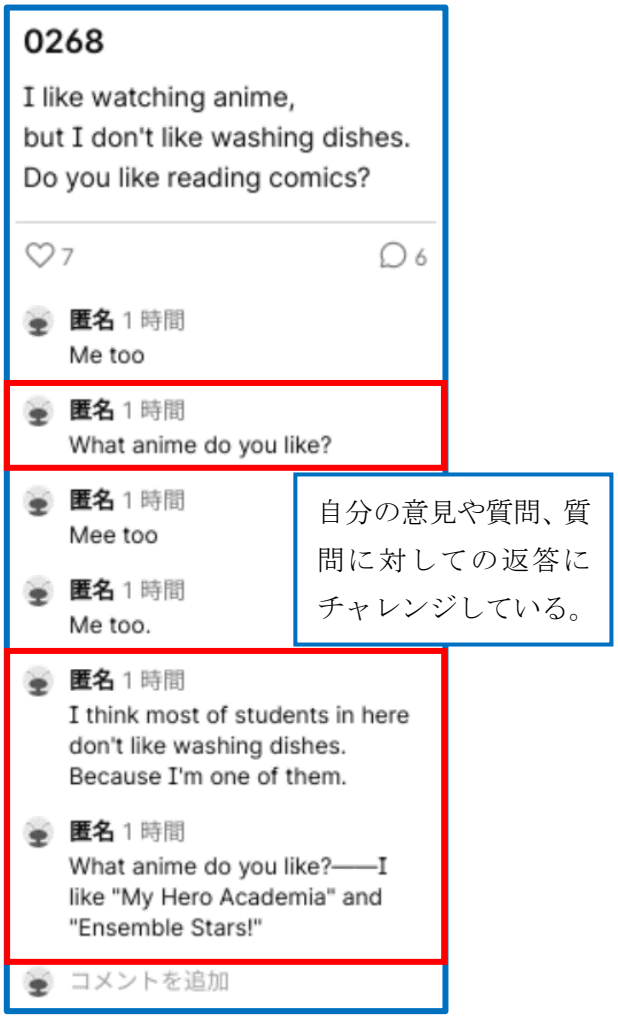


そうして書き込まれた他者の意見は手元のデバイスで見ることができる。ある程度他者の意見を読ませたところで、教員のデバイスから「いいね！」ボタンとコメント機能を段階的に開放していく。

まず「いいね！」ボタンを開放することで、生徒は他の生徒が書いた英作文に対して気に入ったものに気軽にリアクションすることができる。「いいね！」ボタンを押されることで、自分の書いた英作文が他者に伝わっていることに気付くことができる。

次に、「いいね！」ボタンを押させた後にコメント機能を開放する。「Good!」や「Me too!」、「Amazing!」などの反応を先に教えておくこと、また、ボタンを押した投稿に対してのコメントにチャレンジしてみることを伝えることで、コメントへの敷居を低くした。この取組みを始めた当初は、定型文での返答が多く見られたが、回数を重ねるにつれて、日本語やローマ字を使ってしまうことはあるものの、コミュニケーションを取ろうとするコメントが目に見えて増えた。

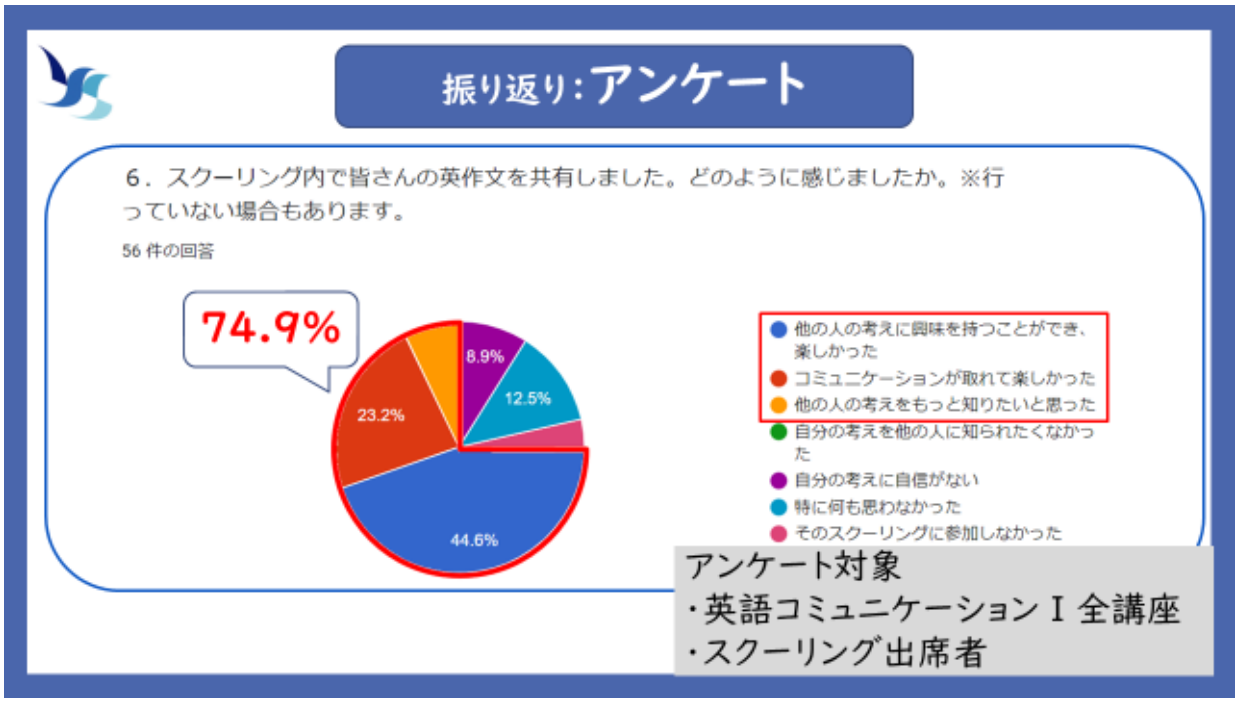




② ３年間の成果と課題

英語コミュニケーションⅠの講座では、各レポートが終わるスクーリングの時間に生徒に対して振り返りアンケートを行っている。その中で、初めて Padlet を用いた英作文の共有の活動を行った際のアンケートでは、英作文共有の活動について「他の人の考えに興味を持つことができた」「コミュニケーションが取れて楽しかった」「他の人の考えをもっと知りたいと思った」という肯定的な意見が 56 人中 74.9%の 42 人という結果だった。先述した通り事前のアンケートではペアワークに苦手意識を持っている生徒が多かったが、対面でのコミュニケーションに恐怖心があるだけであり、意見共有を行うこと自体については楽しめるということがわかった。また、近年は情報化社会ということもあり、生徒はＳＮＳ等での意見交換も行っている者も多いことからかＩＣＴ機器を用いての顔の見えないコミュニケーションにはあまり抵抗がないように思えた。

一方で、8.9%の５人が「自分の考えに自信がない」と答えた。英作文は書くことができていても、自己表現が苦手という生徒に対してどのようにアプローチしていくかが課題である。



③ 今後の展望

１年目にはＩＣＴ機器と様々なアプリを用いたスクーリング展開を行ったことで生徒と教員がＩＣＴ活用のノウハウを身に付けた。２年目には自宅学習でも主体的・対話的で深い学びを充実させようとしたが、課題が多く残った。しかし、並行して行ったスクーリングでの深める問題に対するきめ細やかな指導は継続し磨きをかけたことで、その集大成として３年目のＩＣＴを用いた英作文の共有・コミュニケーションにつなげることができた。

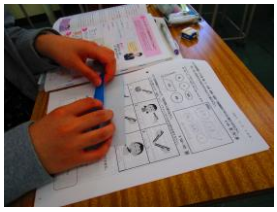
ある程度の匿名性を保ちながらのコミュニケーション活動は、様々な事情を抱える生徒たちが多数在籍する通信制高校における「主体的・対話的で深い学び」の学習形態の一つとなり、他教科へも普及した。

今後は近年の GIGA スクール構想のもと、更なるデジタル化が予想される。それらに対応した教材開発が今後の急務となっていくと考えられる。

（10）家庭科

①　３年間の取組み

今年度は各科目に取り入れる主体的な実習を増やした。保育基礎、フードデザインでは折り紙での実習を取り入れ、知識的な学習の後に応用編として行うことで生徒たちは楽しみながらよく取組んでいた。

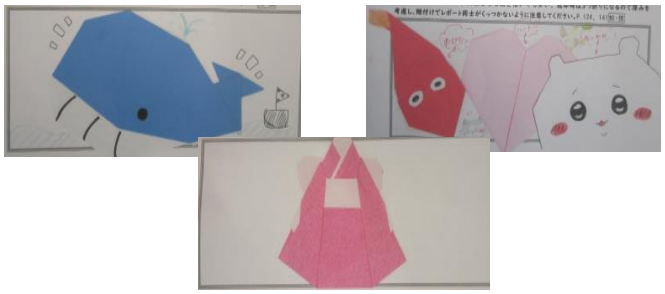


【フードデザインのスクーリングで箸置きを作る生徒たち】

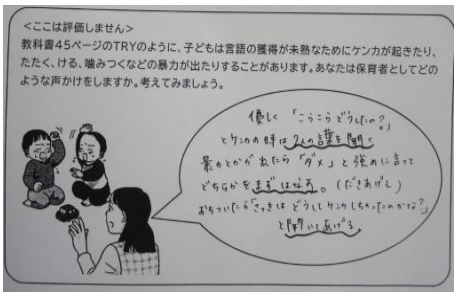
【生活と福祉での毎時の手話】

【手話カードで覚えた手話を定着】

【書画カメラでデザインを指導】



【保育基礎で新たに取り入れた造形表現活動】



【保育基礎でのふきだし問題】

【廊下掲示板で示す『優秀作品のコツ』】

② 　３年間の成果と課題

手ごたえのある実習を精選し、スクーリングでの生徒の活動量を増やしてきた結果、継続して出席することに意義を感じる生徒が増えてきたように見受けられる。

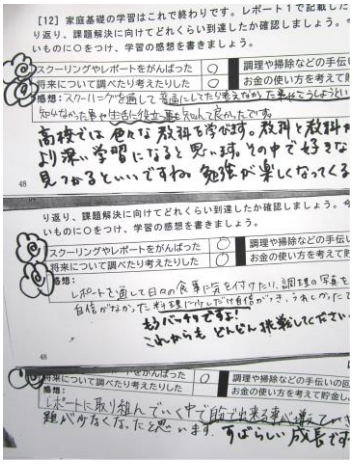
11 月に行われた研究成果発表会では、県内・県外さまざまな先生方に修悠館の家庭科が意識してきた『自己肯定感を高める実習』『失敗と感じさせないための工夫』などを実習用具と共に紹介した。

【実習体験に加え、手話カード、点字打ち器、添削例などの展示】

【美術科・情報科と取組んだピクトグラムプロジェクトの作品展示も行った。】

【生徒の取組みを記録動画にしたものを放送】

③ 　今後の展望



【自身の学習の振り返り欄】

今年度新たに保育に関する科目で採用した吹き出し問題など、今まで苦手かと思われていた課題にも挑戦できる生徒が増えてきた。それには段階を追って丁寧に積み重ねて指導することが不可欠であるが、積極的に学習しようとする生徒が発展的に取組める課題も充実させていきたい。

家庭基礎では各レポートに学習のまとめとして自己の振返りの欄を設けた。学習で取組んできたことと日常生活の結びつけが可視化されるような設問は、生徒の達成感・自己肯定感を高めていく。家庭や地域の生活を主体的に創造する能力や態度を育てるレポート内容を今後も検討していきたい。

(11) 情報科

① ３年間の取組み

○カリキュラムの編成

情報科においては、旧教育課程から新教育課程に変更になる段階で、必履修科目が再編されており、それに合わせて、設置科目と推奨年次の見直しを行った。

	１年次相当	２年次相当	３年次相当
～令和４年度 (旧課程)	(設置科目なし)	社会と情報◇ 情報の科学◇	ＤＴＰ
令和５年度	(設置科目なし)	情報Ⅰ◆	くらしと情報
令和６年度	(設置科目なし)	情報Ⅰ◆	くらしと情報 情報Ⅱ

【表１ 本校における情報科の設置科目の推移と推奨年次（◆：必履修科目◇：選択必履修科目)】

〈情報Ⅰ〉

本校においては、情報の必履修科目を２年次相当に設置している。これは、表計算を扱う際に「数学Ⅰ」の統計の知識を要するためであるが、本校では入学年度に「数学入門」を選択する生徒が多く、「数学Ⅰ」を選択するのは２年次相当以降となっている。新教育課程の科目についても同様で、必履修科目である「情報Ⅰ」を２年次相当に設置した。

〈情報Ⅱ〉

情報科の上位科目として、情報系の大学・専門学校への進学を志望する生徒を対象として設置した。

〈くらしと情報〉

「社会と情報」や「情報の科学」で扱っていたが「情報Ⅰ」の内容から外れたものや、「ＤＴＰ」で扱っていた内容を残すために、学校設定科目として「くらしと情報」を設置した。

○実習内容・補助資料の見直し

旧教育課程の必履修科目については、Microsoft 社の製品を使用した実習課題を設定していた。

社会と情報
文書作成（Microsoft Word）
プレゼンテーション原稿作成
（Microsoft Power Point）
表計算（Microsoft Excel）

情報の科学
表計算（Microsoft Excel）
グラフ作成（Microsoft Excel）
データベース（Microsoft Excel）

【図１ 旧教育課程必履修科目における実習内容と使用アプリケーション】

この場合、スクーリングで実習を行うことができれば問題は無いが、当該回に出席することができなかった、かつ、ライセンスを持った端末を生徒が所持していない場合は、実習課題を作成することができず、別の機会を設定する必要が生じ、教員と生徒双方に負担が生じていた。

そこで、新教育課程移行に伴い、新しい必履修科目の実習課題について検討を行ったところ、本校では、生徒に対して入学時に Google のアカウントを設定していることから、Google のアプリケーションやオンライン上の無料のアプリケーションを使用する実習課題を設定した。

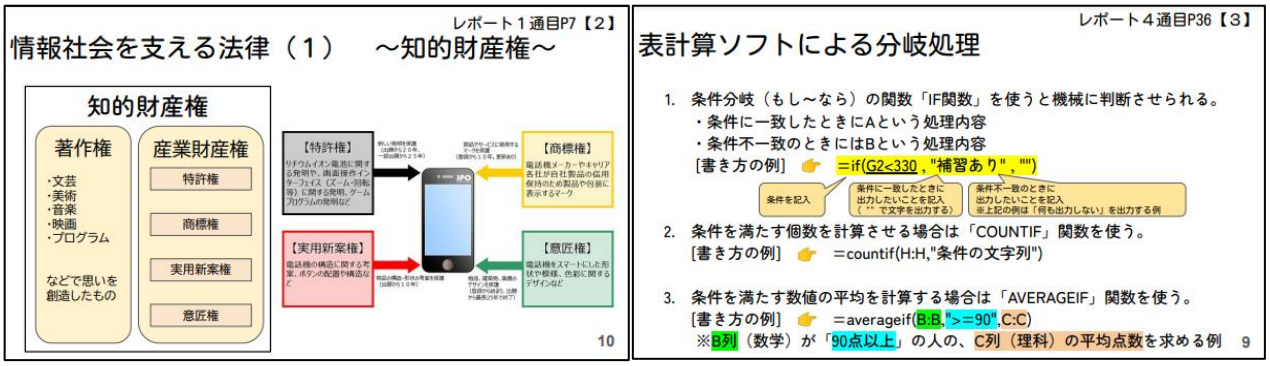
情報Ⅰ
ピクトグラム作成（Pictogramming）、
プログラミング（Scratch）、
データベース（Access）、
表計算（Google スプレッドシート）

【図２　新教育課程必履修科目における実習内容と使用アプリケーション】

ピクトグラム作成に関しては、ソースコード順に動作することからプログラミングの導入としても使える Pictogramming を用いることとした。また、プログラミングについては、今後、小学校の教育課程からプログラミング教育を受けてきた生徒と、様々な事情で小中学校に通うことができずにプログラミング初心者である生徒が同じ講座に存在することが予想されるため、応用の幅が広い Scratch を使用している。

【図３　実習課題「ピクトグラム作成（情報の表現と伝達）」 】

また、スクーリング資料に関しても、マイページや Google Classroom 上にアップロードしており、出席しなかった回の内容や、実習のアプリケーションに関する説明などを生徒の都合に合わせて閲覧できるようにした。



【図４　スクーリング解説資料（本校マイページより）】

【図５　実習課題「Scratch の作品制作(プログラミング)」の解説動画（本校マイページより)】

〇実習における評価基準の設定

今年度は、「情報Ｉ」の初年度ということもあり、生徒がどのようなものを作成するか未知数の部分も大きかった。そこで実習に関しては操作方法を理解し正しく扱うことを優先し、独創性に関しては、今年度は必須としなかった。

深める【５】Scratch の課題制作　【３観点すべて】

（１）　スクーリングまたはITコンテンツで紹介する参考例を見ながら、自由にプログラムを組んで、画面キャプチャした画像ファイルを印刷してください。
また、その作品に対する説明文・紹介文を記述してください。

★補足★今回の課題作成は参考例をそのまま使用しても構いません。

▼評価基準▼

評価	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
A	作品を完成させた。	作品紹介とプログラム内容が一致し、かつ、紹介文からプログラムの内容が簡単に読み取れる。	次の内容を複数種類理解できていること。 1.　分岐、反復処理が使える。 2.　変数を活用できる。 3.　四則演算ができる。
B	作品が完成していない。	次のいずれかに該当する。 1.　作品紹介とプログラム内容が一致していない。 2.　紹介文からプログラムの内容を読み取ることが難しい。	上記の内容を１種類理解できている。

【図６　実習課題「Scratch の作品制作(プログラミング)」の評価基準】

②　３年間の成果と課題

〇カリキュラムの編成

令和６年度より「情報Ⅱ」を開講することから、情報科における系統的な指導の立案と学校設定科目「くらしと情報」の内容の見直しを行った。令和７年度より、「くらしと情報」はＰＣの基本操作や本校ＩＴ講座における学習システムなどを学ぶ、情報科の入門科目としての位置づけになる予定である。

	１年次相当	２年次相当	３年次相当
令和７年度～	くらしと情報	情報Ｉ◆	情報Ⅱ

【表２　本校における情報科の設置科目と推奨年次（◆：必履修科目）　】

○実習内容・補助資料の見直し

無料のアプリケーションを使用した実習課題にすることで、Microsoft 社のライセンスを持たない端末もインターネットに接続していれば使用可能となり、また、実習課題作成回に出席できなかった場合にも、図書館等で貸し出されている Chromebook を用いて作成することが可能となった。

また、スクーリング資料をオンライン上に置いておくことで、欠席した回の内容を自学自習したり、学習が進まない部分を見直したりすることで、レポートの問題に関する質問に来た際のやり取りがスムーズに進んでいるように感じることが多くなった。

しかし、スクーリングに出席している生徒は、オンライン上の資料を利用するまでもなくレポートを完成させていることが多い。逆に、オンライン上の資料が必要となるはずであろう、登校が少ない生徒たちが、マイページにアクセスしていないことが多く、学習につまづいた場合には、「まずはマイページ」という周知が学校全体として必要なのかもしれない。

【図　情報Ⅰ　２通目補助資料一覧（本校マイページより）】

○実習における評価基準の設定

令和５年度は、オリジナルの作品はほとんど見られず、参考資料として載せていたものをトレースするようなものが多かった。しかし、ピクトグラムに関しては、ピクトグラムプロジェクトが行われたことで、校内で作品を目にすることにより、作品のイメージが湧いて、次年度以降は、オリジナルの作品が出てくることが期待される。

③　今後の展望

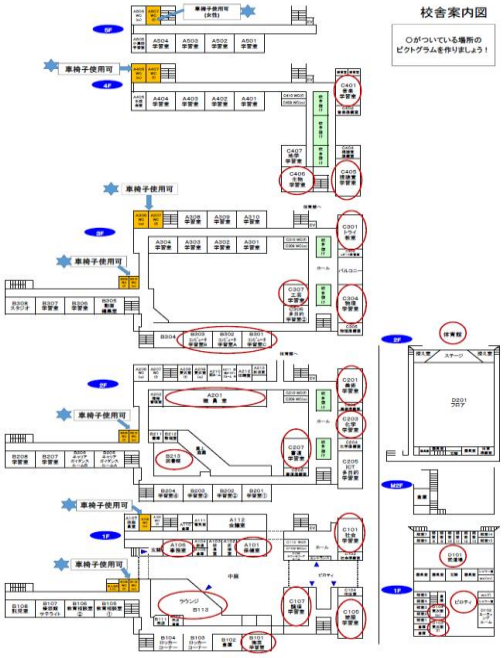
新教育課程での科目の設置と学習の内容が固まり、教科全体として、どの年次相当で何を学習していくかが少しずつ見えてきた。それにより、それぞれの科目の指導内容が明確化され、目標からゴールの設定まで見通しをもった学習内容に体系的に取組めるよう、さらなる検討が今後必要になっていくと考えられる。

(12) 修悠館ピクトグラムプロジェクト〔家庭科、芸術科（美術）、情報科〕
～生徒の作品を校舎内の看板に～

今年度は教科等横断的な取組みとして家庭科、美術科、情報科の三教科での合同プロジェクト「修悠館ピクトグラムプロジェクト」を立ち上げた。

家庭科の学校設定科目である『くらしとデザイン』では、後期に「校舎内のピクトグラムを考えよう」というユニバーサルデザインに関するテーマがある。１通目からデザインを学ぶと、やがてデザインに慣れ、最終通にもなると、かなり柔軟な発想の作品が提出される。教科を超えて３科目に広げることで、学校全体の大きなプロジェクトとしたい。採用された作品は実際に学校内の看板になり、校内の目印として活用される。

【案内ポスター（表）】



【対象教室（裏）】

前期のスクーリングの中で生徒に呼びかけ、ショートホームルーム（ＳＨＲ）では担任からもアナウンスをしてもらった。昨年度までに受講済である生徒、該当３科目は履修していないがデザインやイラストが好きな生徒、美術部にも声をかけた。

提出されたデザインは、生徒の目につきやすいラウンジ前に随時掲出するとともに校内インフォメーションで生徒たちに共有した。生徒作品を目にふれる場所に掲示することで、１部屋１デザインしか採用されない特性を活かし、「エントリーの少ない特別教室にエントリーする」、または「提出されているデザインと全く異なった発想でエントリーしてみる」など、どのようにすれば自分の作品が選ばれるかを考えて提出するよう促した。スキルの高い生徒が複数デザイン採用されることが望ましいわけではなく、様々な生徒に幅広く活躍の機会を与えたい。また、１作品生み出すことが精一杯という生徒の気持ちを削がないようにとの担当の思いもある。

【ラウンジ前の作品コーナー】

【校内インフォメーション】

また、生徒たちの目指すデザイン目標も設定した。深める問題（探究的な問いの形式）に則り、“より良いデザインのための指標”としての評価基準を示した。レポートでこの欄を確認しつつ問題に取組む姿勢が身についていれば、ただ自分の描きたいデザインを描くのではなく、“求められているデザイン”を生み出すことができると考えた。

	A	B	C
色	色数が２～３色 メリハリがある	色数が２～３色	色数が多い
デザイン	シンプル 遠くからわかりやすい 教室の特徴を捉えている	シンプル 遠くからわかりやすい	細かすぎる 遠くからわかりにくい
塗り	濃く均一に塗られている はみ出しやムラがない	濃く均一に塗られている	荒く塗られている

【エントリー用紙の裏に評価基準を明示】

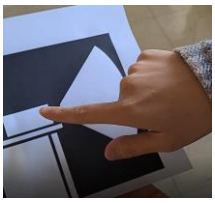
学校設定科目である「くらしとデザイン」では、スクーリングの時間（１時間）を使い課題に取組んだ。その他の生徒は家庭科、美術科のレポート完成講座で作業を補完した。

手書きで描き始め、指導のやりとりをするうちにデザイン系のアプリを使用して仕上げた生徒も多く、不器用な筆使いの影響が出ないデジタルを上手く活用していた。

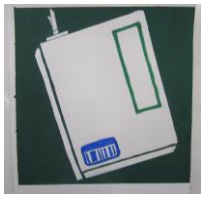
エントリー箇所はなるべく重複しないように調整。

一次選考で採用が決まった生徒は細かな修正作業を行った。
家庭科、美術科で声をかけ、より良い作品のための色や構図の変更、修正などを指導した。
“なるべく多くの人に見やすいデザインは何か”を考えながら前期から作業していたため、多くの生徒は快く修正作業に応じてくれた。中には粘り強く何度も細部を変更し、作業を重ねた生徒も見られた。

【塗りの弱い状態】　【濃く仕上げる】

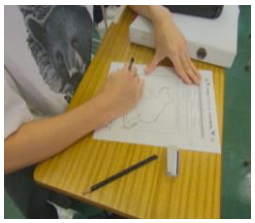


【デジタルで仕上げる生徒。線の太さやベタ塗り範囲を相談】



【四角形の本】　【長方形へ変更し、しおりの色も白に変えて引き立つように修正】

【最初はモチーフが複数あった職員室】　【１つに絞ってシンプルなデザインへ】



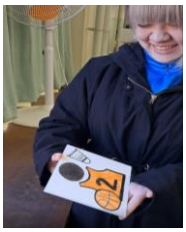
【生徒たちの真剣な取組み】

作品制作の後、振り返りを行った。
『プロジェクトに参加する前は、身の回りに溶け込みすぎているピクトグラムというものを意識したことはなかった。』という意見や『作成してからは、よく行くスタジアムのピクトグラムが目に入るようになった』などの意見が出た。

【参加生徒とエントリー作品（一部）】

アクリル板（15 ㎝×15 ㎝）にプリントして完成した。

【自分の手で特別教室のドアに設置し、教員から拍手をもらう生徒】



完成品を前にして、笑顔がこぼれる生徒達。校内 31 箇所にピクトグラムが飾られた。

修悠館ピクトグラムプロジェクト動画編はこちら☞

２．２班　（横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及）

（１）全体概要

横浜修悠館高校がこれまで 16 年かけて構築してきた個別最適な学びを実現するための、外部の教育的人材を活用した協働的な学びの仕組み「学びのコミュニティ」について、今回の研究事業を通して、成果を検証し、より効果的に運営する方法がないか、課題を設定し研究した。また、これらの取組みを全国へ発信することも目的のひとつとした。

「学びのコミュニティ」プログラム
【トライ教室】小中学校の学びなおし　補習教室
【架け橋教室】外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援
【キャリア・ポート（自校通級・他校通級)】高校通級指導
【キャリアＩＣ】進路体験活動

【トライ教室】

生徒には、支援を必要としている生徒に支援が届いているかを確認するアンケートを、ＹＳＫ（横浜修悠館）サポーター（詳細後述）には、より効果的な運営をするための意見を聞くアンケートを実施した。生徒へのアンケートからは、アンケートを取った生徒の約 40%に支援が届いていない可能性があることがわかり、活動日時や活動場所の周知を充実させる対応を行った。また、ＹＳＫサポーターへのアンケートからは、利用する生徒が多い時期の運営方法について改善の余地があることが指摘され、自習室を増設するなどの対応を行ったが、生徒がどのような支援を望んでいるのか、今後も把握に努める必要がある。

【架け橋教室】

生徒及び、学習支援員等のサポーターに、より効果的な運営をするための意見を聞くアンケートを実施した。生徒へのアンケート結果は、コミュニティに対する肯定的な意見がほとんどで、十分に機能を果たしていることが伺え、コミュニティの規模（日数や時間等）の拡大を望む意見もあった。また、サポーターからも肯定的な意見が大半を占めたが、個別の対応が必須となる性質上、対応しきれないことがあるという課題もあげられた。生徒の活動状況に応じた柔軟な運営方法について引き続き検討が必要である。

【キャリア・ポート】

継続した活動に至らない生徒がいることを課題として設定し、対応を検討した。生徒に対しては、これまで他校通級の生徒にのみ実施していた事前見学や体験を、自校通級の生徒にも実施することにした。また、教員に対しては、年２回の研修会と、活動の見学機会を設定することで、生徒、保護者へ適切な情報提供ができるよう対応した。今後も、学校全体で関わっていく環境を整備していくことが必要である。

【キャリアＩＣ】

担当教員は生徒の成長を実感しているが、生徒自身はどのように感じているか確認することを課題とし、毎時のワークシートに自己評価欄を設定し、その変容から生徒の内面の変化を見取った。その結果、生徒の自己肯定感が醸成されていることが確認できた。今後は、継続した活動に至らない生徒がいることについて、生徒、教員の双方の視点から対応を検討していくことが必要である。

（２）トライ教室

①　プログラムの概要

トライ教室とは、個別最適な学習の充実を目指し、動画コンテンツやスクーリングだけでは思うように学習を進めることが難しい生徒を対象としたレポートの完成、または中学校までの学習の学び直しのための本校独自の支援体制である。トライ教室はスクーリングがある月、水、木の週３回、５・６限の２時間開講されている。学習支援には、ＹＳＫサポーターと呼ばれる教員経験者を中心とするボランティアが携わっている。

今年度は開講 48 回、利用生徒数のべ 602 人、ＹＳＫサポーター12 人に指導していただいた。

【マンツーマンでレポート完成をサポート】

【落ち着いて取組めるよう環境整備】

②　３年間の取組み

トライ教室は今回の研究が始まる前から取組まれていた支援体制である。今回の研究では、現状のトライ教室の課題を把握し、改善に向けて教員・ＹＳＫサポーター、生徒から意見を取り入れ改善を図っていくこと、また取組みを県内外に発信することが目的である。

初年度は生徒全体にトライ教室の認知度を調べ、利用が必要な生徒に使用されているかアンケートを用いて調査した。結果として、利用している生徒の満足度は 100％であるが、必要な生徒が必ずしもトライ教室のシステムを把握、または利用しているわけではないことがわかった。

２年目は前年度の結果を踏まえ、生徒全体へトライ教室の周知を強化した。結果、生徒の利用人数を増加させることができた。また、生徒に身近に接していただいているＹＳＫサポーターに「利用している生徒が求めているニーズ」、「トライ教室の現状の課題」についてアンケートを取った。この中で、「必修科目ではない上位科目に対する指導の不安」や、それに対応することによる「本来必要とする生徒への支援」が疎かになる懸念があげられた。そして、研究２年目で利用する生徒が増えたことによる教員の負担の増加も課題としてあげられた。

研究３年目になる今年度はトライ教室を運営するグループ内でも、これらの課題が取り上げられ、その改善策をグループ内で協議した。その結果、次の２点の改善案があげられた。

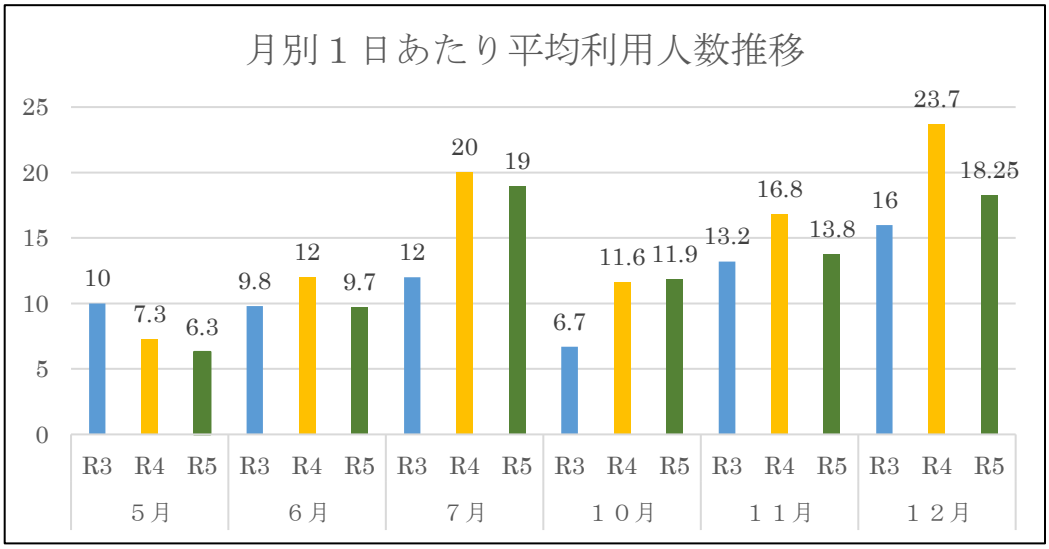
・生徒が利用しやすい形を残しつつ必要な生徒が利用するためのルールの設定。

・上位科目の質問をしやすくするため、自習室を職員室の近くの部屋に設置。

この案を令和５年度の 10 月より実行し、SHR 等で生徒全体に周知した。

③　３年間の成果と課題

〇令和３年度から３年間の生徒のトライ教室利用状況



令和３年度から令和４年度にかけてトライ教室の周知の結果、利用者数が伸びていることがわかる。また、令和５年度の 11・12 月が昨年度を下回っているのは 10 月に使用上のルールの周知、自習室の設置をした結果の影響と思われる。本来利用するべき生徒が利用できているか、今後再検証していく必要がある。

〇使用上のルール

トライ教室orレポート完成講座どっちを利用したらよいのかチェック　※〇が多い方に行ってみよう					
チェック		トライ教室	チェック		レポート完成講座
	①	基礎科目・必履修科目の基本のことから教わりながら勉強したい。		①	基礎科目・必履修科目以外の科目のレポートをやりたい。
	②	教科書からの穴埋め問題が分からない。		②	深める問題がわからない。
	③	普通教室に入ることやスクーリングの出席に抵抗がある。		③	普段はスクーリングに出ているが欠席したところがわからない。
	④	先生以外のボランティアの人に教えてもらいたい。		④	教科の先生におしえてもらいたい。
	⑤	何がわからないか、どこを質問したらいいのか、わからない。		⑤	質問したい・教えてもらいたい設問がはっきりしている。
	⑥	わからないところがあるけど、自分から質問するのは難しい。		⑥	一通りと解いてみたけど、分からないところがある。
	⑦	修悠館マイページの学習のページを見ても、レポートの問題に答えを書けない。		⑦	レポートは大体できているが一部分からないところがある。
	⑧	スクーリングの教室の雰囲気が苦手。		⑧	レポートができたら次のスクーリングに出席しようと思っている。
	⑨	レポートの内容にまだ手を付けられていない。		⑨	教えてもらうのと同時に解答チェックをしてもらいたい。
	⑩	できればマンツーマンで見守ってほしい。		⑩	聞きたいところだけ教えてもらえればいい。

上のようなチェックリストを作り、SHR やトライ教室に掲示した。ただし、トライ教室に空きがある場合には特に制限せず利用してもらう形で運用した。レポート完成講座は、科目担当が各教科１人以上配置されている自習教室である。トライ教室を利用している生徒は、基本的にマンツーマンでの指導を必要としている生徒が多いため、前期から利用している生徒に関しては変わらず利用する傾向があった。また、教員以外に教えてほしいというニーズもあると見受けられた。

また、レポート完成講座を担当している教員からも、マンツーマンの指導が必要な生徒が自主的にトライ教室を利用することができるようになったという感想もあり、一定の効果があったと考えられる。

○自習室の整備

元々悠ルーム（心を落ち着かせたいときに利用できる部屋）として使用していた部屋を自習室としても使用できるようにレイアウトを整え、10 月より利用できるように開放した。

自習室はトライ教室と同じ時間帯で開放した。利用人数は正確には把握できていないが、実際に職員室から教員を呼んで教えてもらうといった使い方をしている生徒も見受けられた。今後この自習室が浸透していくにあたり、利用人数が飽和にならないか、管理をどのように行っていくか整理をしていく必要がある。

④　今後の展望

この３年間、トライ教室を必要とする生徒への周知、そして今後持続可能な運営をしていくためのシステムを研究してきた。今後も本校の特性上、マンツーマンの指導を必要とする生徒が一定数入学してくることを踏まえてより良いシステムを構築していく必要がある。

○日曜講座の生徒にも門戸を広げることができないか

現状トライ教室を開いている曜日が平日のため日曜講座の生徒が利用しにくい形になっている。ＹＳＫサポーターの出勤の兼ね合いもあるので日曜にそのまま開講することは難しいが、夏休みなどの特別な日程にトライ教室を開くことができるか検討していく。

○自習室の管理

今後の利用生徒の増加や教員の負担などを検証する必要がある。今年度は設置するだけにとどまったが、今後は利用人数の変遷や使用生徒へのアンケートなどでよりよい運営方法を検討する必要がある。

○トライ教室をより利用しやすい形にするために

今年度行った使用上のルールを設定したことにより、「マンツーマンの指導を要する」生徒がトライ教室を利用するようになったことが一部教員から指摘された。一因に、「トライ教室」という名称が原因でレポートを勉強する場所という認知ができない生徒もいたのではないかと考えられる。トライ教室の名称の変更も踏まえ、これから必要とする生徒へトライ教室を利用してもらえるように周知を図っていきたい。

（３）架け橋教室

①　プログラムの概要

架け橋教室とは、外国につながりを持つ生徒の学習支援、および居場所づくりを目的とした支援体制である。外国につながりを持つ生徒は、学習言語としての日本語が十分に身についていないため、学習が滞ることが多い。また、将来への展望が描けない、友人関係をうまく築けないなどの不安から、徐々に学校から足が遠のくことも少なくない。架け橋教室では、そうした生徒に対し、教員や学習支援員の個別指導を通じて組織的に学習支援を行っている。学習支援員は主に教員経験者で、この教室の副次的な効果として生徒同士の関わり合いが深まり、おだやかな人間関係を築く学びのコミュニティとなっている。

②　３年間の取組み

架け橋教室では校内の一教室を使って学習支援を行っている（スクーリングのない期間も不定期で継続的に開室）。 令和５年度、本校に在籍する外国につながる生徒は 124 名で、そのうち利用実績のあった生徒数は 41 名、利用率は約 33%である（ただし、架け橋教室の利用は必ずしも外国につながる生徒に限っているものではないため、厳密な割合ではない）。３年間の各月の総利用件数は、以下の表の通りである。架け橋教室では主に、教員や多文化教育コーディネーターを含む複数の学習支援員による学習補助、「日本語」の学習、その他学校生活全般の相談等を行っている。

【活動の様子】

③　３年間の成果と課題

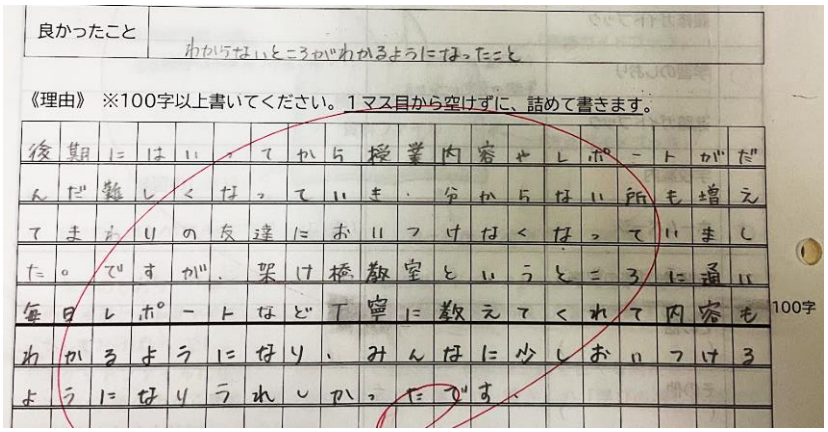
≪成果≫

３年間の利用件数の推移は以下の通りである。

3年間の利用件数と実施日数推移（網掛けの月はスクーリングのある月）												
		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月
Ｒ５	利用件数	0	37	77	62	2	4	103	84	68	3	1
	実施日数	0	12	17	14	3	3	15	16	13	2	1
Ｒ４（参考）	利用件数	0	35	50	43	5	16	60	56	69	14	9
	実施日数	0	10	14	11	4	7	12	12	10	4	5
Ｒ３（参考）	利用件数	6	74	87	75	5	15	29	43	37	4	4
	実施日数	1	8	14	14	1	4	8	12	10	3	2

本研究が始まる前の令和元～２年度ごろにかけて、コロナ禍の影響もあって利用件数の減少傾向があったため、開室日数や学習支援員の数を減らした。その後、本研究を通じて架け橋教室の周知活動を８組（外国につながる生徒が多く在籍するクラス）中心に行った結果、令和４年度の後期にかけて利用件数の増加が見られた。また、令和４年度は年間を通じた生徒の継続利用も多く見られたことが大きな成果であった（令和３年度は、前期については増加したが、後期には利用が大きく減ってしまった）。令和４年度には、「困っていること」「架け橋教室を利用してみてよかったこと」「架け橋教室への要望」に関するアンケート調査（記述式、詳細は昨年度報告書に記載）を実施した。その結果、架け橋教室の「学びのコミュニティ」としての役割の重要性が明らかになるとともに、開室日数を増やしてほしい、学習をサポートしてくれる人を増やしてほしいという声が複数あがってきた。これを受けて、令和５年度は開室日数を平日（月・火・水・木）に増やし、学習支援員も１名から３名に増員した。この結果、令和５年度の利用実績は年間を通じて増加傾向になり、手厚い支援体制が機能する結果となった。

架け橋教室を利用した多くの生徒は、レポート学習に加えて、昼食を他の利用者や支援員と一緒に食べたり、お互いに悩みを相談し合ったりする中でコミュニケーションを深めた。この結果、個人の学習状況に応じた支援による「個別最適な学び」と、人間関係を構築する中で得られる「協働的な学び」の両方が有効に機能し、生徒の学習習慣の定着につながったと考えられる。


良かったこと　わからないところがわかるようになったこと

《理由》 ※100字以上書いてください。１マス目から空けずに、詰めて書きます。

後期にはいってから授業内容やレポートがだんだん難しくなっていき、分からない所も増えてきましたりの友達においつけなくなっていました。ですが、架け橋教室というところに通い毎日レポートなど丁寧に教えてくれて内容もわかるようになり、みんなに少しおいつけるようになりうれしかったです。

100字

【生徒による架け橋教室についての記述】

また、架け橋教室の発信の場として、コロナ禍で実施されていなかった外部との交流が復活したことも令和４年度から令和５年度にかけての大きな変化であった。下の写真は架け橋教室を利用している生徒が参加した「生徒生活体験発表」と、架け橋教室の利用者を中心に有志で行った文化祭での「世界の民族衣装紹介」の企画展示の様子である。生活体験発表では、外国につながる生徒が、自身の来歴、本校での学校生活、架け橋教室での仲間との交流などについて発表を行い、他の発表者との交流も深めた。文化祭では、生徒が自身のつながる国の民族衣装を家族から借りたりして展示する衣装を集め、実際に自身が着用したり、来客者に着てもらったりすることで、多文化交流を深めることができた。こうした外部と交流したり、仲間同士で企画を運営したりする経験は、本校の生徒にとっても貴重なものとなった。

【生徒生活体験発表の様子】

【文化祭準備の様子】

≪課題≫

３年間の取組みの中で感じた大きな課題は以下の通りである。

①学習支援員の増員にともなう予算確保。

②利用者増加に伴って、手厚い支援が難しくなること。

③架け橋教室におけるオンラインでの学習支援は、生徒に定着しなかったこと。

①の課題は、今年度非常に懸念された課題であった。本校では架け橋教室以外にも多くの支援システムがあり、それぞれ多くの支援員を配置している。そのため、今年度増員し、開室日も増やしたことで、予算がひっ迫し、前期末や年度末になると開室日数を急遽調整する場面もあった。

②の課題は、架け橋教室の利用を促進していく中で、浮き彫りになった。学習支援員、日本語教員、多文化教育コーディネーターの総出で対応しても、令和５年度の 10 月～12 月は生徒へのきめ細かな対応が難しく、生徒を長時間待たせてしまうことがあって心苦しかったという報告もあった（この３年間は、支援員と担当教員の間で情報共有ノートを作成しており、その中で指摘があった）。また、令和５年度には、生徒が次々と他の生徒を架け橋教室に連れて来るということがあり（原則、架け橋教室には担当教員とコーディネーターを介して参加する）、その結果、友達同士での会話が中心となってしまい学習が進まない事態もあった。また、通信制に通う生徒には、人が多すぎる環境や騒音を苦手とする生徒も多く、学習を目的に来ている他の利用者が教室に入れなくなる問題も起き、最後まで解決できないジレンマとなった。

③の課題は、コロナ禍の影響があった令和３年度に実施したが、定着しなかった。具体的には、学習支援員と面識のない生徒が、オンライン上でコミュニケーションをとることのハードルがとても高かったことが挙げられる。もう一つは、自由参加が基本の架け橋教室において、オンライン上で生徒が来るのを待ち続けるのは、毎回セッティングをする教員にとっても、画面の向こうで待ち続ける支援員にとってもあまりに負担が大きかった。

≪多文化教育コーディネーターから見た成果と課題≫

〇利用生徒のニーズにみられる変化

サポーターの先生方の「この子たちは、中学までどこにいて、何をしていた（どのようなサポートを得られていた）のか」というひと言に集約される。学習課題を前にして、「中学校に行けてなかったから」ではなく、「個別だったから」（小学校や中学校で学習することをやってない）という生徒の声が圧倒的に多い。生徒のニーズが、不登校を理由とする学び直しから、生徒一人ひとりの学習面や生活面で抱える困難を理解し、卒業後の進路に向けて必要な支援を考えることに移行している。また、中学校で制限の多い３年間を過ごしていたためか、友だちを作ることに極めて積極的である。

〇利用生徒に対する具体的なサポート

板書やスクリーンの情報を書き取りきれない、記述問題を苦手とする、などの理由で学習が停滞する生徒に対する個別の学習支援を行なっている。幸いなことに全科目のレポートを見るので、話題も分野も多方面に及ぶ。レポートというコミュニケーションの媒体を通じて、それぞれの生徒が抱える学習面・生活面の心配ごとや困りごと、入学に至る理由を知る手がかりを得ることができる。それにより、担任、養護教諭、ＳＳＷにアドバイスを求め、また、生徒の了解を得て、行政や福祉の関係者と連携を図っている。校内・校外を問わず、関係者の協力が欠かせない。

〇架け橋教室の充実化について

昨年度までの利用状況を踏まえ、実施日の増加やサポーターの増員をしていただけたことは、とても助かった。一方で、開室日数増加および増員にともなって予算がひっ迫した。後期に入ると常に予算不足を懸念しながらサポーターの出勤回数や開室日の調整をする状態が続いた。生徒への継続的で手厚い支援のためにも、予算の問題は今後解決をしなければならない。

〇卒業生の動向について

在学中に架け橋教室を利用していた卒業生からの相談が複数件あった。資格を取りたいという相談が２件（2015 生、2017 生）、大学卒業後の進路に関する相談が１件（2016 生）、他大学に編入したいという相談が１件（2016 生）、就労に関する相談が１件（2020 生）の合計５件である。卒業後も架け橋教室のつながりから進路相談につながることがあった。

④　今後の展望

３年間の取組みを通じて、架け橋教室の利用生徒を増やすこと、また、利用生徒へのアンケートを通じて個別最適な学びと協働的な学びの場としての機能があることも見取ることもできた。そして、様々な機会を通じて、県内外に本校の取組みを発信することができた。

今後は、自由参加が基本の架け橋教室の中でも、お互いの日々の出来事などを、日本語を用いて共有し合うような、対話形式の学習の場面も必要になっていくと考えている。対話形式による日本語の学習を成立させるためには、生徒たちが共有している場所への“安心感”が条件になる。この“安心感”という意味では、継続的に利用する中でこうした対話形式のコミュニケーションをする環境が架け橋教室には生まれているので、挑戦する価値はあるように思う。そのほか、本校に在籍する架け橋教室を利用していない残り３分の２の外国につながる生徒への支援を充実させていくことも重要である。

（4）キャリア・ポート

① プログラムの概要

「キャリア・ポート」は、横浜修悠館高校における通級による指導の講座の名称である。この名称は、生徒にとってこの講座が、自立した生活を送るための準備をし、将来に向けて旅立つ場所になって欲しいという本校教員の願いから決められた。

講座の内容は、通級による指導の目的である、生徒個々の実態に応じ学習や生活上の困難を克服することを目指した活動を行っているが、本校では特に、以下の３点を重視している。

・生徒が安心できる環境を整え、安心して過ごせる居場所となること。
・小集団でのチーム・ティーチングを行い、コミュニケーション力を養うこと。
・将来の自立と社会参加を目標に、「働くこと」をテーマとした活動を行うこと。

この活動を、月曜日の１校時と木曜日の４校時では、自校の生徒のみで活動しており（自校通級）、日曜日は隔週で４・５校時に自校の生徒（自校通級）と他校の生徒（他校通級）が合同で活動している。各時間において、生徒個々の実態に応じて４～７人の小集団に分けて活動を行い、各小集団に２～５名の教員が指導を行っている。

毎年４月には通級指導担当教員のスタートアップ研修が開催される。今年度の講座の内容としては、校内での仕事・作業体験やインターンシップなどを取り入れることで社会につながる意識を養い、農作業やスポーツなどの身体活動を通して他者とかかわる活動を取り入れることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指していることを確認した。

【５月　校内作業体験（清掃）】

【７月　校内作業体験（フロアマップ作製】

【11 月　職場体験】

【11 月　モルック】

②　３年間の取組み

キャリア・ポートを担当する職員は、中心となって活動内容を考える教員の他に、着任１～２年目の教員を複数名ＴＴ（ティーム・ティーチング）として配置し、個別最適な学びや協働的な学びを必要とする生徒の実情を把握できるようにしている。

令和４年度の目標として、通級指導に学校全体で関わる環境を整備し、各担任が必要な生徒をピックアップしやすく、そして目的や必要性を伝えやすくすることを挙げた。令和５年度はその達成のために教員向けの見学や参加を促す工夫として以下の３点を実施した。

①当日の朝に打合せ掲示板で活動内容を提示する。
②活動内で講座担当以外の職員と接する機会をつくる。
③活動の成果物が、職員の目に触れる機会をつくる。

【教頭先生への質問】

【キャリア教育推進グループの先生への質問】

【フロアマップの貼り付け】

【学校説明会の配付資料の挟み込み】

朝の職員打合せで活動内容を周知することで、教室へ見学に来る教員が令和４年度よりも増えた。

また、講座担当職員のサポートのもと職員室を訪ねてくる生徒たちと接することで、どのような生徒向けの講座なのか、どれくらいのサポートが必要なのかなどを感じ取れた職員もいたのではないかと考える。

対象生徒：月曜１限出席により生活リズムを整え、計画的に学校生活を送ることを目標とする生徒

キャリア・ポート（月曜１限）≪活動内容≫

通級による指導（キャリア・ポート）月曜１限

回	日付	単元	内容	ポイント	
★	４月	個人面談	通級指導を始めるにあたって	生徒の興味関心、体験希望の有無等	
1	５/８（月）	キャリア・ポートとは？	顔合わせ、オリエンテーション 講座のテーマ、進め方、予定確認	居場所作り、見通し、生徒の様子観察	健・人・心
2	５/15（月）	自分について	好きな事、得意な事（苦手な事）	自分らしさ、自分の強み、自己紹介‥	心・人・コ
3	５/22（月）	私と仕事	身の回りの仕事 校内作業体験事前学習	やったことのある仕事・手伝い、 できそうな仕事‥	心・人・コ
★	５/29（月）	校内作業体験	清掃作業・図書整理作業	役割の理解と協力、作業手順、安全な作業	人・コ・身
4	６/５（月）	いろいろな仕事	校内作業体験事後学習①	できたこと、気づいたこと、考えたこと 振り返り、発言	人・コ・身
5	６/12（月）	いろいろな仕事	校内作業体験事後学習②	機器の操作、パワーポイントで発表	心・人・コ
6	６/19（月）	私と地域社会	ボランティアとは 校外体験事前学習	ボランティアの3原則、心構え 交通機関の利用、当日の確認	コ・人・環
★	６/26（月）	校外体験学習	ボランティア体験 （ボランティア入門・介護体験等）	ルールとマナー、言葉遣い、相手の立場、安全意識、周囲との協力、共通理解‥	心・人・身
7	７/３（月）	私と地域社会	校外体験事後学習①	できたこと、気づいたこと、考えたこと 振り返り、発言	人・コ・身
8	７/10（月）	私と地域社会	校外体験事後学習②	機器の操作、パワーポイントで発表	健・人・コ
9	７/24（月）	前期のまとめ 夏の計画	振り返り スケジュール管理	発言、達成感、自己理解	心・人・コ
★	8/28（月）	社会体験	カップヌードルミュージアム （見学と体験）	公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習	心・コ・身
10	9/25（月）	夏の振り返り	体験（インターンシップ等）発表	発言、聞き方、後期の見通しと生活リズム	健・人・コ
11	10/2（月）	文化祭に参加しよう①	ポスター発表資料作り	発表内容を考える、相談する、準備する	心・人・コ
12	10/16（月）	文化祭に参加しよう②	ポスター発表資料作り	伝え方の工夫、写真、イラストの活用、作業時間の意識	心・人・コ
13	10/23（月）	文化祭振り返り	準備から当日までのスライド	振り返り、自己理解、他者理解	心・人・コ
14	10/30（月）	私と仕事②	職業調べ、業界研究	仕事をすると良いこと、いやな事 自分の考えを伝え、人の意見を聞き考える。	心・人・コ
15	11/6（月）	いろいろな職業・働き方	職業体験事前学習	場の状況、気づき、発言	人・コ・環
★	11/14・15（火・水）	校外体験学習	ファストフード店で職業体験	調理・接客‥、職場のルールとマナー	心・人・身
16	11/20（月）	いろいろな職業・働き方	職業体験事後学習	職場・働いている人の様子、職場での工夫‥	心・人・コ
17	11/27（月）	問題解決技能トレーニング	こんな時どうする？（学習編）	レポート締め切り間近、解決策の違い、優先順位、対処法、相談	心・人・コ
18	12/4（月）	発表しよう	年間振り返り	できたこと、わかったこと、自己理解、発表	心・人・コ

☆	９/11～	福祉事業所体験	就労移行支援事業所（５日間）	個別体験と巡回指導 （見学、事前面接、事前事後指導）	生徒Ａ

★体験活動等（校内・外）
★特別講座（校内）

健：健康の保持　心：心理的な安定　人：人間関係の形成　環：環境の把握

身：身体の動き　コ：コミュニケーション

≪生徒の様子≫

真面目で素直な性格の生徒が多い。周囲からは気づかれにくいが、これまでの困難や失敗経験から自信や意欲をなくしかけている生徒もいる。なかには、対人関係が苦手な生徒、聴覚過敏があり、騒がしい場所は苦手な生徒、相手の立場や気持ち、周りの状況に応じた行動や言葉遣いが難しい生徒、生活リズムが乱れがちな生徒もいる。

そのため、週のスタートである月曜１限に参加し、生活リズム・体調を整え登校し参加することを意識させた。

≪意識して行った活動≫

・仲間の意見を聞き、自分の伝えたい内容が相手に分かるように話すことができる。
・それぞれの感じ方に違いがあることを理解する。
・体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことを理解し、他者の意図や感情を考え、その場に応じた行動を判断して実践することができる。
・卒業後を見据え、自分の特性（得意・不得意）に応じた進路について考える。
・困ったとき、わからないときの対処法について考え、自分が取るべき行動を判断する。

≪活動の様子≫

【校内清掃体験】

【体験内容のスライド作成】

【文化祭　ポスター作製】

【ファストフード店での職場体験】

【介護施設でのボランティア体験】

対象生徒：終了後開始するトライ教室と連携し、
学習習慣の定着を目標とする生徒

キャリア・ポート（木曜４限）≪活動内容≫

通級による指導（キャリア・ポート）木曜４限

回	日付	単元	内容	ポイント	
★	４月	個人面談	通級指導を始めるにあたって	生徒の興味関心、体験希望の有無等	
1	５/11（木）	オリエンテーション	講座のテーマ、進め方、予定確認	居場所作り、見通し、スケジュール管理	健・人・心
2	５/18（木）	職業インタビュー事前学習①	インタビューの事業所について調べる	機器の操作（ＰＣ、スマートフォン）、体験	人・コ・心
★	５/18（木）	校内作業体験	さつまいも植え体験	作業手順理解、道具の使用、安全について	健・身・コ
3	５/25（木）	職業インタビュー事前学習②	インタビューのやり方（ロールプレイング）	聞き方、発言、生徒の様子確認	環・身・コ
★	６/１（木）	職業インタビュー	近隣の事業所を巡る	伝えたいこと、話し方、聞き方	心・コ・身
4	６/８（木）	職業インタビュー振り返り①・いもほり体操	チームごとにスライド作成（パワーポイント）	興味関心、機器の操作（PC）	健・身・コ
★	６/８（木）	校内作業体験	じゃがいも収穫体験	作業手順理解、道具の使用、安全について	健・身・コ
5	６/15（木）	職業インタビュー振り返り②	チームごとにスライド作成（パワーポイント）、発表	機器の操作（PC）、話し方、聞き方	人・コ・心
6	６/22（木）	ゲームに参加しよう①	チームに分かれてモルック大会①	指示理解、道具の使用、生徒の様子確認	環・コ・人
★	６/29（木）	職業インタビュー	近隣の事業所を巡る	話し方、聞き方	環・コ・身
7	７/６（木）	ゲームに参加しよう②	自己紹介ビンゴ	自己理解、コミュニケーション、共感	環・心・人
8	７/13（木）	ゲームに参加しよう③	修悠館クエスト①	指示理解、コミュニケーション、伝え方	心・環・コ
9	７/20（木）	ゲームに参加しよう④	いい線いってみようゲーム	指示理解、コミュニケーション、共感	心・コ・人
★	８/３（水）	校外作業体験	自立訓練事業所体験	プログラム体験、公共交通利用	環・人・コ
★	８/21（月）	校外体験学習	カップヌードルミュージアム	作業手順理解、道具の使用、伝え方	環・コ・身
10	９/28（木）	夏の振り返り、ゲームに参加しよう⑤	夏の思い出発表、ぴったんこカンカン	後期の見通しと生活リズム、コミュニケーション	健・人・心
11	10/５（木）	文化祭用展示物作成①	ポートの活動を展示物で伝えよう・室内装飾をしよう	道具の使用、伝えたいこと、コミュニケーション	人・コ・身
12	10/12（木）	文化祭用展示物作成②	ポートの活動を展示物で伝えよう・室内装飾をしよう	道具の使用、伝えたいこと、コミュニケーション	人・コ・身
13	10/26（木）	文化祭の振り返り・メモを取ろう	文化祭当日の様子を共有する・話を聞きながらメモを取る	作業手順理解、聞き方	人・コ・身
14	11/２（木）	ゲームに参加しよう⑤	チームに分かれてモルック大会②	指示理解、道具の使用、生徒の様子確認	健・身・コ
15	11/９（木）	ゲームに参加しよう⑥	修悠館クエスト②	指示理解、コミュニケーション、伝え方	コ・人・身
16	11/30（木）	軽作業	パンフレット挟み込み	指示理解、コミュニケーション、発言	コ・人・身
17 ★	12/７（木）	校内作業体験	在宅ワーク体験①	順理解、機器の操作（PC）	環・心・コ
18	12/14（木）	発表会準備 １年間のまとめ	スライド作り、発表練習	伝えるための話し方、自己観察、機器の操作（ＰＣ）	人・コ・身
★	12/17（日）	発表会（合同）	プレゼンテーション	場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感	環・心・コ
★	12/21（木）	校内作業体験	在宅ワーク体験②	作業手順理解、機器の操作（PC）	環・心・コ

☆	8月18日	事業所体験	教育委員会指導部保健体育課（1日間	個別体験と巡回指導（事前面接、事前事後指導）	生徒Ｃ
☆	8月4日	事業所体験	神奈川県警（1日間）	個別体験と巡回指導（事前面接、事前事後指導）	生徒Ｄ、Ｅ
☆	８/３～	事業所体験	教育委員会教育人材育成課（３日間）	個別体験と巡回指導（見学、事前面接、事前事後指導）	生徒F

★体験活動等（校内・外）
★特別講座（校内）

健：健康の保持　心：心理的な安定　人：人間関係の形成　環：環境の把握

身：身体の動き　コ：コミュニケーション

≪生徒の様子≫

他者とのコミュニケーション（特に会話）に苦手意識を持っている生徒が多いが、協働的な学習やスポーツなどで一緒に活動することに関しては、各々のペースはありながらも参加しようとする意欲が見られた。教員が話を振ると積極的に話してくれる生徒もいれば、他者の話に対して相槌やリアクションを取ることのできる生徒もいるため、グループで活動する際は、比較的コミュニケーションの取ることができる生徒を中心に編成している。

≪意識して行った活動≫

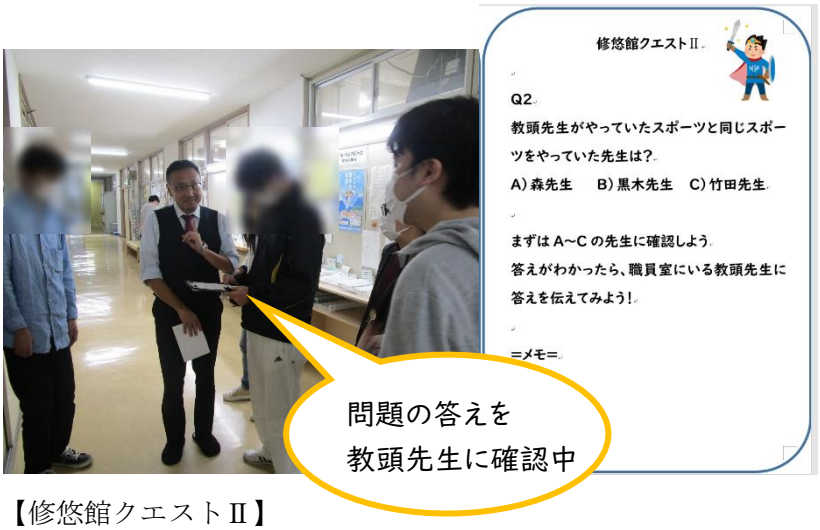
一人ひとりの特性を大切にしながら行えるよう以下の４点を意識した。

・個人での作業よりも、２人以上で行う活動。
・自分の考えを話したり、他人の話を聞いたりする活動。
・スポーツや校内探検を通して他者と協力する活動。
・自分に合った立ち位置（役割）で参加できる活動。

≪活動の様子≫

【文化祭準備：模造紙班、装飾班に分かれての作業】

【モルック：役割をローテーション】



【修悠館クエストⅡ】

【在宅ワーク体験】

対象生徒：卒業予定年次ではないコミュニケーション力の育成に重きを置く生徒（他校生含む）

キャリア・ポート（日曜日）　≪活動の様子≫

通級による指導（キャリア・ポート）隔週日曜４・５限

回	日付	単元	内容	ポイント	
★	４月	個人面談	通級指導を始めるにあたって	生徒の興味関心、体験希望の有無等	
1	５／７④	予定を確認しよう（スケジュール管理）	顔合わせ、予定確認	居場所作り、見通し、生徒の様子観察	心・環・コ
2	５／７⑤	「キャリア・ポート」で学ぶこと	オリエンテーション、講座のテーマ進め方	居場所作り、見通し、生徒の様子観察	心・環・コ
3	５／21④	就職までのステップ	仕事選びのための条件を考える	自己理解、見通し、生徒の様子観察	心・人・コ
4	５／21⑤	仕事・作業体験①（学校にある仕事）	学校にある仕事を考える	自己表現、適切な伝え方、話し合い	心・人・コ
5	６／４④	名札づくり	名札のデザイン作成	自己表現、適切な伝え方、話し合い	心・人・コ
6	６／４⑤	仕事・作業体験②（学校にある仕事）	体験したい仕事を話し合う	自己表現、適切な伝え方、話し合い	心・人・コ
7	６／18④	仕事・作業体験③（学校にある仕事）	具体的な作業内容を話し合う	自己表現、適切な伝え方、話し合い	心・人・コ
8	６／18⑤	作業体験（校内）	サツマイモ収穫	作業手順理解、道具の使用、安全、協力	心・人・身
9	７／２④	仕事・作業体験④（学校にある仕事）	作業体験（フロアマップ作製・教室の入口掲示作成）	適切な伝え方、話し合い、協働	人・環・コ
10	７／２⑤				
11	７／16④	仕事・作業体験⑤（学校にある仕事）	作業体験の振り返り	自己肯定感、見通し	心・人・コ
12	７／16⑤	夏休みの計画	夏休みの目標を考える	自己理解、見通し	心・人・コ
★	8/1（火）	施設見学と体験	ビジネス講座と事務作業体験	自立訓練プログラム体験、公共交通利用	心・人・身
★	8/28（月）	社会体験	カップヌードルミュージアム（カップ麺作り）	公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習	心・コ・身
13	９／24④	夏休みの振り返り	夏休みの目標の振り返り 後期の目標を考える	自己肯定感、見通し、適切な伝え方	心・人・コ
14	９／24⑤	文化祭準備	文化祭の掲示物を製作しよう	見通し、コミュニケーションスキル、協働	心・人・コ
15	10／８④	文化祭準備	文化祭の掲示物を製作しよう	見通し、コミュニケーションスキル、協働	心・人・コ
16	10／８⑤	文化祭準備	文化祭の掲示物を製作しよう	見通し、コミュニケーションスキル、協働	心・人・コ
17	10/29④	社会人としての言葉づかい	正しい敬語の使い方を話し合う	ソーシャルスキル、適切な伝え方、話し合い	心・人・コ
18	10/29⑤	ノンバーバルコミュニケーション	はぁって言うゲーム	自己表現、コミュニケーションスキル	心・人・コ
19	11/12④	SST	ビジネスマナー	ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル	心・人・コ
20	11/12⑤	SST	ビジネスマナー	ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル	心・人・コ
21	11/26④	困った際の対処法	キャットアンドチョコレート	ソーシャルスキル、自己表現	心・環・コ
22	11/26⑤	作業体験（校外）	サツマイモ収穫	作業手順理解、道具の使用、安全、協力	心・人・身
23	12/10④	発表会に向けて①	１年間の振り返り	自己肯定感、自己表現、適切な伝え方	人・環・コ
24	12/10⑤	発表会に向けて②	自分の好きなことを紹介する	自己表現、場面にふさわしい表現方法	人・環・コ
★	12/17（日）	発表会（合同）	・キャリア・ポートの良いところ ・自分の好きなことのプレゼンテーション	場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感	人・心・コ

★体験活動等（校内・外）

★特別講座（校内）

健：健康の保持　心：心理的な安定　人：人間関係の形成　環：環境の把握

身：身体の動き　コ：コミュニケーション

≪生徒の様子≫

生徒自身は「コミュニケーションが苦手」と思っているが、個々のペースに合わせた意思表示はでき、他者とのコミュニケーション（自分の話を聞いてもらいたい）や協働（みんなと一緒に何かをしたい）という気持ちはあるため、活動には意欲的に取組むことができる。

≪意識して行った活動≫

「自立」をテーマに、「自分で考えて、自分で判断し、自分で決定して、自分で行動できる」ように、講座の各回で、大まかなテーマを与え、「じゃあ、何をする」といった具体的な内容は生徒たちで話し合って決めた。

≪活動の様子≫

何かをするときは、常にみんなで机を囲んで行った。

【サツマイモ収穫】

【上↑　ビジネスマナー（タクシー乗車時のマナー）】

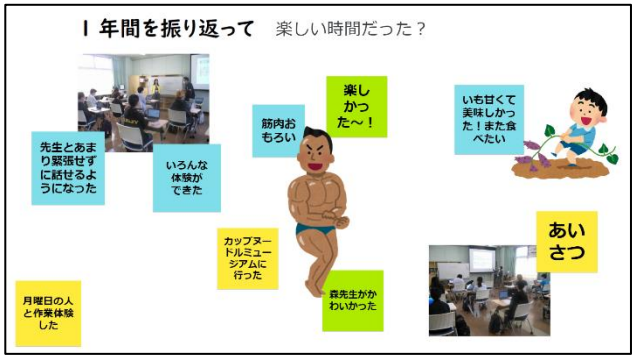
【左←　ビジネスマナー（エレベータに乗る順番）】

③　３年間の成果と課題

学校全体でキャリア・ポートに取組んでいくという課題への対策のひとつとして、各講座の担当者を着任年数の長い教員と、短い教員を組み合わせたのだが、これによって様々な視点から活動内容を工夫し、変化させることができた。特に、生徒の特長に応じてこれまでに実施したことのないような活動を検討する際は、着任年数の短い教員の意見が多く採用された。

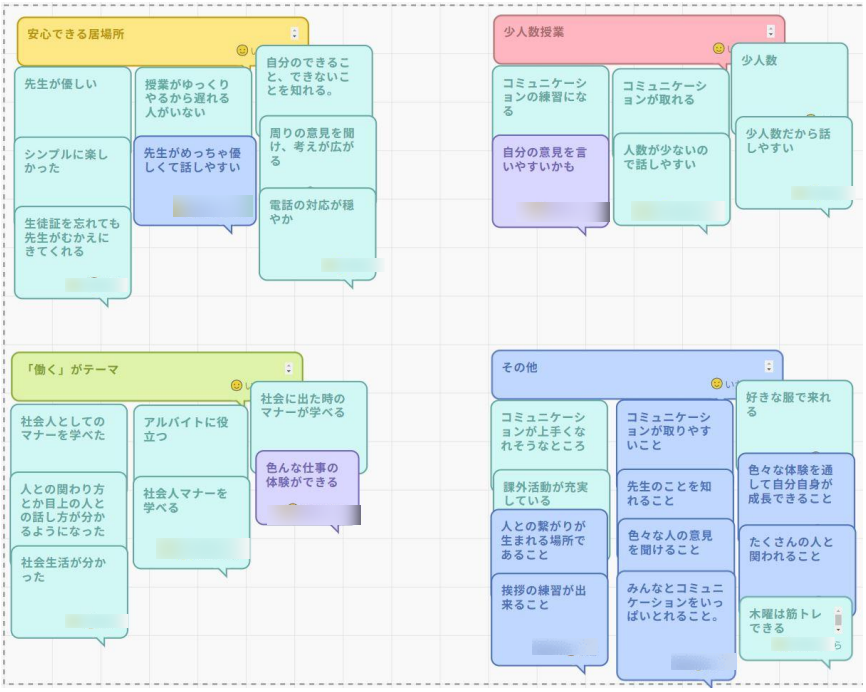
具体例としてＩＣＴの活用が挙げられる。日常的にＩＣＴの活用機会が増え、令和５年 12 月 17 日（日）に行われた全講座合同発表会においても、各講座でＩＣＴを活用した形式の発表が行われ、中には、その場にいた保護者を巻き込むなどの工夫も見られた。

以下、発表内容の抜粋である。



【Jamboard を使用した振り返りワークの一部】

スマートフォンを使って、「キャリア・ポートの良いところ」について、その場にいた生徒・保護者を巻き込み、意見を書き込んでもらった。
上の写真はそれについて生徒がコメントをしているところ。



【ふきだしくんを利用してキャリア・ポートの良いところを挙げたワーク】

令和５年度では、講座を担当した教員にも１年間の振り返りにアンケートを実施した。
以下、キャリア・ポートを担当した教員の感想（抜粋）である。

・生徒のさまざまな面を見ることができ、生徒理解につながった。
・生徒と活動することが楽しかった。
・支援教育の実践に触れ、支援教育への理解が深まった。
・自分で教材を考えてキャリア・ポートを運営してみたいと思った。
・キャリア・ポートの受講を勧めたい生徒像が分かってきた。
・今回の大人数制は「木曜の講座」の子たちの特性にとっては良かったと思う。
・生徒たちの状況で色々なパターンがあってよいと改めて感じることができた。
・Ｔ君やＨ君が目に見えて成長しているのがわかるのが素晴らしいと思った。
・多様な生徒を見ることや自然なアプローチと深いアプローチを知ることができた。
・段々と「こんなことをやってみたい」と自分の中でも湧き上がってきた。

教員側へのアンケートからも読み取れるように、担当した教員にも刺激や学びの機会があったのではないかと考える。担当教員を固定することなく、より多くの教員に経験をしてもらうことは、支援が必要な生徒をこぼすことなくつなげていくために必要なことであると感じた。

令和４年度の課題であった「学校全体で関わる環境の整備」は、少しずつ変化が出てきているが、まだ改善・工夫の余地があると感じる。引き続き教員に向けた見学や参加の機会の拡充を図り、キャリア・ポートの受講を勧めたい生徒像の共通認識を持てるようになることが大切である。

また、引き続き在校生に向けた見学や体験の機会を設け、実際の活動内容を知ることで参加へのミスマッチを防ぎ、継続的な活動につながるようにしたい。そして、生徒と保護者のニーズと、学校側の目的とのズレができるだけないようにしていくために、生徒・保護者との丁寧な面談を実施していくことが重要である。

④　今後の展望

本校には、支援を必要とする生徒が多く在籍している。特に学力よりもコミュニケーションに課題を抱える生徒がキャリア・ポートに参加することで、個々のペースで一歩ずつ成長している様子が見て取れる。少人数制で複数の教員が丁寧にサポートをすることで、自身の考えの伝え方や聞き方、協力の仕方や助けの求め方などを知り、自分自身の変化に少しずつ自信をつけられている生徒も少なくない。今後も生徒一人ひとりの状況やニーズに合わせた「個別最適な学び」と社会に出て人と関わるための準備である「協働的な学び」を組み合わせ、本校にしかできない「自校通級・他校通級」のより良い形の模索をしていきたい。

（５）キャリアＩＣ

①　プログラムの概要

キャリアＩＣは、湘南・横浜若者サポートステーションの関連施設である、Ｋ２インターナショナルジャパン（以下、Ｋ２と略す。Ｋ２は、1988 年より不登校・引きこもり・発達課題などの生きづらさを抱えた若者の自立就労支援サポートを継続している。）との連携講座であり、毎回外部講師としてＫ２の職員及びその関係者を迎えて、教員がサポートする形で運営している。校内での各種講座や校外での職場見学・職場実習・夏季インターンシップなどの機会を通じて、生徒たちに高校卒業後の自立と社会参加のための基礎力と自信をつけさせることを目的としている。対象生徒は、在籍２年目以降で、本校での基本的な学習習慣が身についており、担任から見て、社会に出る前の職業観の育成や、働くという経験が必要であると感じられる生徒である。なお、対象生徒の手帳所持の有無は問わない。

②　３年間の取組み

令和５年度の講座実施日と活動内容は以下の通りである。このうち、前期の「職場見学(半日)」と、後期の「職場実習（１日)」は、単位修得の条件として参加を必須にしている本講座の目玉である。

スケジュール(火曜日　5時間目14:10～15:00)

期	回	日にち	場所	内容
前期	1	5月9日	修悠館	オリエンテーション
	2	5月16日	修悠館	講座①:働く前の基礎講座①【言葉遣い】
	3	5月23日	修悠館	講座②:働く前の基礎講座②【印象アップ】
	4	5月30日	修悠館	講座③:自分の強み・長所について考える ※授業後、インターンシップ説明会
	5	6月13日	修悠館	職業人セミナー①
	6	6月20日	修悠館	職場見学事前学習
	7	6月27日 ※8週目	K2	**職場見学(半日)**
	8	7月4日	修悠館	職場見学事後学習
	9	7月11日	修悠館	講座④:一般職業適性検査(YG検査)の実施・前期まとめ
番外編　7月～9月			K2	**夏のインターンシッププログラム(希望者)**
7月21日(金)AM			K2	**AMインターン事前講座@M6(インターンシップ希望者のみ)**
9月5日(火)13時～			**修悠館**	**夏季特設スクーリング(GATB検査)(全員)**
後期	10	9月26日	修悠館	講座⑤:仕事のルール、コミュニケーションとは？ ※授業後　インターンシップ報告
	11	10月3日	修悠館	職場実習事前学習(職場下調べ等)
	12 13	10月4日 ～10月30日	K2他	**職場実習(1日)**
	番外編10月22日(日)		修悠館	**悠遊祭(屋台手伝い　有志)**
	14	10月31日	修悠館	職場実習事後学習【お礼状】
	15	11月7日	修悠館	職業人セミナー②
	16	11月21日	修悠館	講座⑥:一人暮らしの生活コスト
	17	11月28日	修悠館	講座⑦:ハローワーク求人検索
	18	12月5日	修悠館	講座⑧:私の職業人人生＆まとめ

〇生徒の活動の様子

３年間の活動について、写真と生徒の振り返りレポートの感想を交えながら紹介していく。なお、生徒の感想は原文表記を最大限尊重している。

【校内での講義はグループワークやペアワークに力を入れている】

【職業人セミナー①（左）は卒業生・②（右）は外部講師による。今年度はヨガ講師をお招きした】

【職場見学　名刺交換を学ぶ】

【インターンシップ　にこまる食堂】

○生徒の感想文(抜粋)

・最初は少し緊張した。他の授業ではあまりないことなので、慣れなかった。でも、何回かやっていく中で緊張もなくなり、ペアの人に意見を言うこともできた。
・５月は声が小さく、緊張していた。視野も狭かった。今は大きな声でハキハキと発表できるようになってきた。
・社会人になったら「報告・連絡・相談（ほうれんそう）」はとても大事だと思った。実習に行った時も分からないことはすぐに確認することを大切にした。
・働くことは大変だし、疲れる。けど終わった後の達成感もすごい。
・接客業はただお客さんに物を売るだけじゃなく、商品の良さや思いを伝えることが大事だと学んだ。

このように、生徒たちが様々な体験を経て着実に学びを深めて、成長していった様子が感想文に表れている。

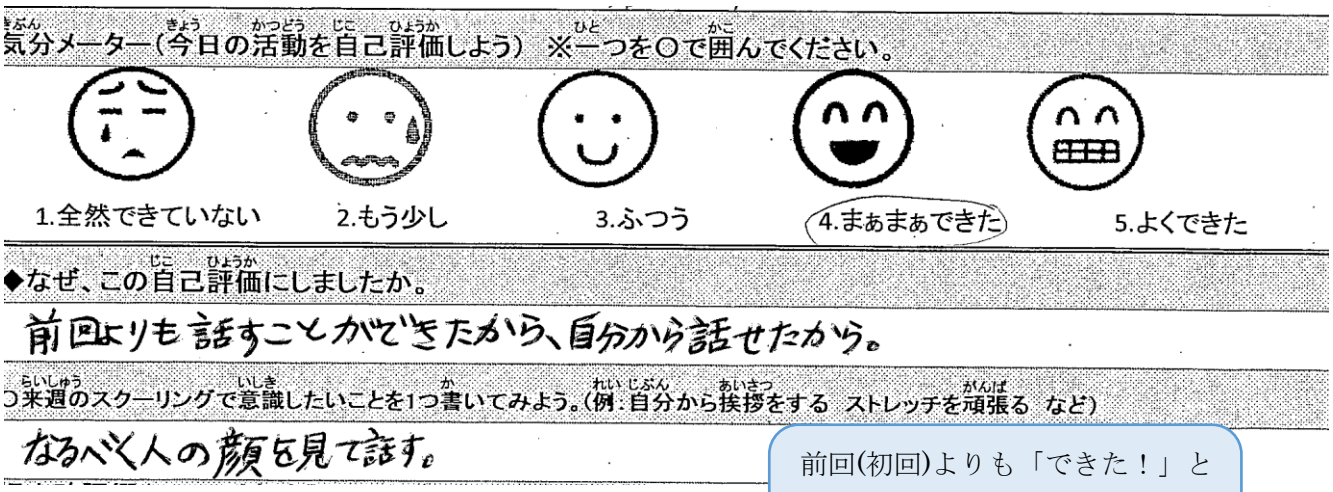
③　３年間の成果と課題

成果：**個人の成長実感の見取りがしやすくなった**

本講座を担当していて、例年、講座が進むにつれて生徒の積極性が増し、少しずつ自信がついていくように見受けられるが、生徒自身の実感はどのように変化していっているのかが気になっていたため、昨年度から毎回のスクーリングレポートに、「気分メーター」と称して、生徒自身で講座の達成度を自己評価できる仕組みを導入した。加えて、今年度は「次回のスクーリングで意識したいこと」もレポート内容に盛り込むことで、生徒たちが１回１回のスクーリングにきちんと自己目標を立てて向き合うことができるようにした。「個別最適な学び」の実現を目指しているからこそ、生徒一人ひとりが自身のレベルにあった目標を自分のペースで達成していくことが重要であると考えたためである。

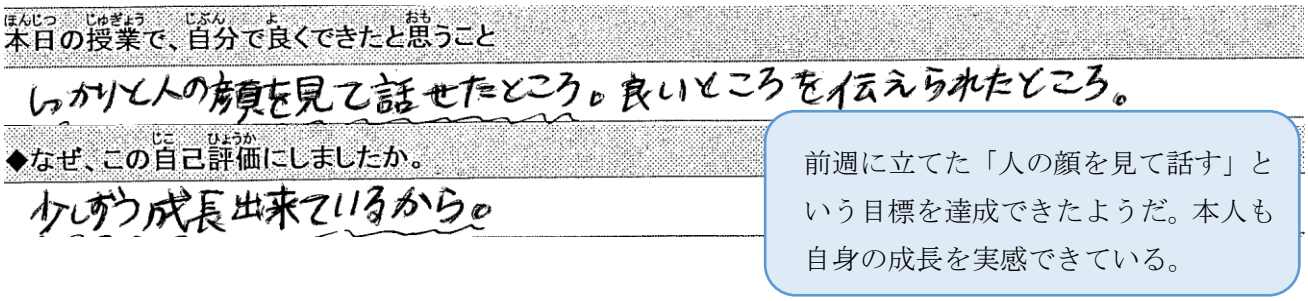
◆レポート記入例　（ある生徒の５月 16 日と 23 日のレポートより）

【５月 16 日の記述】



前回(初回)よりも「できた！」という実感があり、自己評価の高さにつながっていた。

【５月 23 日の記述】


本日の授業で、自分で良くできたと思うこと

しっかりと人の顔を見て話せたところ。良いところを伝えられたところ。

◆なぜ、この自己評価にしましたか。

少しずつ成長出来ているから。

前週に立てた「人の顔を見て話す」という目標を達成できたようだ。本人も自身の成長を実感できている。

ここで、２年間の単位修得者の気分メーターの数値（最大５点）の変遷を見てみることにする。

	前期	後期	
令和４年度	3.56	4.06	0.5 ポイント上昇
令和５年度	3.29	4.00	0.71 ポイント上昇

毎年受講生徒が変わるので、単純な比較は難しいものの、この２年間の傾向からは、生徒たちが本講座を通して少しずつ自信を積み重ねていることが読み取れる。生徒たちはこの講座で学んだことを活かして、それぞれの次のステージへと進んでいく。実際、ある生徒は、就職活動の場で面接官に「自分には自閉症があり、人前で話すことが苦手だったけれど、キャリア活動ＩＣの講座を取ったことにより、話すことに慣れてきた」と述べたという。（作業所の面接に同行した教員談）このような報告からは、本講座が開講されている意義を感じられる。

課題：講座と生徒のミスマッチ及び受講生徒数の減少

本講座のテーマは、「『ちょっと頑張る』を積み重ねる」というもので、講義中に人前で発表する機会を多く設けているが、毎年受講生の中にはそれを高いハードルと感じ、ドロップアウトしてしまう生徒がいる。一方で、今年度は、最後までやり遂げたものの講座の設定するレベルが易しすぎて自分には合わないと感じてしまう生徒もいたため、講座が想定している生徒像を、より明確に周知することによってミスマッチを防いでいく必要がある。また、近年は講座受講生の数が減少傾向にある。高校卒業後の自立と社会参加のために準備をする講座ではあるが、登録（履修前年度の３月）時点では、進路意識が曖昧なことにより、本講座の必要性を自分のこととして捉えられていない生徒が多いと考えられる。

④　今後の展望

毎年、最後のスクーリングで、生徒に「１年後になりたい自分の姿」を発表してもらっているが、その顔は、初回授業時とは比べ物にならないくらいに晴れやかで明るく、自信に満ち溢れている。まさに本校の「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」が実現できていることの表れである。今後も、生徒たちが経験を積み重ね、達成感と少しの自信を得て前向きな気持ちで社会へ踏み出していけるように、Ｋ２と連携してサポートを続けたい。また、３年間で見えてきた課題の解消に向けては、登録予定の生徒に向けて、「教員が行う説明会」以外に「実際の生徒たちの様子を見学」する機会を設けることや、現在は認めていないが、今後は生徒のレベルに応じて、ミスマッチが過ぎる場合には、本校の通級による指導講座「キャリア・ポート」との講座間の移動を柔軟に考えていくことなども模索していきたい。

Ⅴ　「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」に関する成果発表会報告

１．目的

文部科学省調査研究事業最終年度として、３年間の成果を報告するとともに、本校の取組みを全国に向けて発信する。

２．日時・場所

令和５年 11 月 16 日(木)　14:00～16:30　(13:30 受付開始)

本校４階(Ａ401～404、Ｃ401 音楽室、Ｃ406 生物学習室、Ｃ405 視聴覚学習室)

３．対象

県内公立高校、特別支援学校、近隣中学校(泉区、瀬谷区、戸塚区)、全通研加盟校、文科５期検討委員、検討委員以外の学校運営協議委員

４．内容と流れについて（２部構成）

１部	13：30～ 14：00～15：00	受付開始 デモスクーリングスタート（30 分×２セット）
視聴覚学習室へ移動・休憩		
２部	15：15～ 15：20～ 16：00～ 16：30	挨拶（県教委） 研究の概要と各班の発表 質疑応答、講評および挨拶（県教委、校長） 終了、会場片付け

５.デモスクーリング内容

教科(科目)	キーワード	使用する媒体・教材など
国語 (現代の国語)	協働的な学び	canva、Jamboard
地理歴史・公民 (歴史総合)	探究的な問いへの解答、共有	Jamboard、Google フォーム、 Google スプレッドシート
数学 (数学Ⅰ)	意見共有、振り返り、 自己評価	Google スライド、スプレッドシート、フォーム、 Jamboard、GRAPES、GeoGebra
保健体育 (保健２)	協働学習、調べ学習、共有	Google Classroom、Google スプレッドシート
英語 (英語コミュニケーションⅠ)	「いいね！」ボタン、 コメント機能、意見共有、 振り返り	スマホ、AppleTV、iPad、PowerPoint、Padlet
家庭 (生活と福祉)	実習、体験活動、 主体的な学び	壁面手話カード、ホワイトボード、実習グッズ

【１部　デモスクーリングの様子】

【国語（現代の国語）】

【地理歴史・公民（歴史総合）】

【数学（数学Ⅰ）】

【保健体育（保健２）】

【英語（英語コミュニケーションⅠ）】

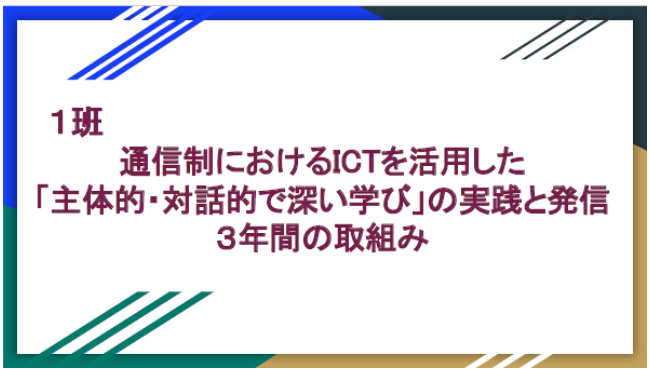
【家庭（生活と福祉）】

【Padlet を活用して自分の意見をスマホで入力】

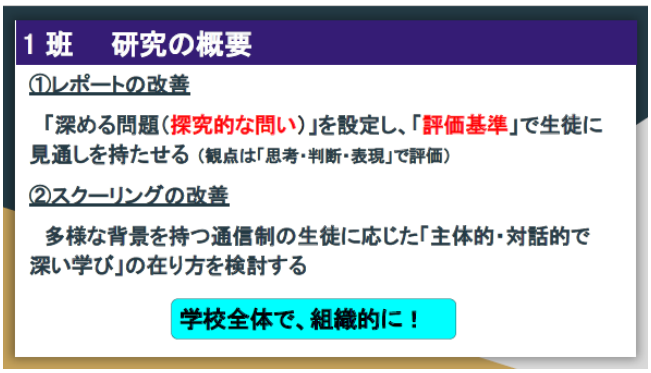
【Google スプレッドシートでの協働的な学び】

【２部　発表資料】

①

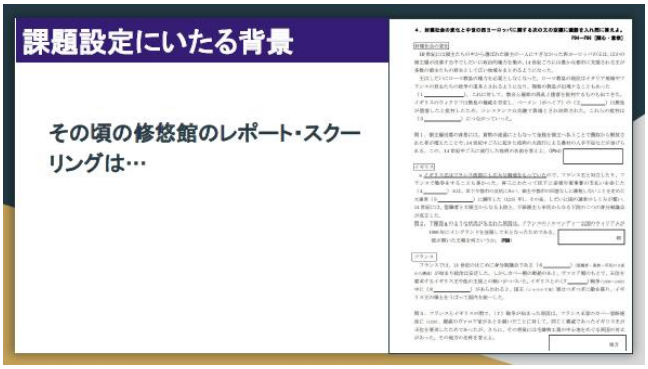


②

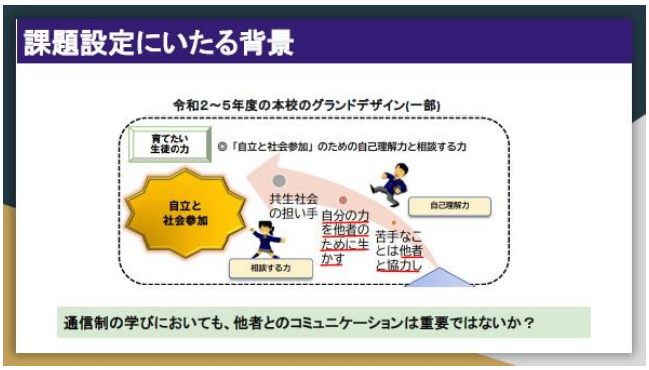


③

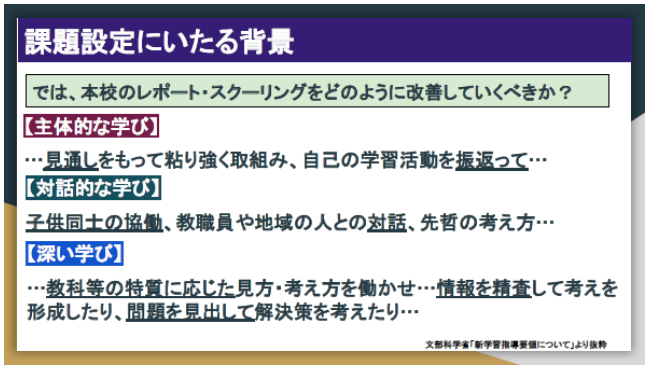
④



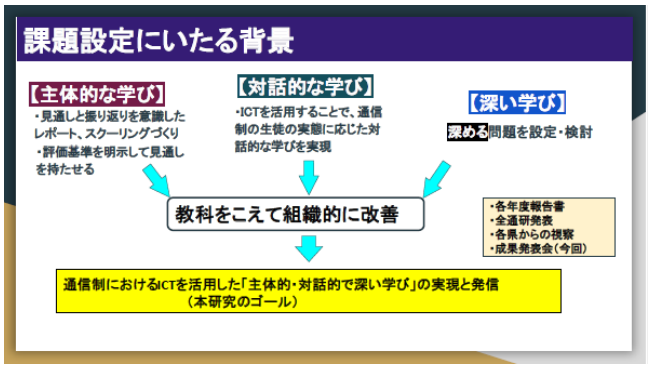
⑤



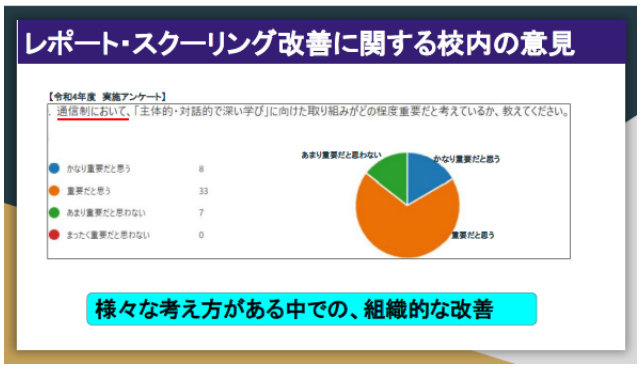
⑥



⑦



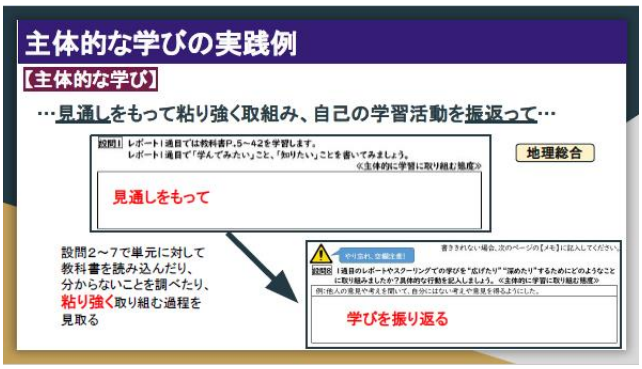
⑧



⑨

教科横断の検討会とスクーリング見学
教科横断レポート検討会
職員会議にて検討会内容を全体周知
前期
後期
R4
59件
27件
R5
71件
56件
(11/12現在)
教科横断スクーリング見学と振り返り
地歴
英語
理科
理科
英語
地歴
理科
保体
英語
情報
保体

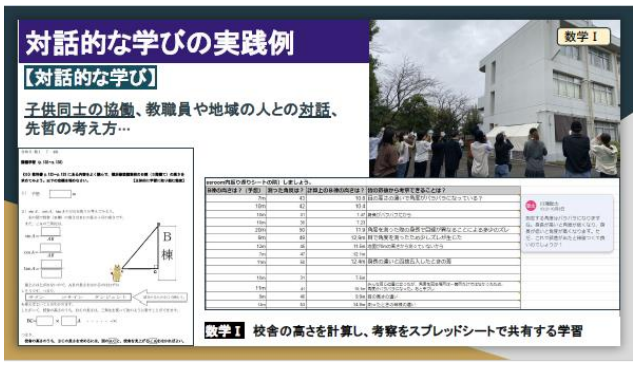
⑩


主体的な学びの実践例
【主体的な学び】
…見通しをもって粘り強く取組み、自己の学習活動を振返って…
地理総合
見通しをもって
設問2～7で単元に対して教科書を読み込んだり、分からないことを調べたり、粘り強く取り組む過程を見取る
学びを振り返る

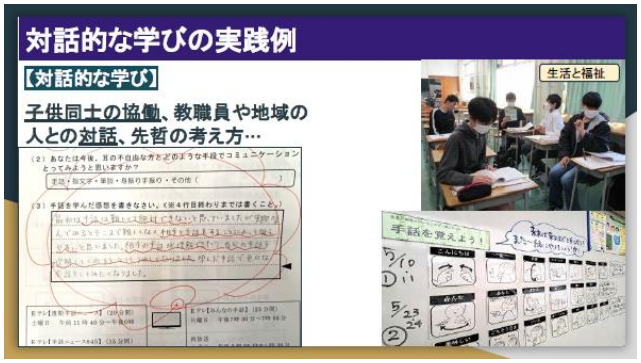
⑪

対話的な学びの実践例
【対話的な学び】
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方…
保健2
保健2 「思春期の健康課題」というレポートの問いについて、みんなで考えるスクーリング

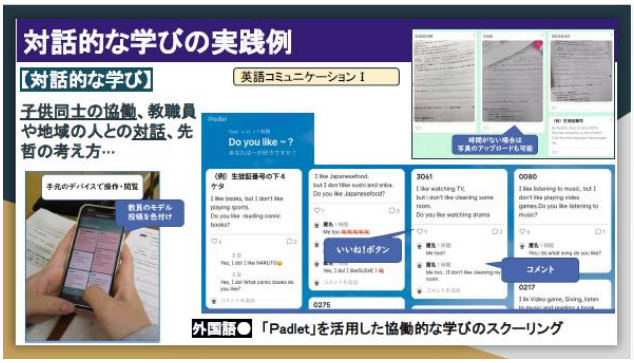
⑫


対話的な学びの実践例
【対話的な学び】
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方…
数学Ⅰ
数学Ⅰ 校舎の高さを計算し、考察をスプレッドシートで共有する学習

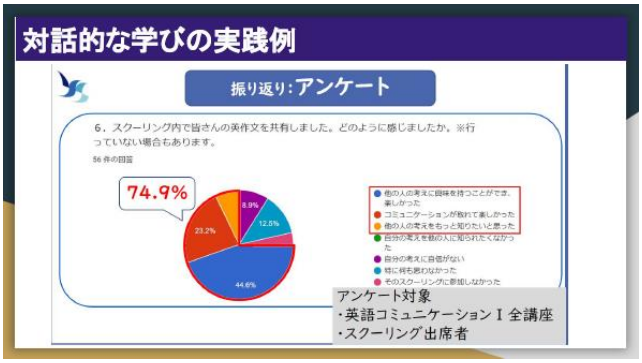
⑬


対話的な学びの実践例
【対話的な学び】
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方…
生活と福祉
手話を覚えよう!

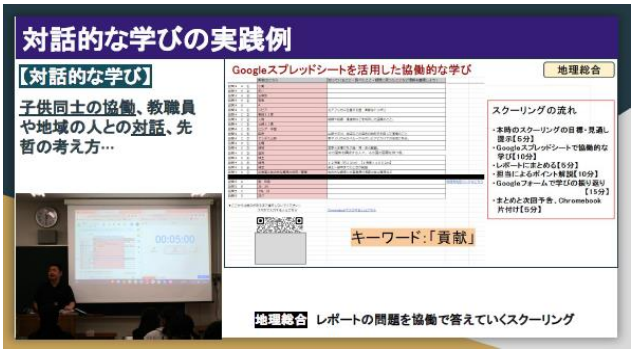
⑭


対話的な学びの実践例
【対話的な学び】
英語コミュニケーションⅠ
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方…
Do you like ~?
手元のデバイスで操作・閲覧
教員のモデル投稿を色付け
いいねボタン
コメント
外国語 「Padlet」を活用した協働的な学びのスクーリング

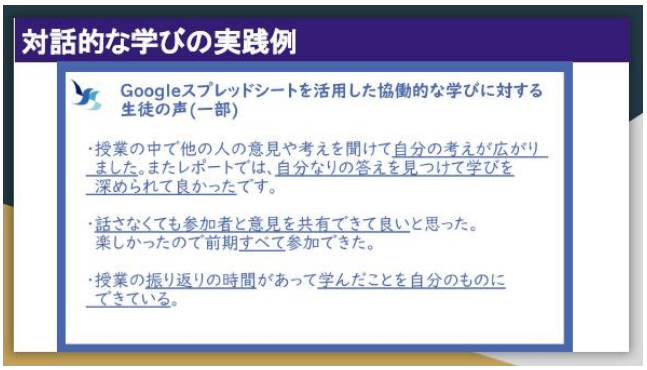
⑮


対話的な学びの実践例
振り返り:アンケート
6．スクーリング内で皆さんの英作文を共有しました。どのように感じましたか。※行っていない場合もあります。
56件の回答
74.9%
8.9%
12.5%
23.2%
44.6%
他の人の考えに興味を持つことができた。楽しかった
コミュニケーションが教材で楽しかった
他の人の考えをもっと知りたいと思った
自分の考えを他の人に知られたくなかった
自分の考えに自信がない
特に何も思わなかった
そのスクーリングに参加しなかった
アンケート対象
・英語コミュニケーションⅠ全講座
・スクーリング出席者

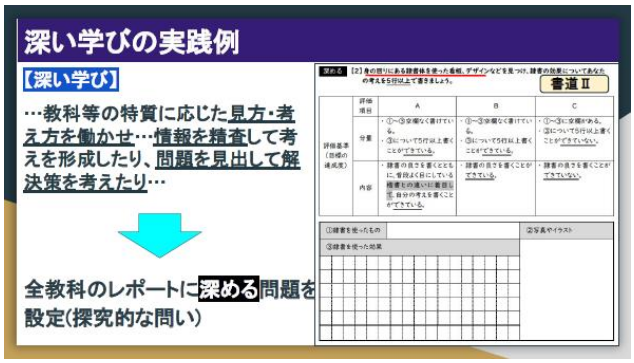
⑯


対話的な学びの実践例
【対話的な学び】
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方…
Googleスプレッドシートを活用した協働的な学び
地理総合
スクーリングの流れ
キーワード:「貢献」
地理総合 レポートの問題を協働で答えていくスクーリング

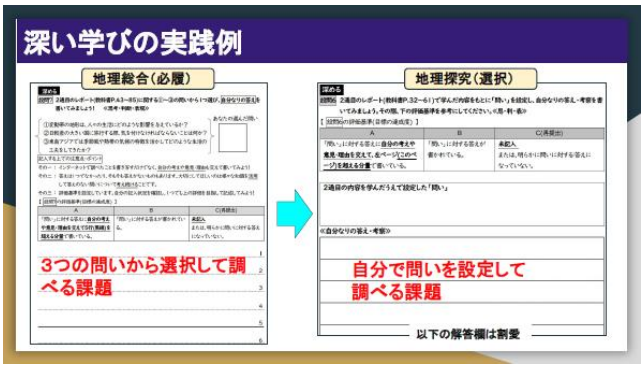
⑰


対話的な学びの実践例
Googleスプレッドシートを活用した協働的な学びに対する生徒の声(一部)
・授業の中で他の人の意見や考えを聞けて自分の考えが広がりました。またレポートでは、自分なりの答えを見つけて学びを深められて良かったです。
・話さなくても参加者と意見を共有できて良いと思った。楽しかったので前期すべて参加できた。
・授業の振り返りの時間があって学んだことを自分のものにできている。

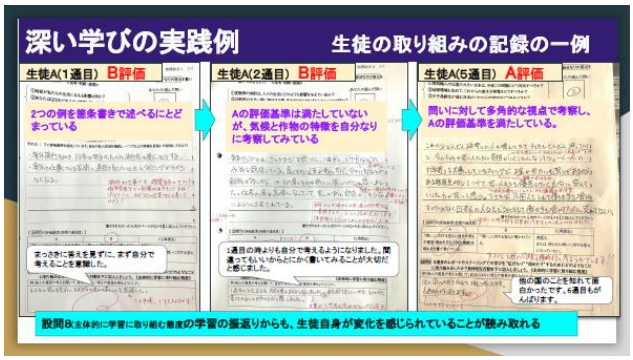
⑱


深い学びの実践例
【深い学び】
…教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせ…情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり…
全教科のレポートに深める問題を設定(探究的な問い)
書道Ⅱ

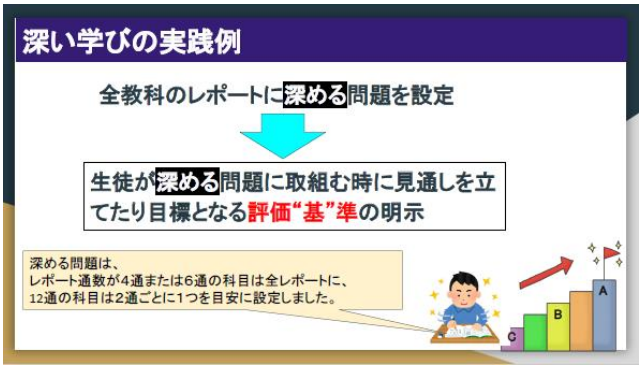
⑲


深い学びの実践例
地理総合(必履)
地理探究(選択)
3つの問いから選択して調べる課題
自分で問いを設定して調べる課題
以下の解答欄は割愛

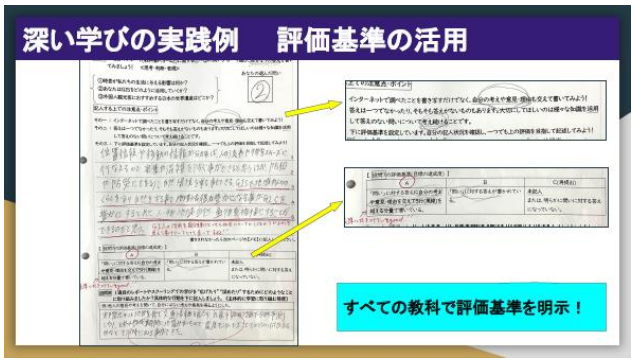
⑳


深い学びの実践例
生徒の取り組みの記録の一例
生徒A(1通目) B評価
生徒A(2通目) B評価
生徒A(5通目) A評価
2つの例を箇条書きで述べるにとどまっている
Aの評価基準は満たしていないが、気候と作物の特徴を自分なりに考察してみている
問いに対して多角的な視点で考察し、Aの評価基準を満たしている。
設問6(主体的に学習に取り組む態度)の学習の振返りからも、生徒自身が変化を感じられていることが読み取れる

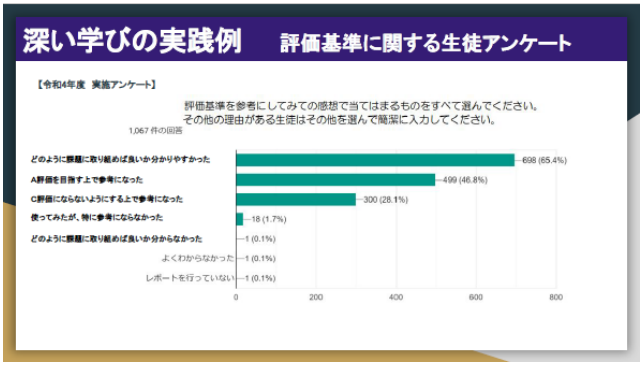
㉑


深い学びの実践例
全教科のレポートに深める問題を設定
生徒が深める問題に取組む時に見通しを立てたり目標となる評価"基"準の明示
深める問題は、
レポート通数が4通または6通の科目は全レポートに、
12通の科目は2通ごとに1つを目安に設定しました。

㉒


深い学びの実践例　評価基準の活用
すべての教科で評価基準を明示！

㉓


深い学びの実践例　評価基準に関する生徒アンケート
【令和4年度 実施アンケート】
評価基準を参考にしてみての感想で当てはまるものをすべて選んでください。
その他の理由がある生徒はその他を選んで簡潔に入力してください。
1,067 件の回答
どのように課題に取り組めば良いか分かりやすかった 698 (65.4%)
A評価を目指す上で参考になった 499 (46.8%)
C評価にならないようにする上で参考になった 300 (28.1%)
使ってみたが、特に参考にならなかった 18 (1.7%)
どのように課題に取り組めば良いか分からなかった 1 (0.1%)
よくわからなかった 1 (0.1%)
レポートを行っていない 1 (0.1%)
0
200
400
600
800

㉔

レポート改善が組織的なスクーリング改善に繋がる
重要!
レポート改善(Plan)
PLAN
DO
CHECK
ACT
レポート改善とスクーリング改善は一体のもの
スクーリングの実践
相互見学と工夫(Do)
検討会やアンケート実施(Check , Action)

㉕

取組みのまとめ

【主体的な学び】
・見通しと振り返りを意識したレポート、スクーリングづくり
・評価基準を明示して見通しを持たせる

【対話的な学び】
・ICTを活用することで、通信制の生徒の実態に応じた対話的な学びを実現

【深い学び】
深める問題を設定・検討

教科をこえて組織的に改善

・各年度報告書
・全通研発表
・各県からの視察
・成果発表会

通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現と発信
（本研究のゴール）

㉖

今後の課題

①組織的な改善をいかに継続していくか

②評価“規”準をいかに生徒・教員が意識できるようにしていくか

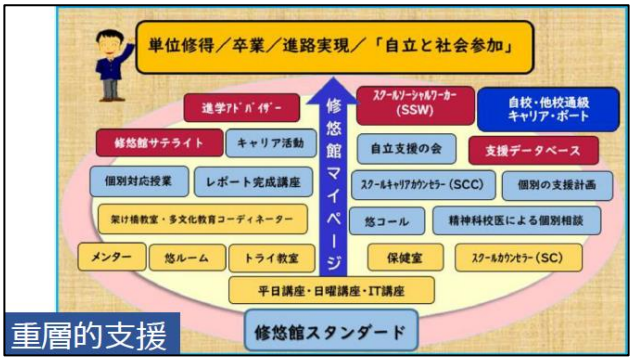
③通信制で進んでいるレポートのIT化、web化の流れの中でいかに改善していくべきか

㉗

2班

横浜修悠館高校の
協働的な「学びのコミュニティ」の改善・普及

㉘



㉙

重層的支援 ― 対話 → 学びのコミュニティ

●より効果的に運営する方法はないか

●横浜修悠館の取り組みを全国へ発信

㉚

トライ教室	小中学校の学びなおし
架け橋教室	外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援
キャリア・ポート	高校通級指導
キャリア活動C	進路体験活動

㉛

トライ教室	小中学校の学びなおし
対象	小中学校までの学びなおしが必要 集団学習・動画 → 学習が進まない
日時	スクーリングのある月曜、水曜、木曜 ５，６限（14:10～16:00）

１対１の個別学習が基本　　**自由参加**

㉜

トライ教室	小中学校の学びなおし

トライ教室	レポート完成講座
レポートの質問	レポートの質問
個別学習	個別学習
ゆっくり学習したい	

㉝

トライ教室　小中学校の学びなおし

YSKサポーター
（教員経験者が中心のボランティア）

学校に来ることに緊張 → 緊張が和らいでいく

㉞

トライ教室　小中学校の学びなおし

アンケート調査

生徒　必要とする生徒に支援が届いているか

YSKサポーター
より効果的な運営方法

㉟

トライ教室　小中学校の学びなおし

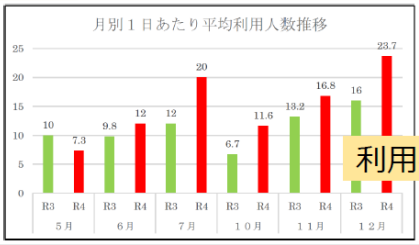
結果　**約40%**
- トライ教室のことを知らない
- 時間や場所がわからない
- 入るのに勇気がいる

支援が届いていない可能性

㊱

トライ教室　小中学校の学びなおし

対策　SHR・通信紙で広報、担任からの声掛け



利用者が1.3倍に

㊲

トライ教室　小中学校の学びなおし

YSKサポーターからは

生徒の成長が感じられる

課題　利用生徒が多いときの運営方法

教室のレイアウト
座席配置
→ **改善の余地あり**

㊳

トライ教室　小中学校の学びなおし

今後の展望　質の高い支援の継続

トライ教室

レポート完成講座　自習室

㊴

架け橋教室　外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

日時　月曜～木曜　11:00～14:00

担当
- 本校職員
- 学習支援員
- キャリア活動Ｊの担当教員
- 多文化教育コーディネーター

㊵

架け橋教室　外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

参加までの流れ

担当教員へ申し出
↓
状況の確認
↓
参加の許可

㊶

架け橋教室 外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

外国につながりのある生徒　約120名在籍

入学時アンケート
↓
支援が必要
↓
８組

支援が届きやすい環境づくり

㊷

架け橋教室 外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

８組
↓
約25%
↓
架け橋教室

８組以外
↓
行政
多文化教育コーディネーター

などの連携がきっかけ

㊸

架け橋教室 外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

アンケート調査

生徒　YSKサポーター

より効果的な運営方法

㊹

架け橋教室 外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

結果　集中して学習できる
すぐに質問ができる
友達ができる

学びのコミュニティとして機能している

㊺

架け橋教室 外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

結果　日数、時間、サポーターの人数
↓
教室の規模の拡大を望む声も

年度ごとの利用状況のばらつき → サポーターの確保が課題

㊻

架け橋教室 外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

サポーターからは
居場所　**大きな励み**

課題　個別対応が必須
↓
対応しきれないことも

㊼

架け橋教室 外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

今後の展望
活用状況に応じた柔軟な教室運営

一方で、

落ち着いた環境維持のためのルール作り
も重要

㊽

キャリア・ポート 高校通級指導

ポート　＝　港

自立した生活を送るための準備

将来に向けて旅立つ場所

㊾

キャリア・ポート　高校通級指導

通級による指導

生徒個々の実態に応じ
学習や生活上の困難を克服

修悠館では　安心して過ごせる居場所

小集団　→　コミュニケーション

働くことをテーマにした活動

㊿

キャリア・ポート　高校通級指導

自校のみ
月曜日　１校時
木曜日　４校時

自校と他校の合同
日曜日（隔週）
４，５校時

生徒の実態に応じた小集団 ➡ 複数名の教員が指導

51

キャリア・ポート　高校通級指導

利用までの流れ

他校　見学を必須

ミスマッチを防ぐため

自校　生徒からの申し出

教員からの声かけ　←こちらが多い

52

キャリア・ポート　高校通級指導

課題　声かけから利用に至った生徒

⬇

継続した活動に至らないことがある

53

キャリア・ポート　高校通級指導

対策　自校の生徒・保護者

見学・体験の機会を設定

教員　年2回の研修会

見学の機会を設定

➡ **生徒・保護者へ適切な情報提供**

54

キャリア・ポート　高校通級指導

今後の展望

ミスマッチをなくす取り組みの継続

学校全体で関わる環境の整備

55

キャリア活動C　進路体験活動

運営形式　学校設定科目

湘南・横浜若者サポートステーションと連携

不登校や引きこもり、発達課題などを抱えた
若者の自立就労支援サポート

56

キャリア活動C　進路体験活動

活動内容

各種講座　働く前の基礎講座
職業人セミナー　など

職場体験・職場実習・夏季インターンシップ

自立と社会参加のための基礎力　自信

57

キャリア活動C　進路体験活動

対象　本校在籍２年目以降

学習習慣が身についている

職業観の育成・働く経験が必要

担任等が声をかけ、受講を促す

58

キャリア活動C　進路体験活動

教員の視点　コミュニケーションへの積極性

自信　**成長が見られる**

課題　生徒は成長を実感しているか

59

キャリア活動C　進路体験活動

方法　毎時のレポートに自己評価欄を導入

気分メーター

60

キャリア活動C　進路体験活動

結果

前期平均	3.6
後期平均	4.1

自信を積み重ね、自己肯定感が醸成されている

61

キャリア活動C　進路体験活動

今後の展望

ミスマッチをなくす取り組み

生徒・教員の双方の視点から検討

令和５年度　文部科学省調査研究事業　成果発表会（令和５年 11 月 16 日）
２部全体会の様子は右のＱＲコードから読み取り、視聴できます。
※ＱＲコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

【参加者アンケート結果】

❶１部：デモスクーリングの感想や印象に残ったことなどがございましたら教えてください。

・各先生で考えて色々なものを取組んでいるのが良かった

・若い先生方の熱意

・スプレッドシートを使った(挙手・話し合いに頼らない)意見共有・学び合い、通信制におけるスクーリングの設定・効果について

・授業準備にかなりの負担があるかと思いますが、クラスルームやフォームの活用の仕方、ルーブリック評価を用意されているなど様々なところに生徒への配慮を感じました。

・一つのスプレッドシートにみんなで回答をいれるのが新鮮でした。早速取り入れてみたいと思いました。また、本校の社会や保健の授業も穴埋めが中心になっていますが、深める問題を毎回取り入れることで、能動的な学習が促せると思いました。

・ＩＣＴを活用して他者とコミュニケーションをとることや、深い学びを意識した問題を１問レポートにとりいれることが参考になりました。

・書画カメラを使って授業を行うことや、実習をレポートに取り入れて、生徒のレベルを考慮して作成しているなど、先生方が教材研究をしっかりされていると思いました。

・家庭科にて「昔は、平等性を重視していて実習をしていなかった」ということから授業改善を図られたというお話が印象的でした。今回の「多様性」というテーマは、平等性とは相性が悪い。しかし、過去の行き過ぎた平等性を少しずつでも改善していくことが「多様性」につながると発表をお伺いしていて感じました。

・家庭は、スクーリングで生徒が活動している様子が見えるようで、「失敗しない実習」が印象的でした。また、数学では、話さなくても意見共有する方法、フォームによる繰り返しの学習が素晴らしいと思いました。

・家庭科　福祉での冒頭の手話の挨拶は、相手の顔を必ず見る、ということで納得。人との対話を苦手とする子もせざるを得ない状況を自然に作れる事と、成功体験を積み重ねられるための、先生の努力に、拍手です。地理歴史・公民で、クロムブックでのコメント入力画面で、元の問題の絵が見えなくなってしまったことが、パソコン音痴の私には「どうしよう?」とあたふたする羽目に。先生もご自分でそこを指摘していらしたので、きっと考えて下さっていると思います。

・高校の授業としてはレベルが低い。中学レベルではないかと思う。小中学校教育の尻拭いをしている感じ。

・普段からＩＣＴ機器を使用して、分かりやすく解説されている点。普通かもしれませんが、先生方が、「生徒さん」って呼ばれていて、すごい共感しました。

❷２部：全体発表の感想や印象に残ったことなどがございましたら教えてください。

・教職員の雰囲気が良い

・修悠館高校の一体感

・個別の対応の充実や評価の公平性の大切さ、コミュニケーションの付加に対する配慮等

・とてもわかりやすい発表でした。日常の授業もきっとこのようにわかりやすいのだろうと思いました。

・時間と労力をかけて今の学校を創り上げたことが伝わりました。また、好評や質問の際にあったように、職員の方々の良好な関係性が強みであると思いました。そのことにより連携が深まり、生徒を多角的に見ることで教育に良い影響を与えているのではないかと思いました。

・本校の普通科はクリエイティブスクール（※神奈川県立高校で、一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮できなかった生徒に対して、これまで以上に学習意欲を高める取組みを行う学校）なので、生徒層が似ているなというのが、第一印象でした。今回紹介していただいた取組み内容も、本校が目指すべき所とほぼ合致していたと思います。本校でもトライ教室のような、ボランティアさんを中心にした学習支援教室を放課後におこなっていますが、生徒が集まらず、また数人きても継続しないという状況です。資料では担任の声掛けや広報活動により、生徒数が増えたとのことですが、そのほかに何か生徒を学習支援教室に向かわせるような取組みがあったら、教えていただきたいです。
・すばらしい研究発表でした。組織的に先生方が取組んでいることや、生徒の実態を把握し、職員間で情報共有が随時されていること、教科横断的にレポートやスクーリングの研究をされているなど、先生方が熱心に取組んでいる成果だと感じました。
・先生方が、組織的に授業改善に取組んでいる様子が伝わりました。また、個に応じた指導が充実していると改めて感じ、できることは本校でも取り入れたいと思いました。
・生徒さんのレポートを見ながら、一人ひとりの学びの進歩を、汲み取っていく先生の読解力（生徒の思考を汲み取る）に敬意を感じます。
・高校の先生としては高校らしい授業をしたいのではないかと思う、それを思うと教えることのモチベーションを保つのは大変なことだ。頭が下がります。
・支援する環境が充実しているところ

❸デモスクーリング・全体発表を受けて、貴校で実施・活用できそうなものはありましたか？
あるとしたらどのような点ですか？
・Google フォームの活用
・スクーリングの内容等
・生活経験の補い方、失敗を恐れたりコミュニケーションへの抵抗が強かったりする生徒への意思表出・学びの支援等多々ありました。
・修悠館データベースです。本校もクリエイティブスクールであり、様々な課題を抱えた生徒が在籍しています。教職員はもちろんのこと保護者、地域との連携を重ねて情報共有することが大切であると思っています。そのため、本校にも生徒カルテのようなものがあると良いかと思いました。
・スプレッドシートの活用のしかた。各教科のレポートの作り方(プリントにかえて)
・レポートでは深い学びの問題、実習の代替問題などを取り入れていきたい。
・ＩＣＴを効果的に活用した意見共有、体験的な学び、学びを深める方法等を学校で共有し、取り入れていきたいと思っています。
・学び直しや、外国籍をまず調査します

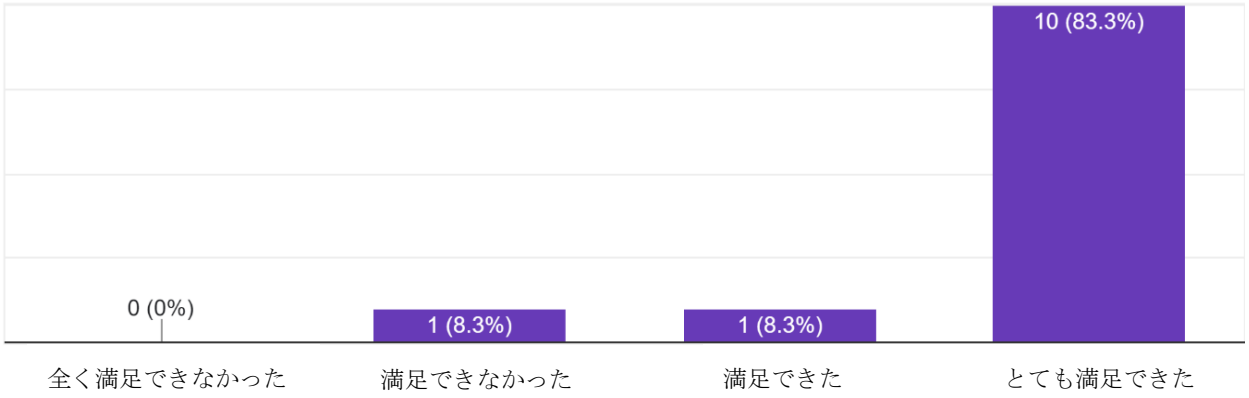
❹貴校でのスクーリング・レポート・授業で「ＩＣＴ活用」や「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」や「協働的な学び」の工夫などがありましたら教えてください。
・クラウド上の学習支援アプリの使用
・ロイロノートの活用
・既存の企業や省庁の HP 等を活用した消費者教育の体験的授業や調理手順の視覚化、発音不明瞭・場面緘黙といった生徒の意思表出
・工夫とはいえないが、家庭科としてコロナが落ち着いたので、選択科目ではスクーリングで実験、実習

を取り入れている。

・ＩＣＴを活用した意見共有（フォーム、Jamboard、スプレッドシート）、クラスルームによる学びの定着（課題提出、小テスト）、個別最適な学びとして、クラスルームに動画配信などを行い、繰り返しの学習、個に応じた学びのペース等を行っています。

・個人的にですが、LINE のトークルームを使用しています。

❺今回の成果発表会の満足度はいかがでしたか？



❻　❺の質問の回答理由を教えてください。

・学び多い発表会だったので。

・出席が大前提のようになっている本教室においても出席そのものやコミュニケーション、新しいことに取り組むことへのハードルが高い生徒が多々いる中で、情報共有やＩＣＴの活用、レポートとスクーリングの効果的な設定による個別最適な学びについて実践を含めて知ることができ、とてもありがたい機会であったため。

・テーマについてとても学びが多かったです！

・本校において活用することのできる学びが多くあったためです。本日はありがとうございました。

・通信制と全日制というちがいはありますが、本校でも取り入れたい取り組みがたくさんあり、とても勉強になりました。

・他校の実践を知る機会がなかったので、実際のスクーリングが体験できたことなど、とても参考になりました。

・会話が苦手な生徒、不登校だった生徒、特別な配慮が必要な生徒が本校にもおります。学習指導、学習支援、卒業後の進路指導支援をしていく上でのヒントをたくさんいただけました。感謝しております。ありがとうございました。

・これからもいろいろな生徒さんが入学して来る事を前提に、まだまだ進化出来ると思ったので

・先生方の一体感

文部科学省　「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

【検討会議委員】

氏名	所属・職名
森田　裕介	早稲田大学人間科学学術院　教授
増田　謙太郎	東京学芸大学教職大学院　准教授
森脇　美也子	横浜市こども青少年局 青少年部青少年育成課　課長
岩間　美由紀	湘南・横浜サポートステーション統括コーディネーター
永島　靖之	横浜市立中和田中学校　校長
奥田　恵理子	横浜修悠館高等学校保護者コミュニティ　代表委員
星野　留美	神奈川県立総合教育センター教育支援部教育相談課　課長
渡貫　由季子	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課　課長
永末　福太郎	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課　指導主事
稲﨑　由依	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課　指導主事

【校内研究担当者】

氏名	職名		所属・職名
米山　教子	校長		総括
田上　英輔	副校長		総務
小笹　雄二	教頭		総務
柿澤　剛	事務長		会計事務総括
真島　徹也	教諭	研究主任	地理歴史・公民科（キャリア教育推進グループ）
深田　幸宏	教諭	１班班長	地理歴史・公民科（教育相談・学習支援グループ）
筏　有司	総括教諭	２班班長	理科（経営企画・広報グループ）
吉見　志奈子	教諭	１班	国語科（生徒活動支援グループ）
大澤　浩祐	教諭	１班	地理歴史・公民科（学校運営グループ）
川瀬　聡太	教諭	１班	数学科（学務グループ）
山口　純一郎	教諭	１班	保健体育科（学校運営グループ）
大城　省吾	教諭	１班	保健体育科（生徒活動支援グループ）
坂井　一郎	教諭	１班	保健体育科（キャリア教育推進グループ）
渋谷　優里	教諭	１班	芸術（美術）科（学務グループ）
橋本　真人	教諭	１班	外国語（英語）科（生徒活動支援グループ）
加藤　早紀	教諭	１班	家庭科（経営企画・広報グループ）
中野　周平	教諭	１班	理科・情報科（学務グループ）
竹田　昌平	教諭	２班	数学科（教育相談・学習支援グループ）
小倉　奈津子	教諭	２班	国語科（キャリア教育推進グループ）
結城　佳織	教諭	２班	保健体育科（経営企画・広報グループ）

文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信及び

横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

令和５年度　最終年度報告書

令和６年３月発行

発行者　神奈川県立横浜修悠館高等学校

編集者　文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

調査研究校内委員会

印刷・製本　山口印刷所